

# 別府市の地域福祉に関する 意識調査結果報告書

令和4年3月

別 府 市



# 目 次

---

第1章 調査の概要 .....	1
第2章 調査の結果 .....	2
I. 回答者の基本属性等について.....	2
II. 地域生活について.....	9
III. 地域活動への参加について.....	30
IV. 福祉サービスについて.....	46
V. 災害時の対応について.....	55
VI. 福祉施策全般について.....	60
VII. 再犯防止対策について.....	63
第3章 調査結果のまとめ .....	70
第4章 調査票.....	74



# 第1章 調査の概要

## I. 調査の目的

市民の地域における暮らしや地域福祉についてのご意見、地域福祉活動への参加意向などを把握することによって、今後の地域福祉推進の参考とするため

## II. 調査の対象

住民基本台帳に基づき、満20歳以上の市民の中から無作為抽出した3,000人

## III. 調査の方法

郵送による配布、回収

## IV. 調査の期間

令和3年11月11日（木）から令和3年11月29日（月）まで

（ただし、令和3年12月17日（金）回収分までを集計に含めています。）

## V. 回収の結果

配布数：3,000件      有効回収数：1,324件      回収率：44.1%

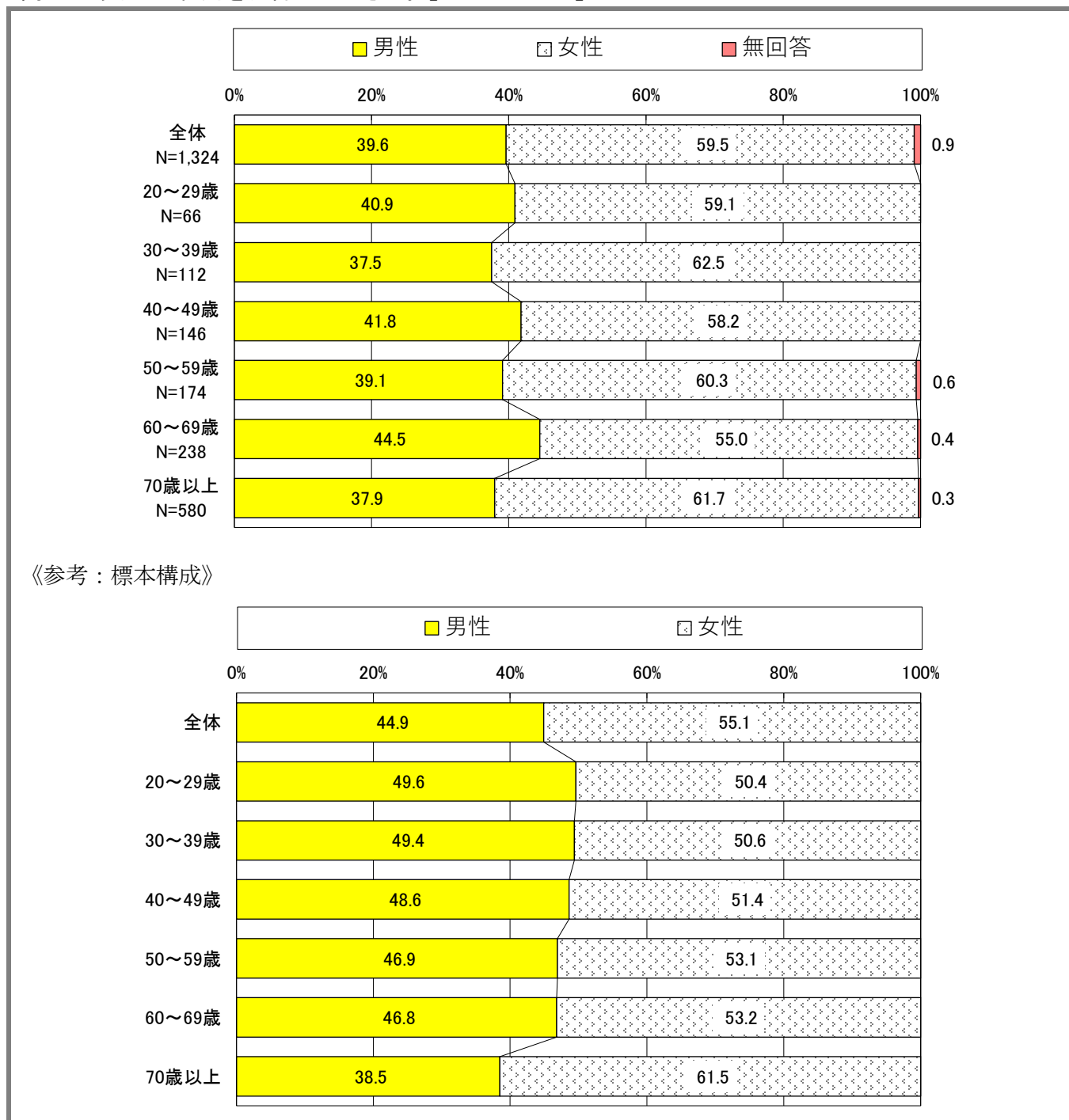
## VI. 報告書の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- (2) 全体集計の基数（N）には属性不明者も含まれるため、クロス集計の内訳の基数の合計とは必ずしも一致しません。
- (3) 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- (4) グラフやコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。

## 第2章 調査の結果

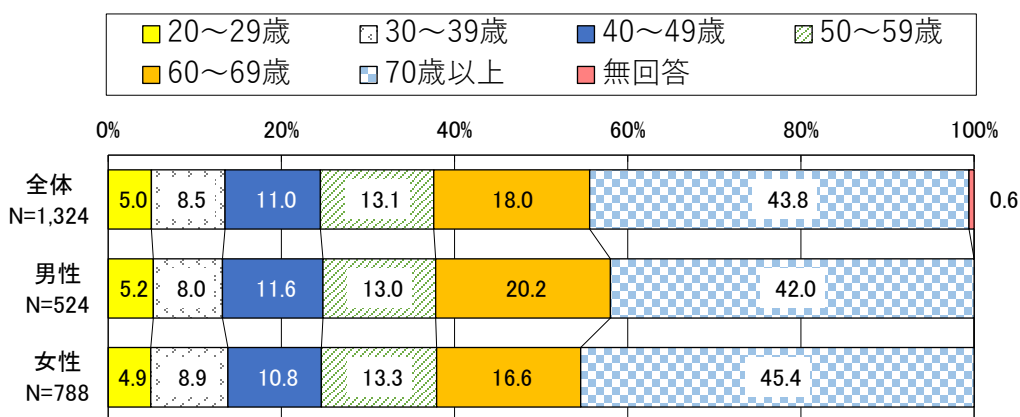
### I. 回答者の基本属性等について

問1 あなたの性別をお答えください。【〇は1つだけ】

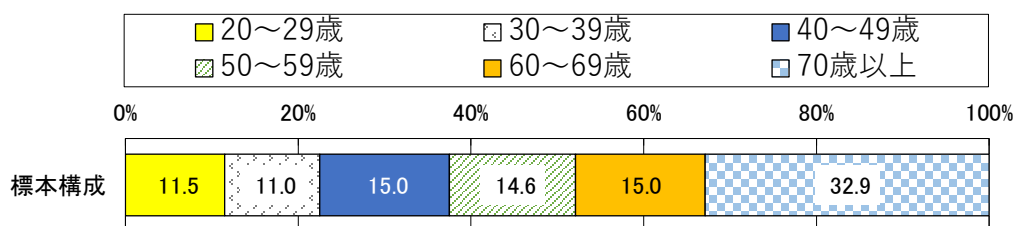


● 回答者の性別については、男性が39.6%、女性が59.5%となっています。

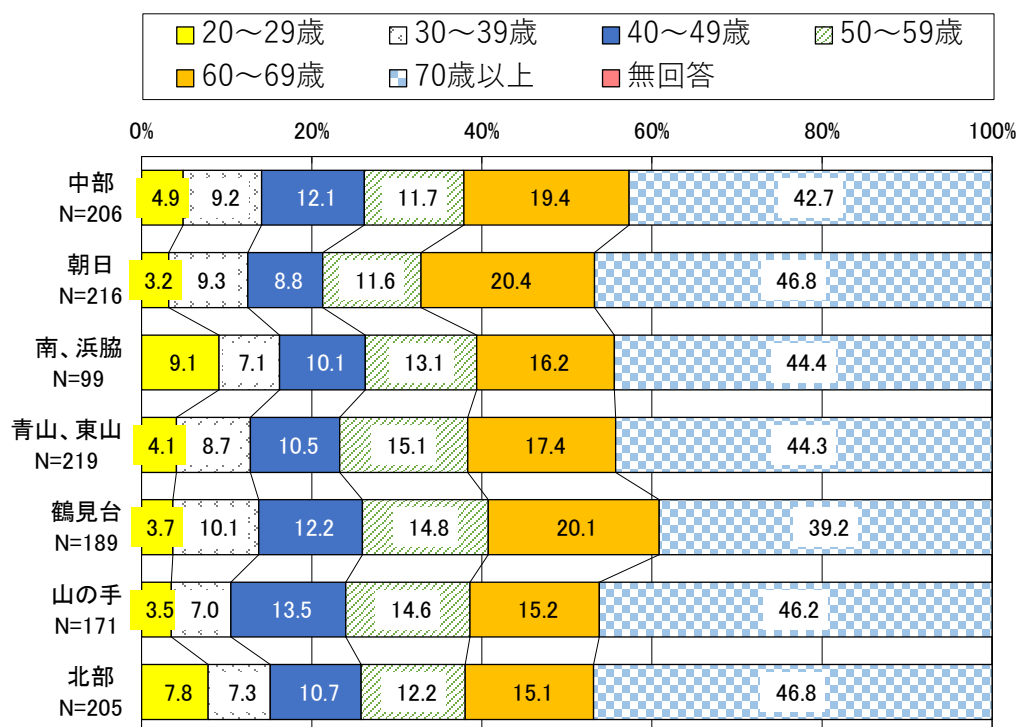
問2 あなたの年齢をお答えください。【〇は1つだけ】（令和3年11月1日時点）



《参考：標本構成》

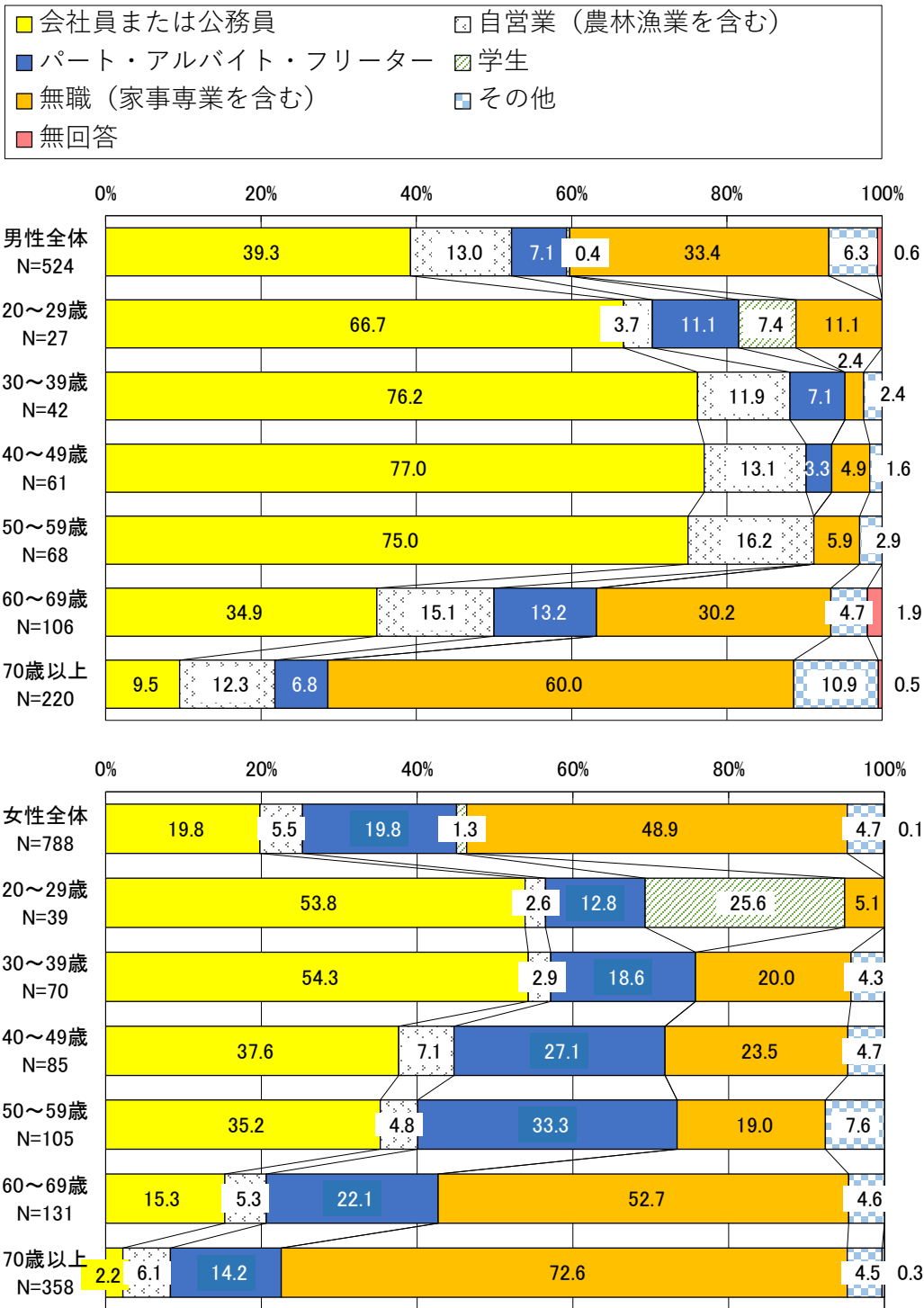


《居住地区別クロス集計結果》



- 回答者の年齢構成は上のとおりで、「70歳以上」が全体の43.8%、「60～69歳」18.0%を合わせた60歳以上が全体の61.8%を占めています。
- 標本構成と比較すると、60歳以上に比べ60歳未満の回答率が低かったことがわかります。
- 居住地区別に見ると、60歳未満の割合が最も高かったのは「鶴見台」40.8%、最も低かったのは「朝日」32.9%となっています。

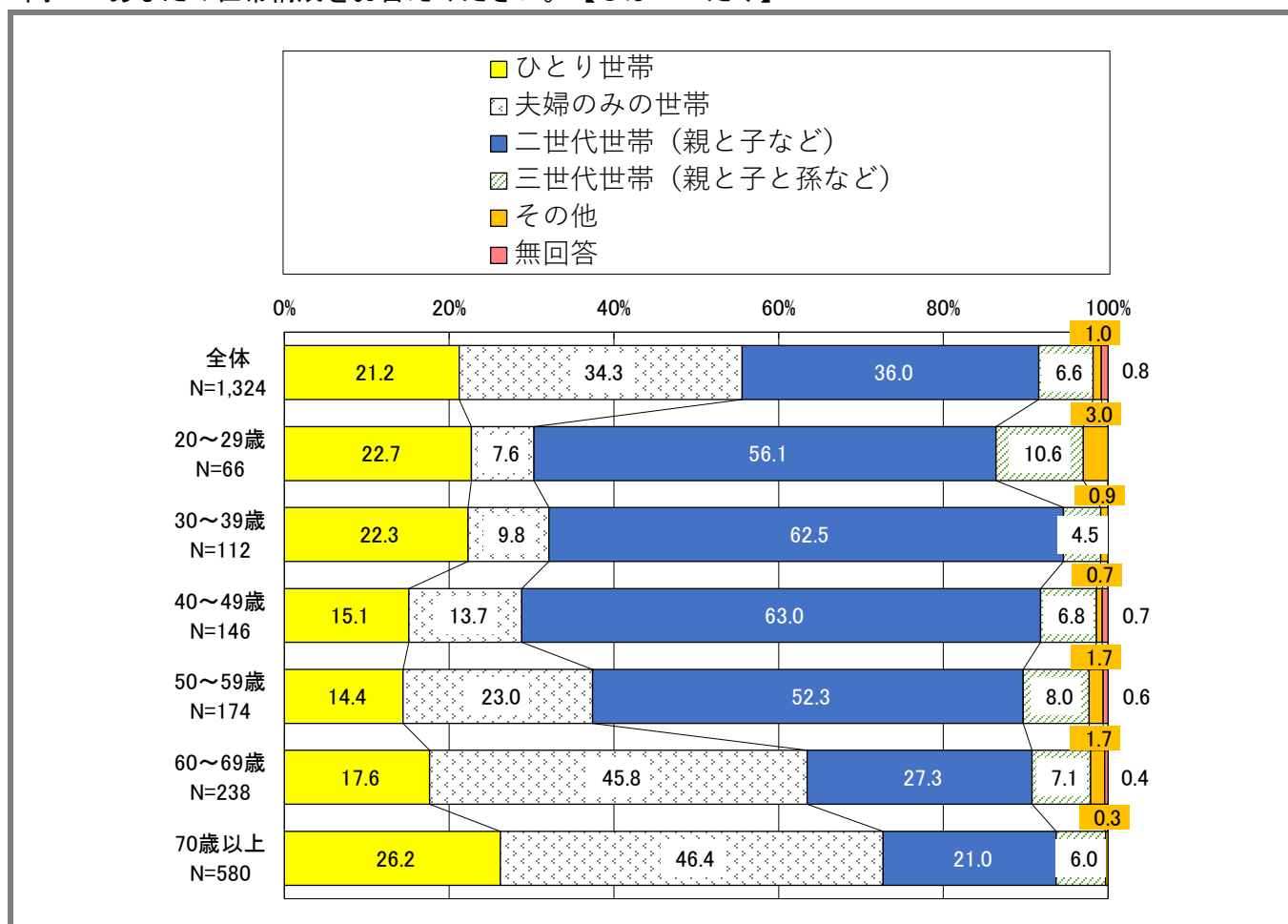
問3 あなたの職業をお答えください。【〇は1つだけ】



- 回答者の職業についての男女別・年齢階層別の集計結果は上のおりで、女性は男性に比べ「無職 (家事専業を含む)」のほか、「パート・アルバイト・フリーター」の割合が高くなっています。
- 集計結果を見ると、男性で3割、女性で2割の人が70歳を超えても就業していることがわかります。



## 問4 あなたの世帯構成をお答えください。【〇は1つだけ】



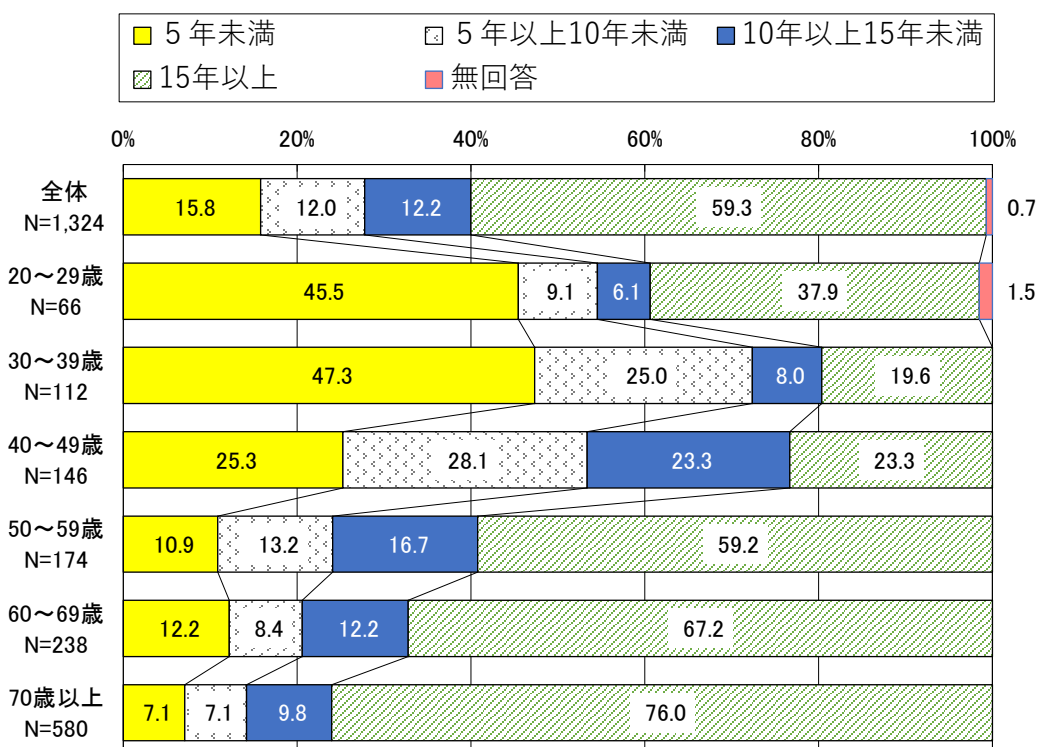
- 回答者の世帯構成は、全体では「二世帯世帯」が36.0%と最も多くなっていますが、年齢階層別に見ると、60歳以上は「夫婦のみの世帯」の割合が高くなっています。

問5 あなたがお住まいの地区をお答えください。地区がわからない方は、封筒の宛名ラベルに記載しておりますので、それを見てお答えください。【〇は1つだけ】

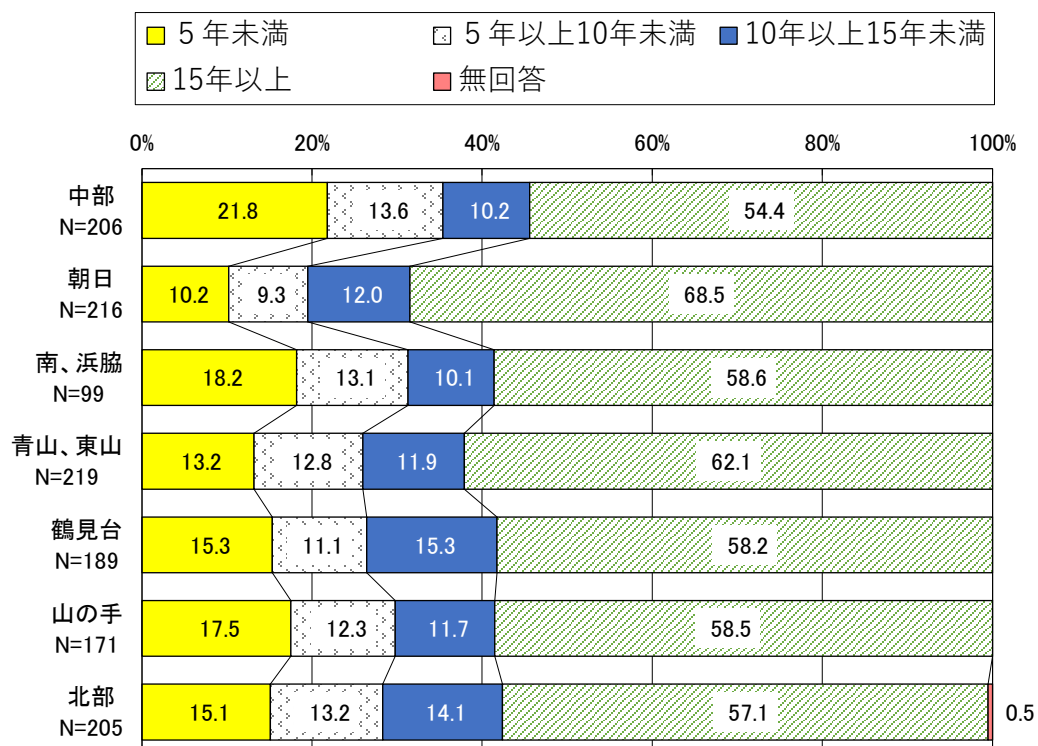


- 回答者の居住地区の分布は上のおりで、「青山、東山」と回答した人の割合が全体の16.5%と最も高く、「朝日」が16.3%、「中部」が15.6%、「北部」が15.5%と続いています。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「北部」が24.2%と高い割合となっています。

問6 現在の場所での居住年数を教えてください。【〇は1つだけ】

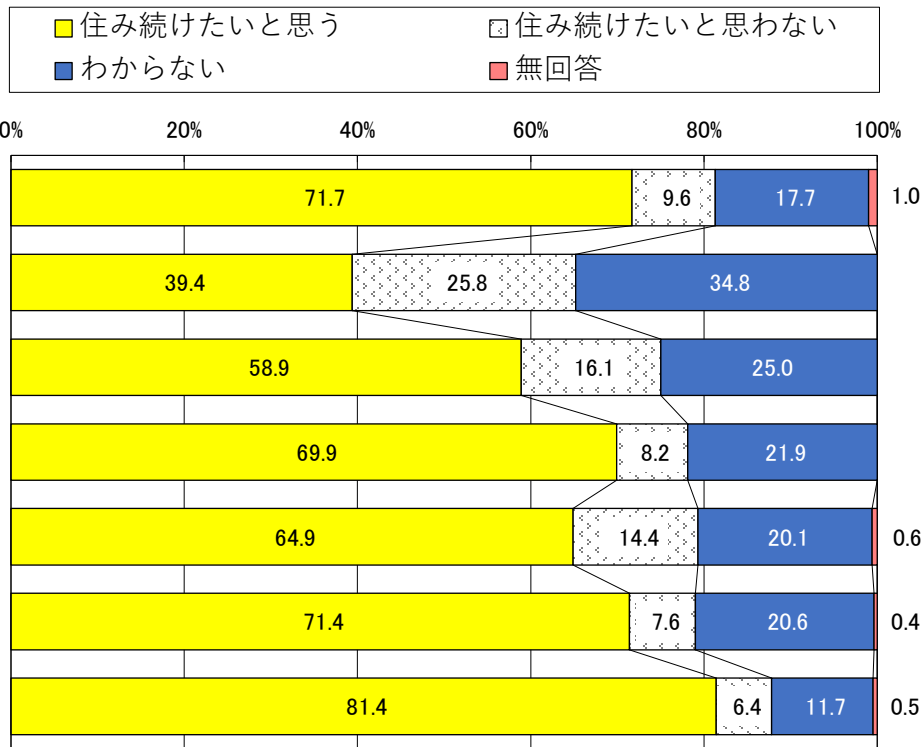


《居住地区別クロス集計結果》

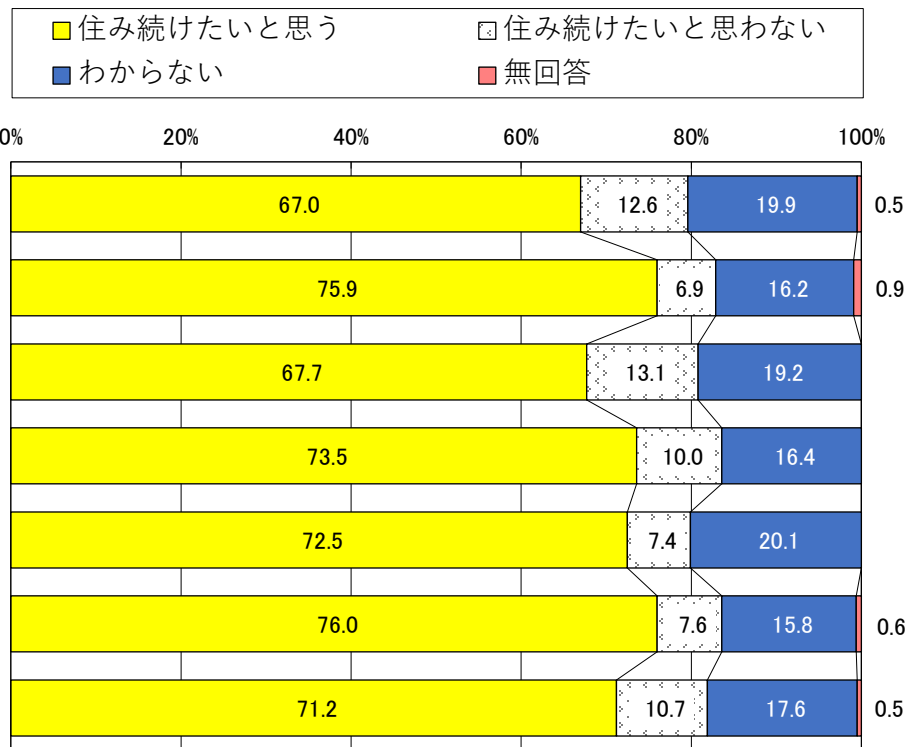


- 回答者の現在の場所での居住年数は上のおりで、「15年以上」と回答した人の割合が全体の59.3%を占めており、概ね年齢階層が高くなるにつれて居住年数も高くなっています。
- 居住地区別に見ると、居住年数「15年以上」の割合が最も高かったのは「朝日」で68.5%、「5年未満」の割合が最も高かったのは「中部」で21.8%となっています。

問7 現在の場所に住み続けたいと思いますか。【〇は1つだけ】



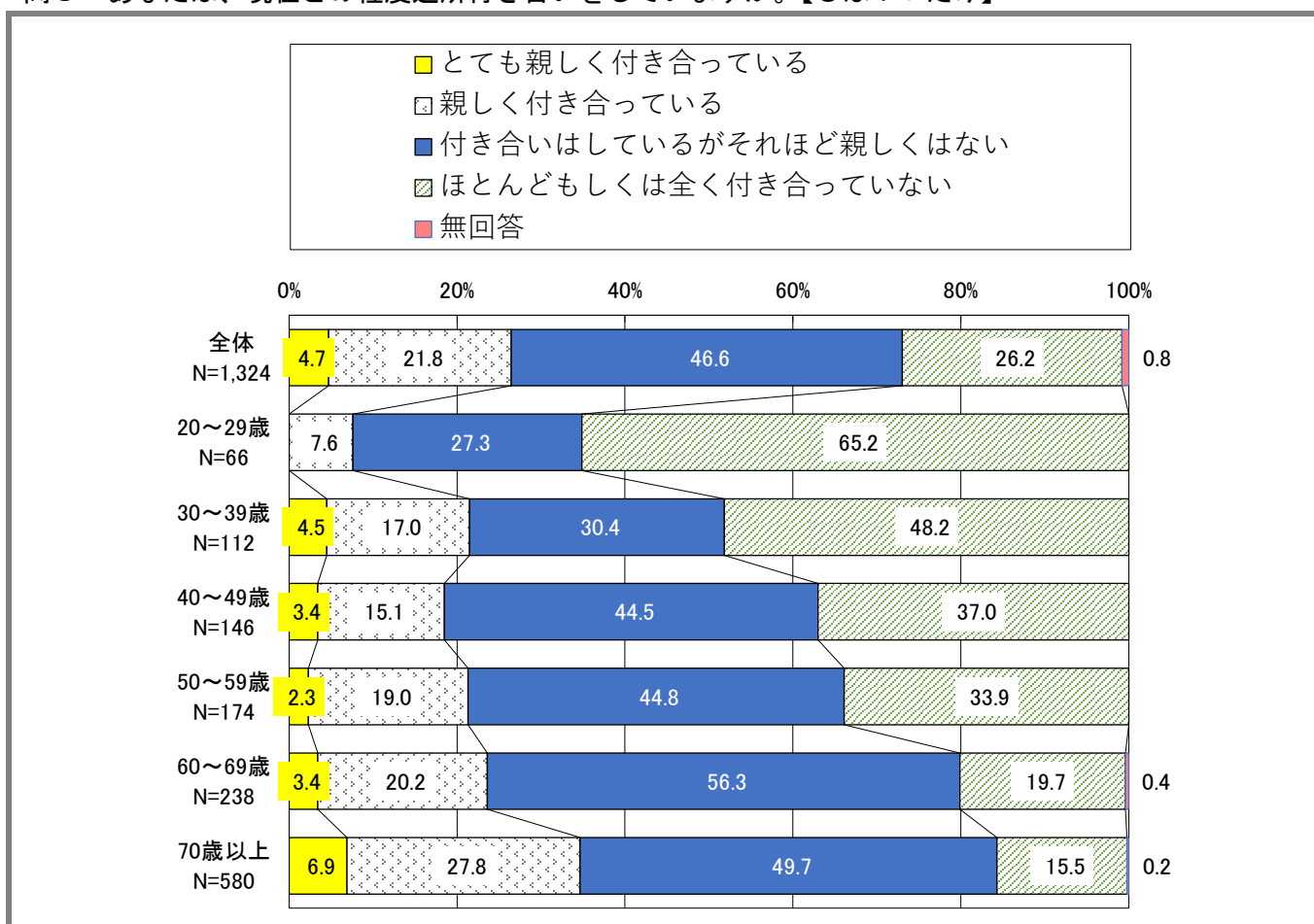
《居住地区別クロス集計結果》



- 現在の場所に「住み続けたいと思う」と回答した人の割合は全体の 71.7%を占めており、概ね年齢階層が高くなるにつれてその割合も高くなっています。
- 「住み続けたいと思わない」と回答した人の割合は全体の 9.6%で、年齢階層別に見ると「20～29歳」が 25.8%と最も高くなっています。

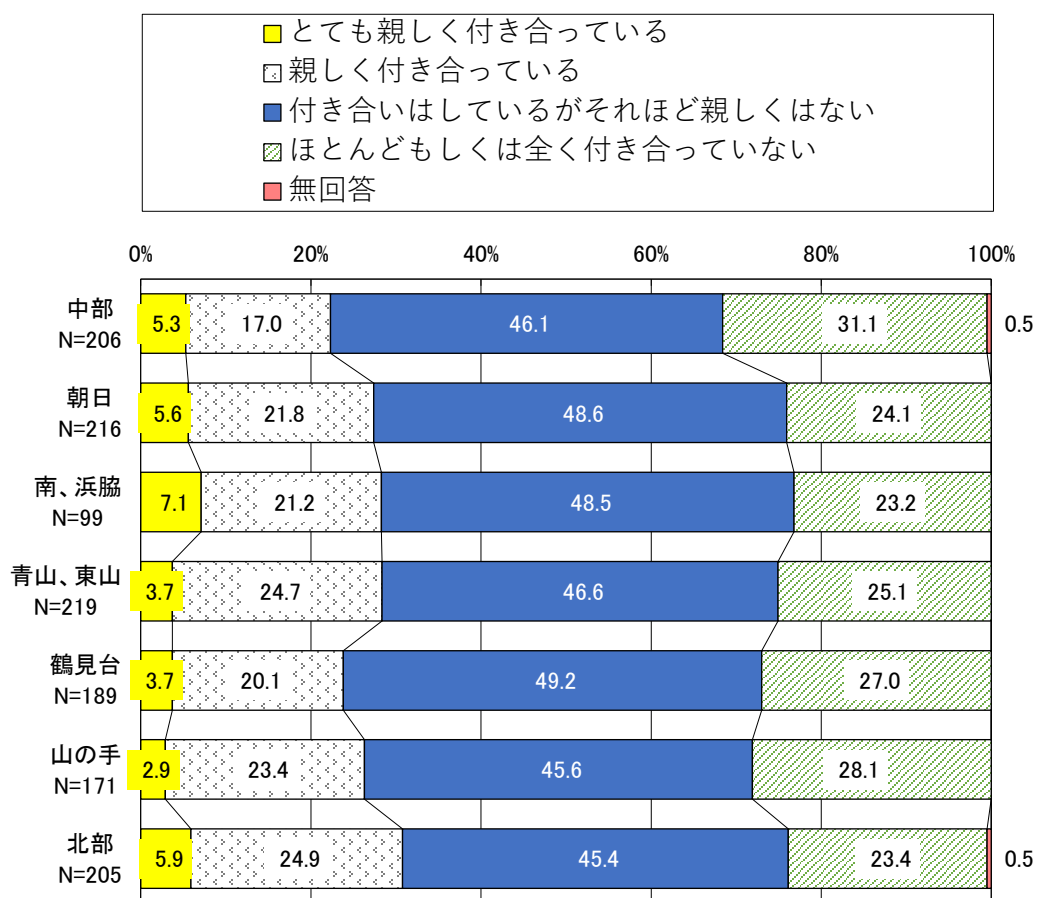
## Ⅱ. 地域生活について

問8 あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。【〇は1つだけ】



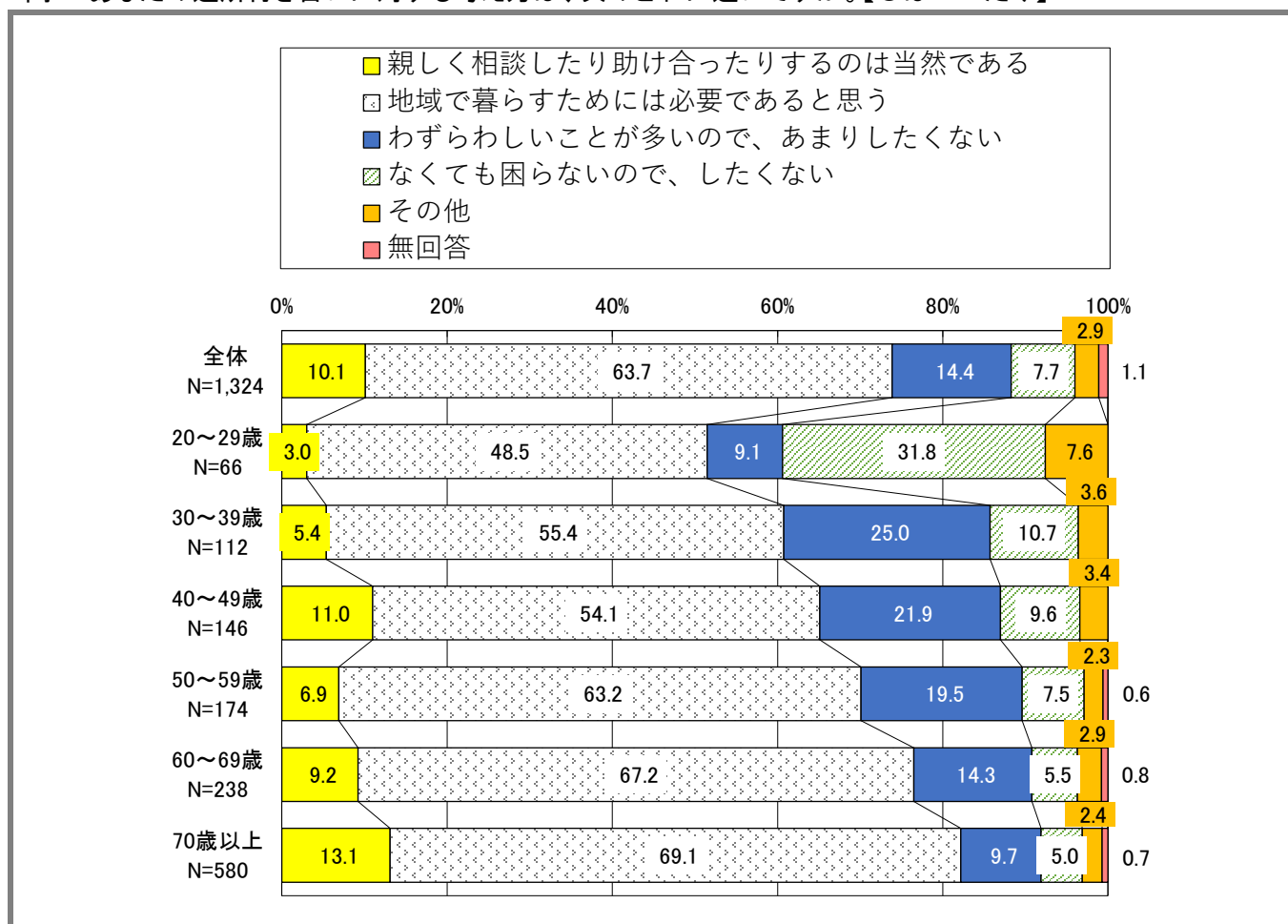
- 近所付き合いの程度について、「とても親しく付き合っている」と回答した人は全体の4.7%で、「親しく付き合っている」と回答した人21.8%を合わせると26.5%となります。「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人は26.2%となっています。
- 年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるに連れて近所付き合いの親密度が低下する傾向にあり、「20～29歳」では「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人の割合が65.2%を占めています。

《居住地区別クロス集計結果》



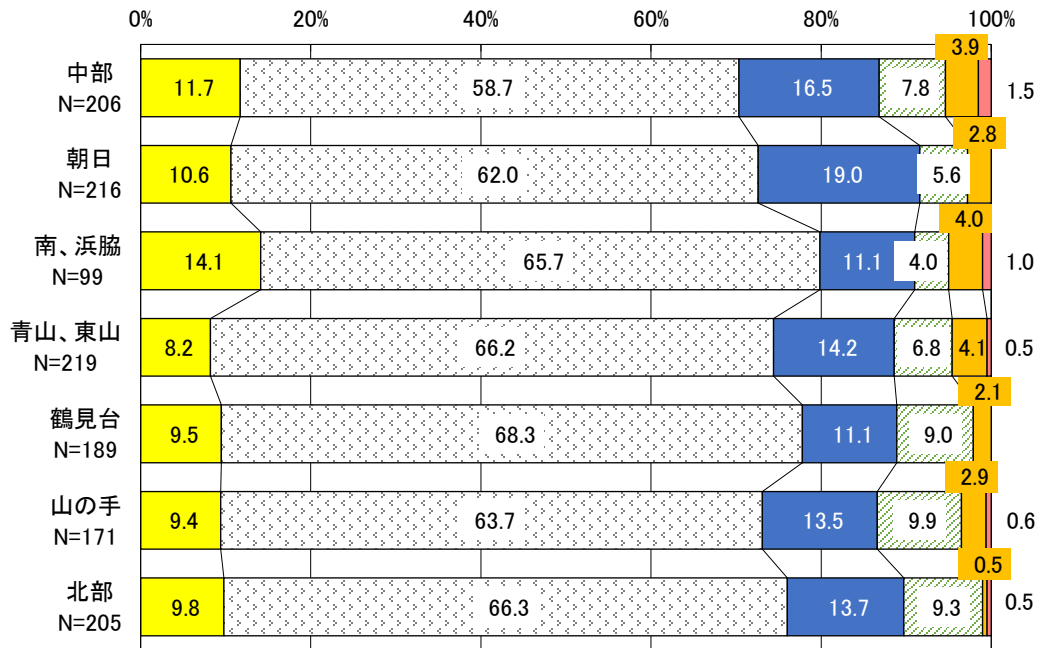
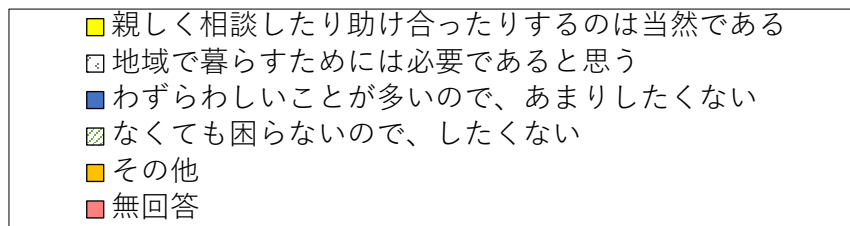
- 居住地区別に見ると、「とても親しく付き合っている」または「親しく付き合っている」と回答した人の割合が高かったのは「北部」30.8%となっています。

## 問9 あなたの近所付き合いに対する考え方は、次のどれに近いですか。【〇は1つだけ】



- 近所付き合いについては、「地域で暮らすためには必要である」という回答が全体の63.7%と最も多く、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」という回答は10.1%となっています。
- 一方、「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」「なくても困らないので、したくない」という回答は合わせて22.1%となっています。
- 年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるにつれて「なくても困らないので、したくない」または「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」という回答割合が高くなっています。

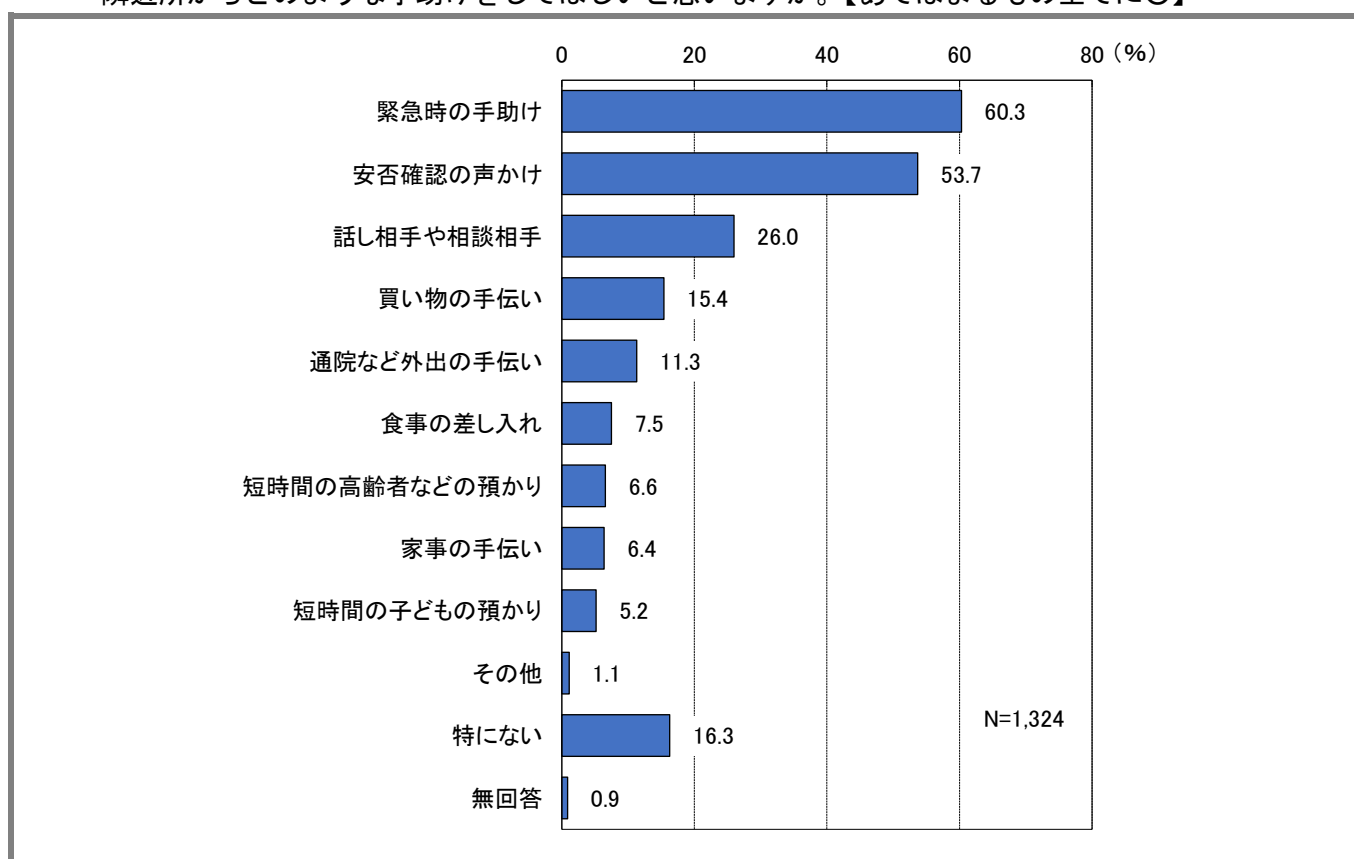
《居住地区別クロス集計結果》



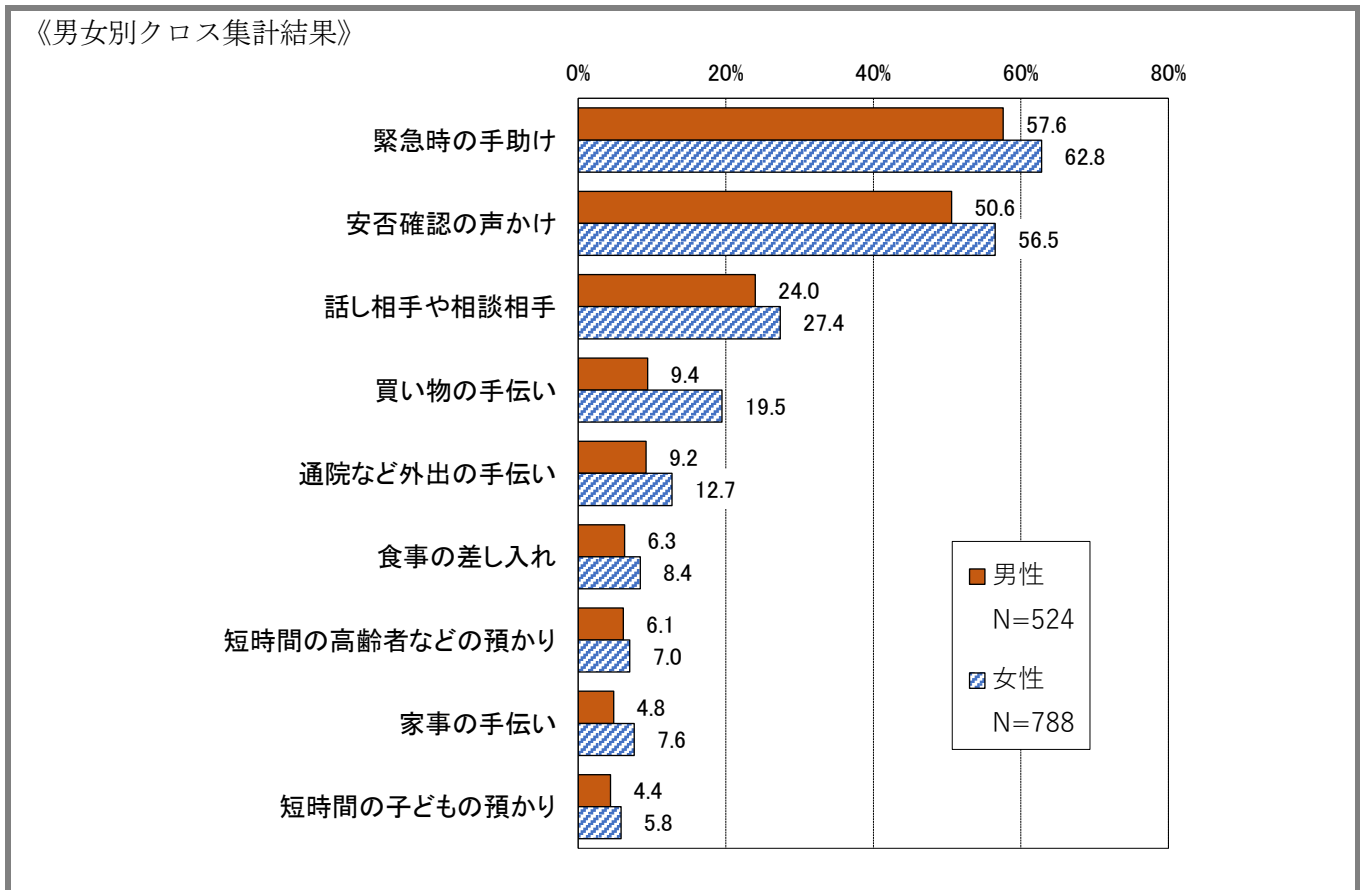
- 居住地区別に見ると、すべての地区で「地域で暮らすためには必要であると思う」との回答が約 6 割となっており、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」についても、おおむね 1 割の回答となっています。



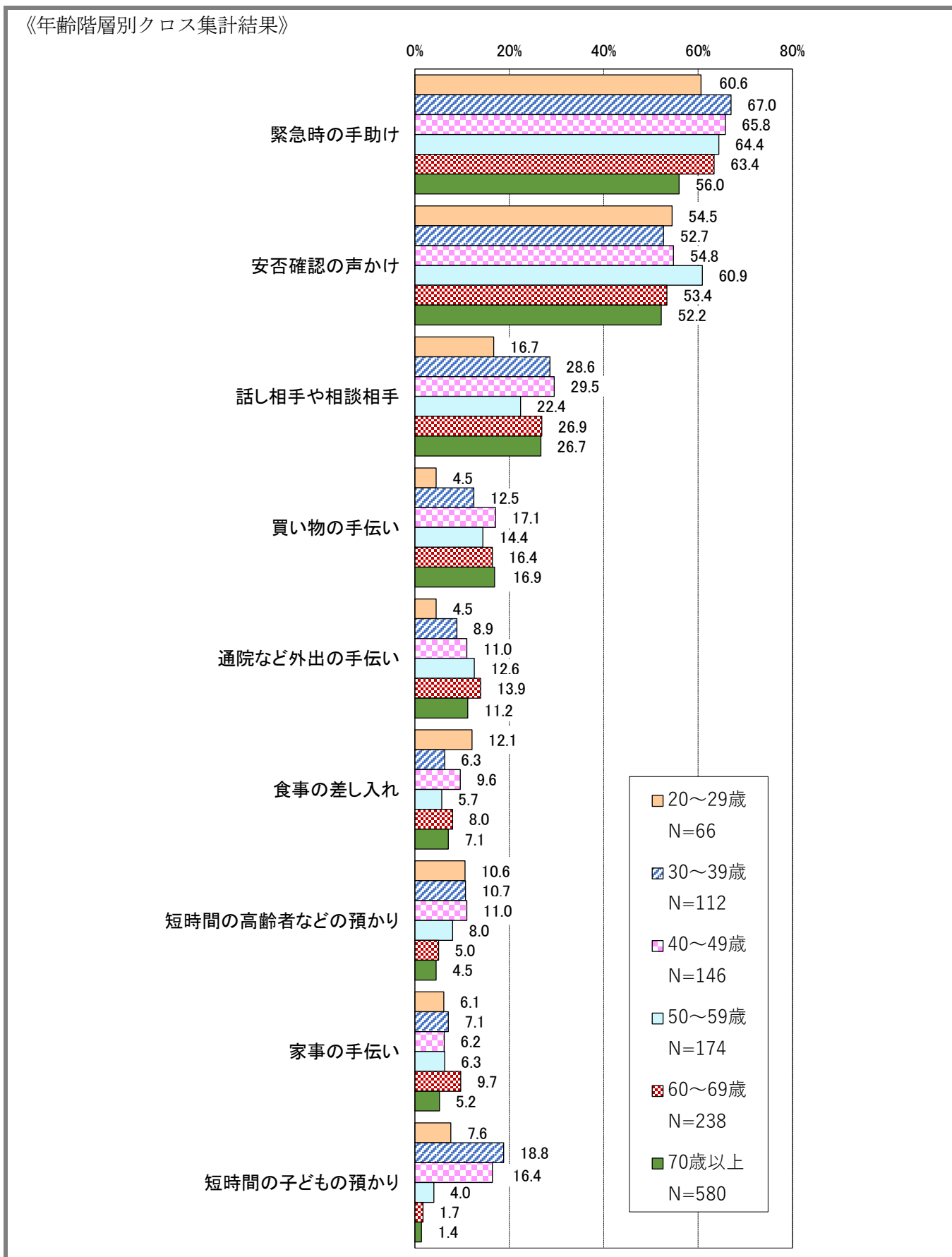
問10 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域や隣近所からどのような手助けをしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



- 日常生活が不自由になったとき、地域や隣近所からしてほしいこととしては、「緊急時の手助け」が60.3%と最も多く、以下、「安否確認の声かけ」53.7%、「話し相手や相談相手」26.0%と続いています。

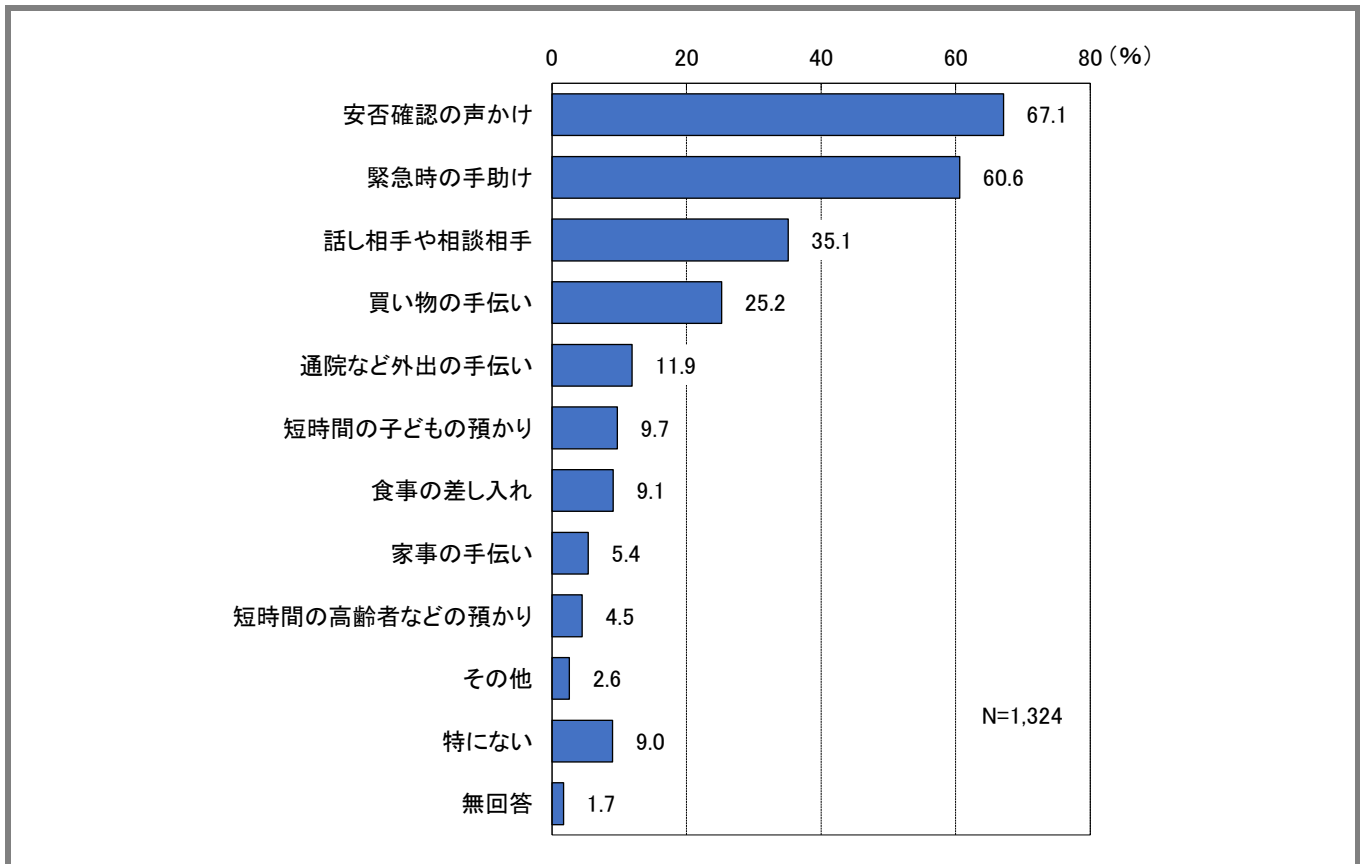


- 男女ともに「緊急時の手助け」「安否確認の声掛け」といった回答が多くなっています。
- 「買い物の手伝い」については、男女で回答割合に差が見られます。

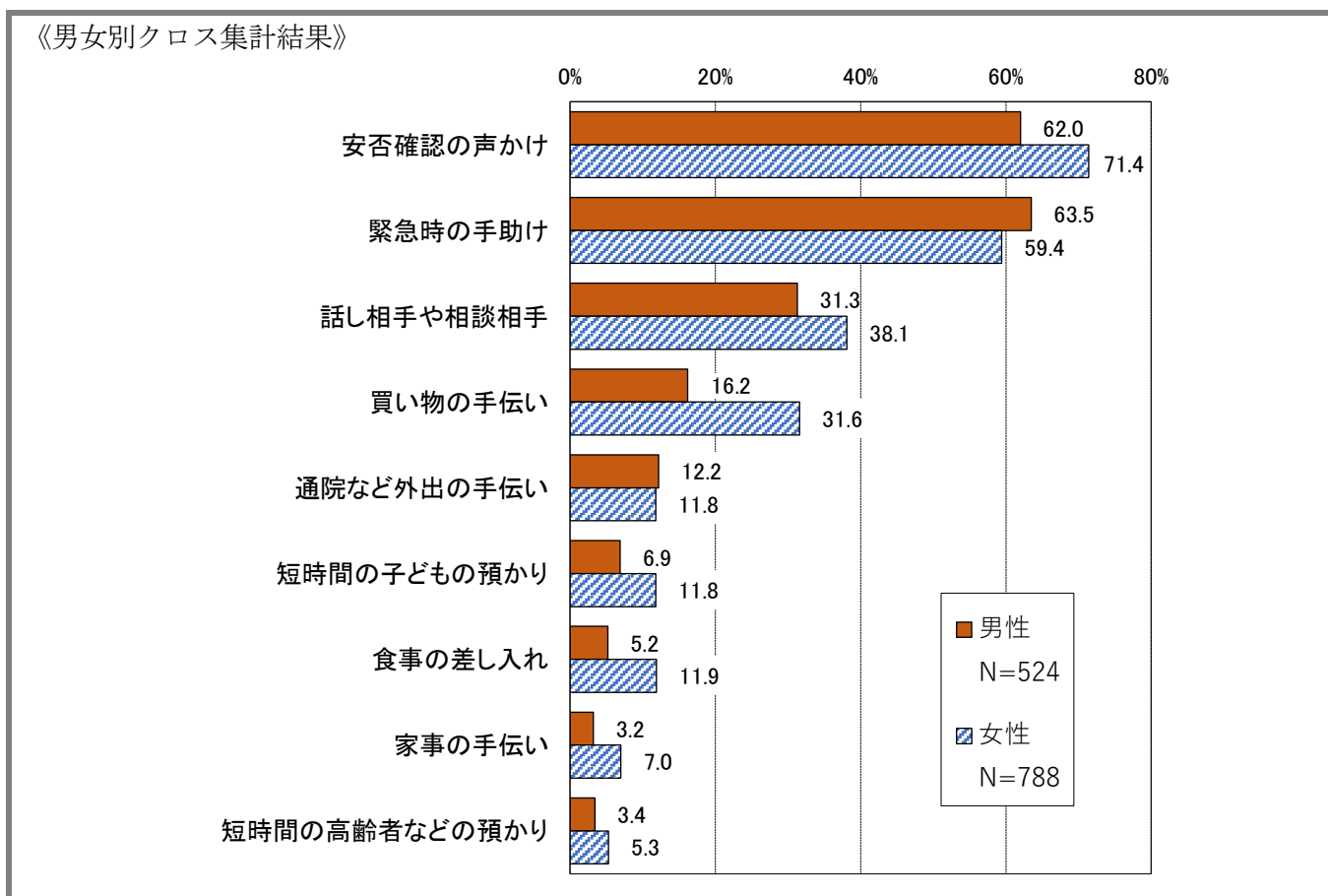


● 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は認められませんが、「短時間の子どもの預かり」は「30～39歳」「40～49歳」の回答割合がやや高くなっています。

問11 隣近所に、高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるもの全てに○】

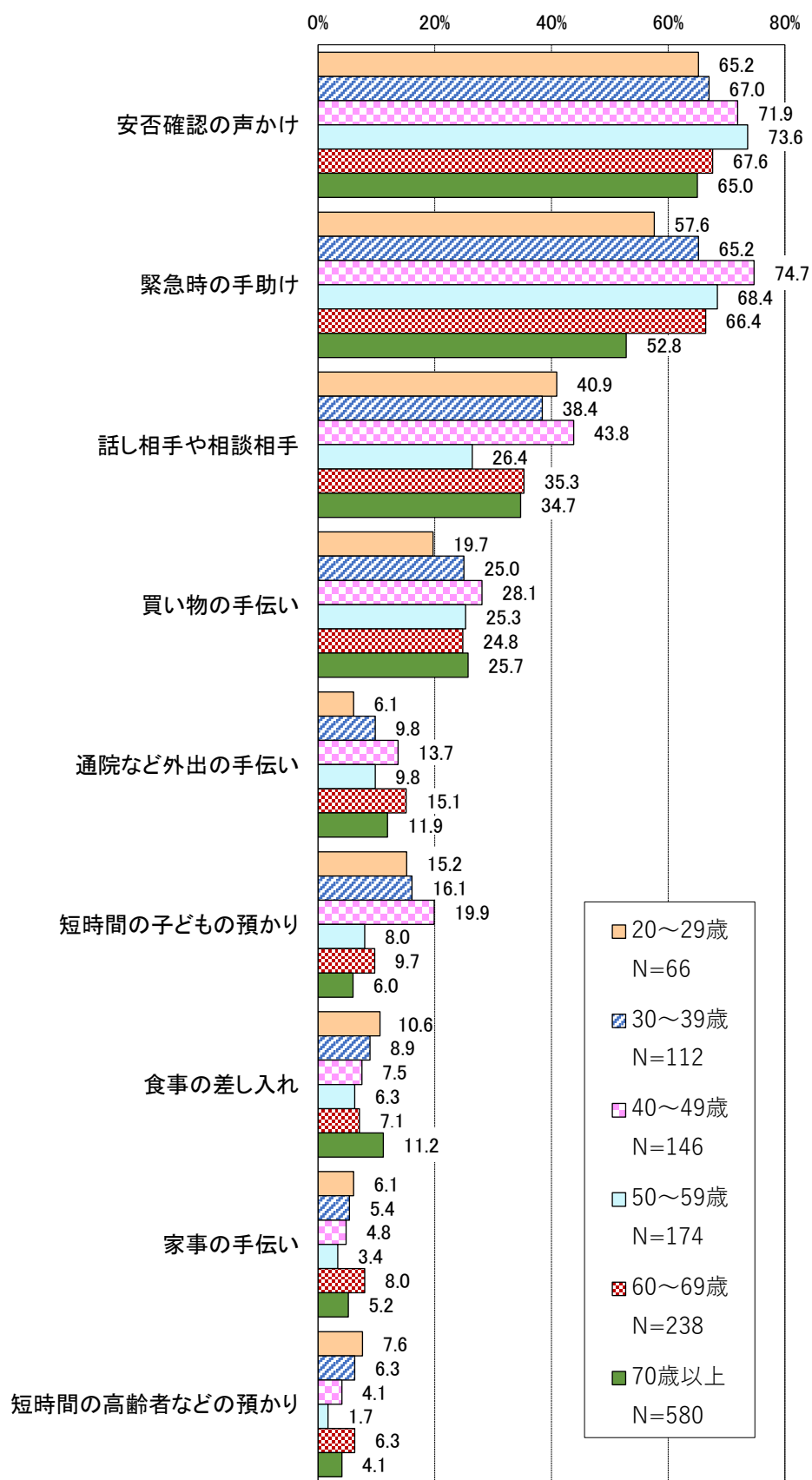


- 隣近所に困っている家庭があった場合にできると思うこととしては、「安否確認の声かけ」が67.1%と最も多く、以下、「緊急時の手助け」60.6%、「話し相手や相談相手」35.1%、「買い物の手伝い」25.2%と続いています。



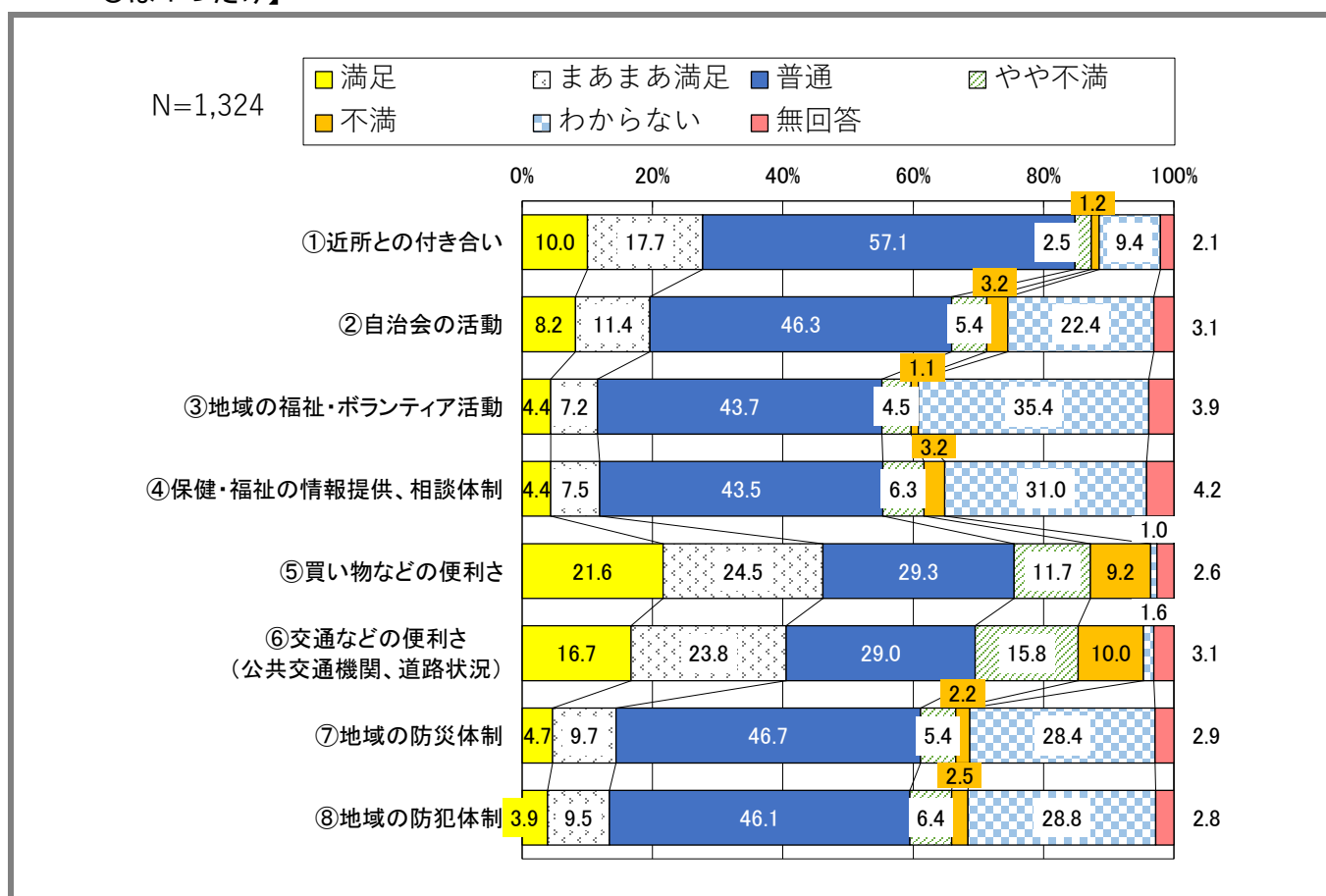
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は認められませんが、男性の方が回答割合が高かったのは「緊急時の手助け」と「通院など外出の手伝い」のみで、それ以外の項目は全て女性の方が回答割合が高くなっています。
- 男女の回答割合に開きが見られたのは「買い物の手伝い」で、男性 16.2%に比べ女性 31.6%の方が 15.4 ポイント高くなっています。

《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は認められませんが、「短時間の子どもの預かり」については50歳以上に比べ50歳未満の回答割合が高くなっています。

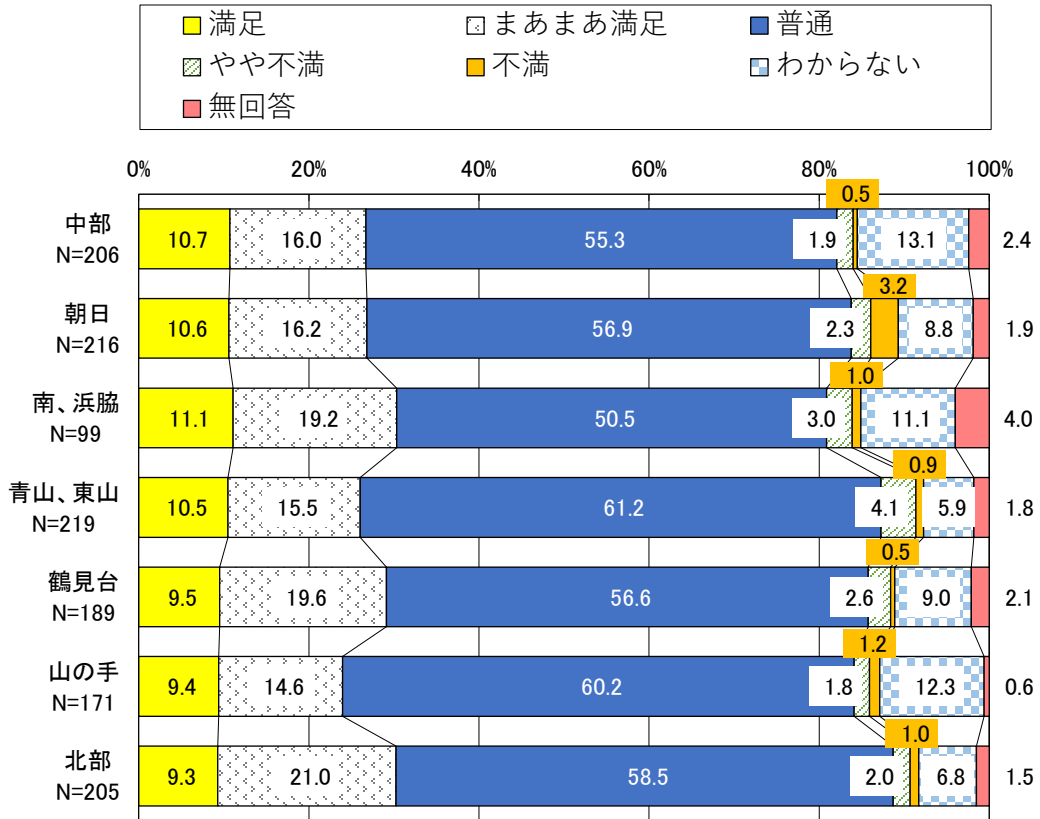
問12 あなたがお住まいの地域の暮らしやすさ（満足度）はいかがですか。【それぞれの項目について〇は1つだけ】



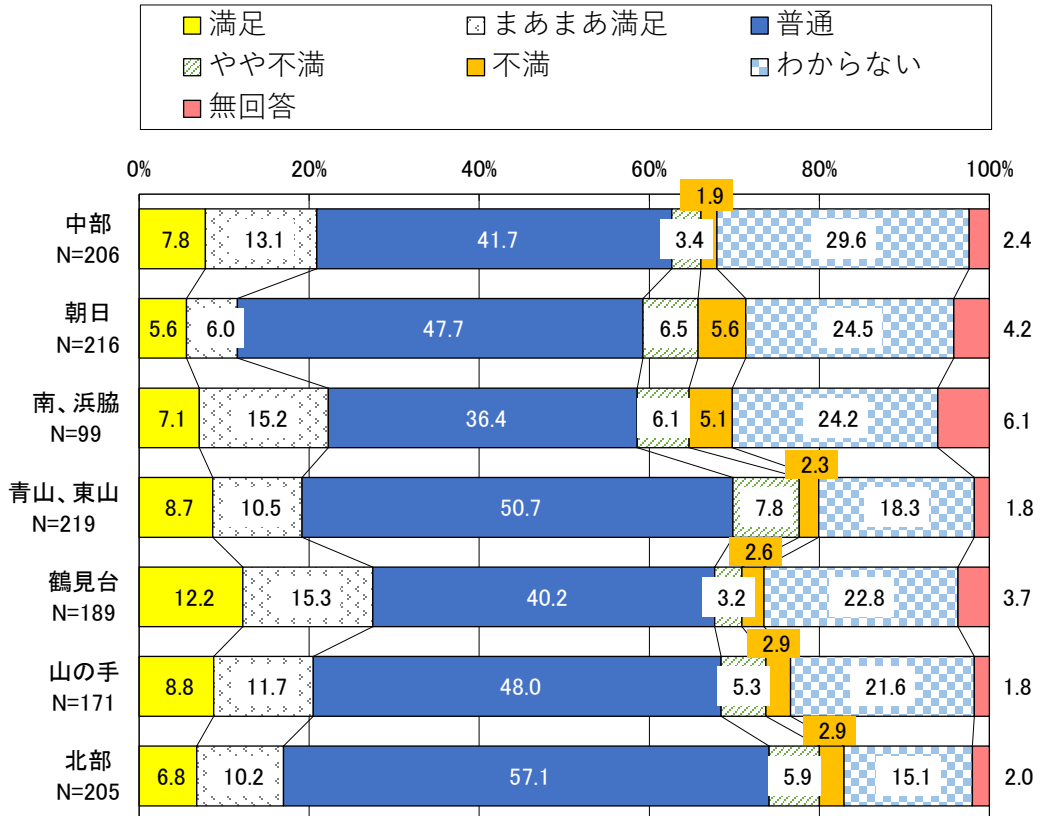
- 地域の暮らしやすさについて、「満足」または「まあまあ満足」と回答した人の割合が最も高かったのは「買い物などの便利さ」で46.1%、逆に、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が最も高かった項目は「交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）」で25.8%となっています。
- なお、「満足」または「まあまあ満足」と回答した人の割合が、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合を下回っている項目はありませんでした。
- 居住地区別のクロス集計の結果、「買い物などの便利さ」や「交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）」については地域によって満足度に差が見られます。

《居住地区別クロス集計結果》

①近所との付き合い

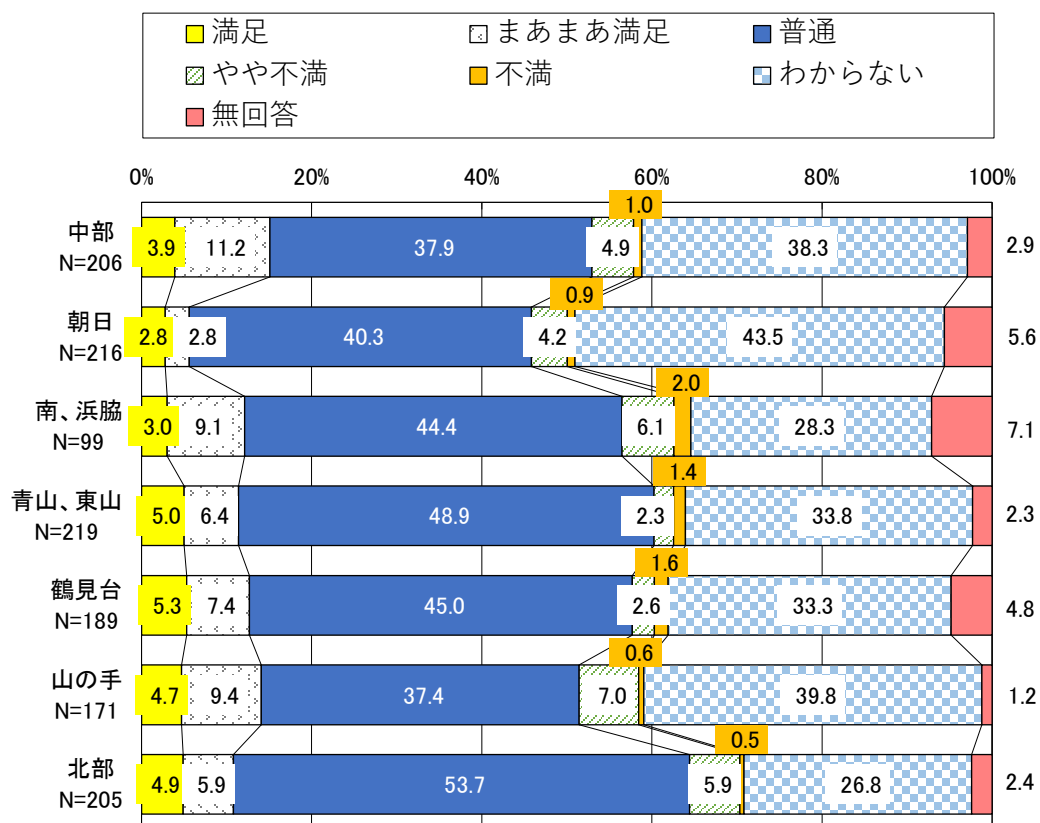


②自治会の活動

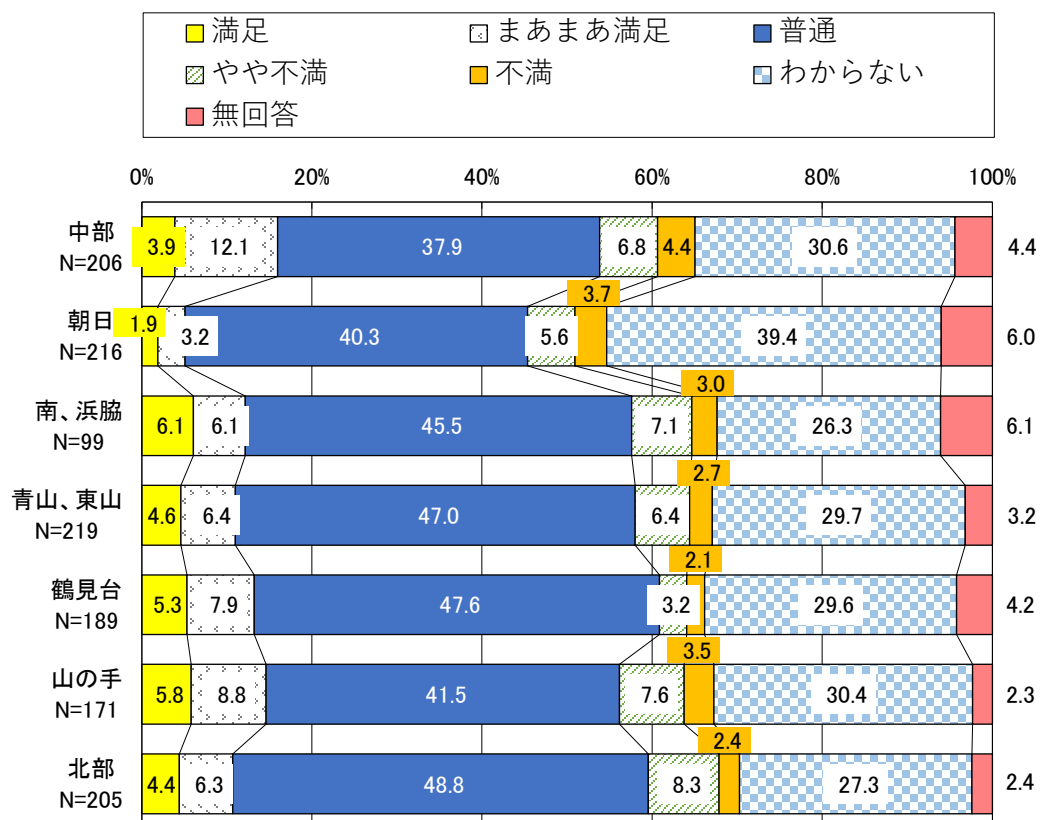




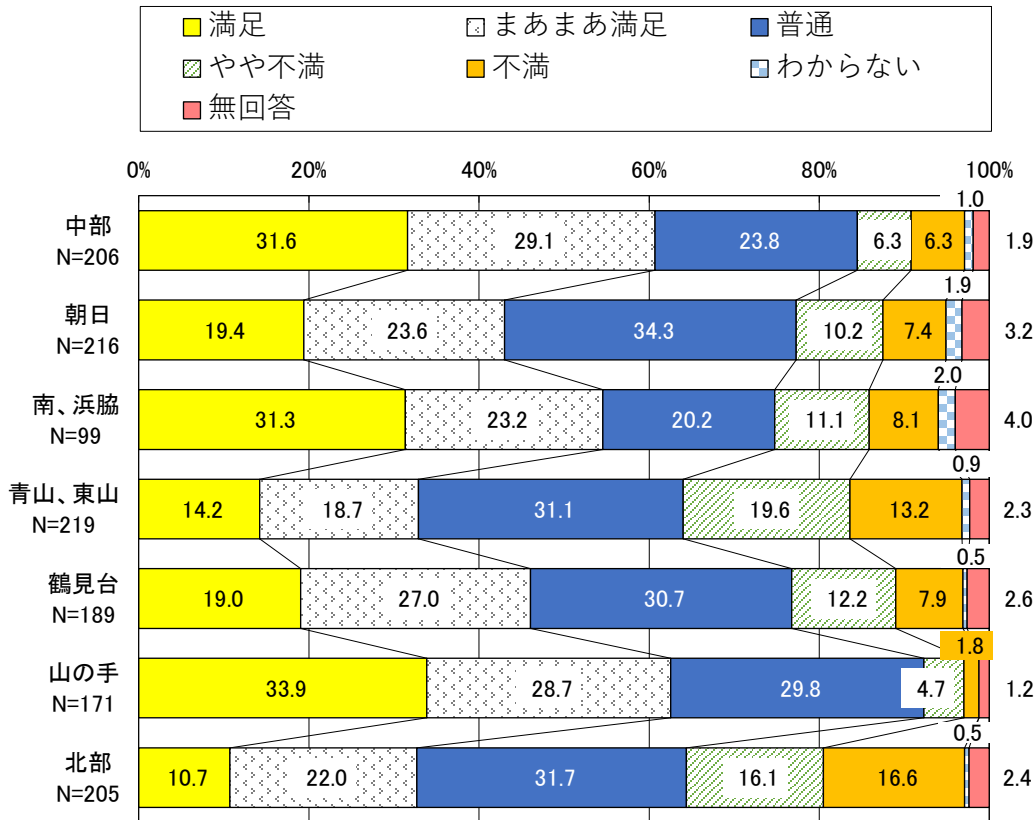
③地域の福祉・ボランティア活動



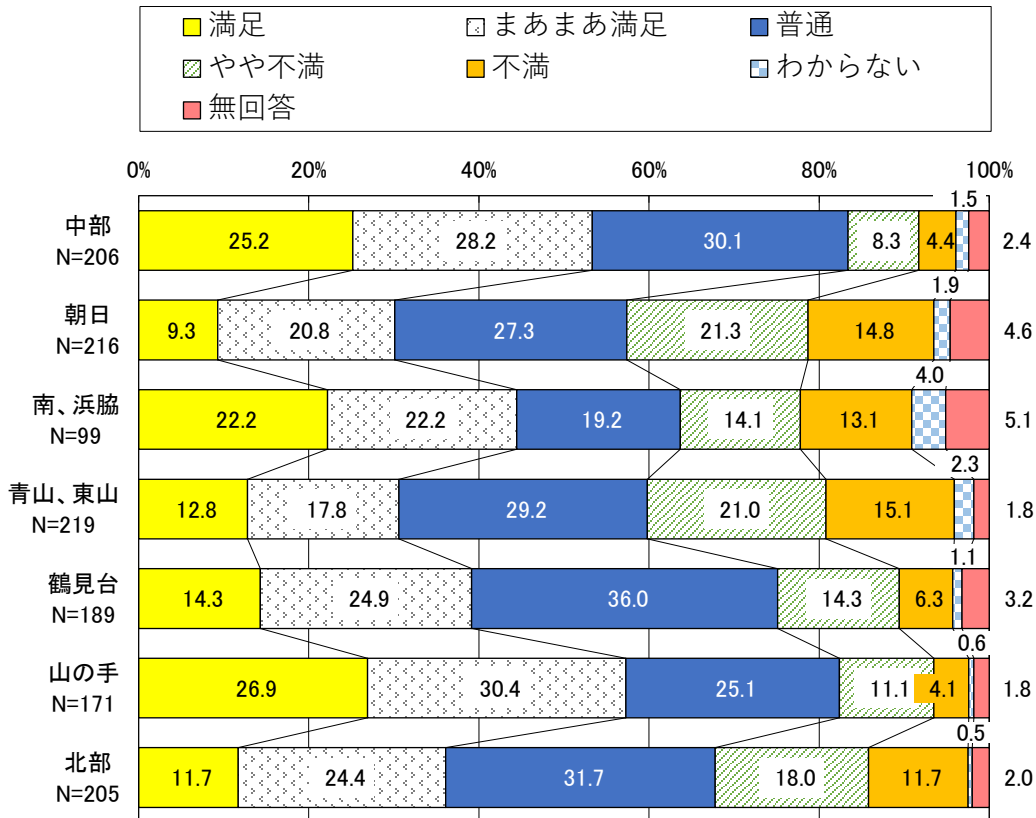
④保健・福祉の情報提供、相談体制



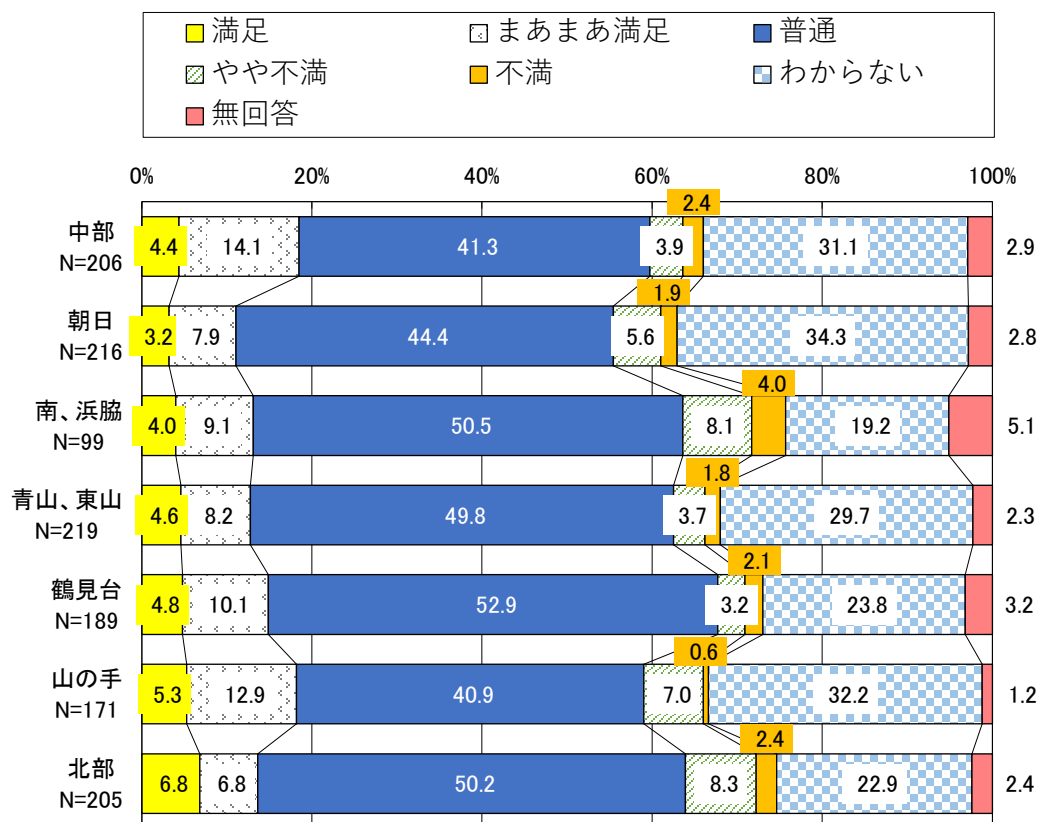
⑤買い物などの便利さ



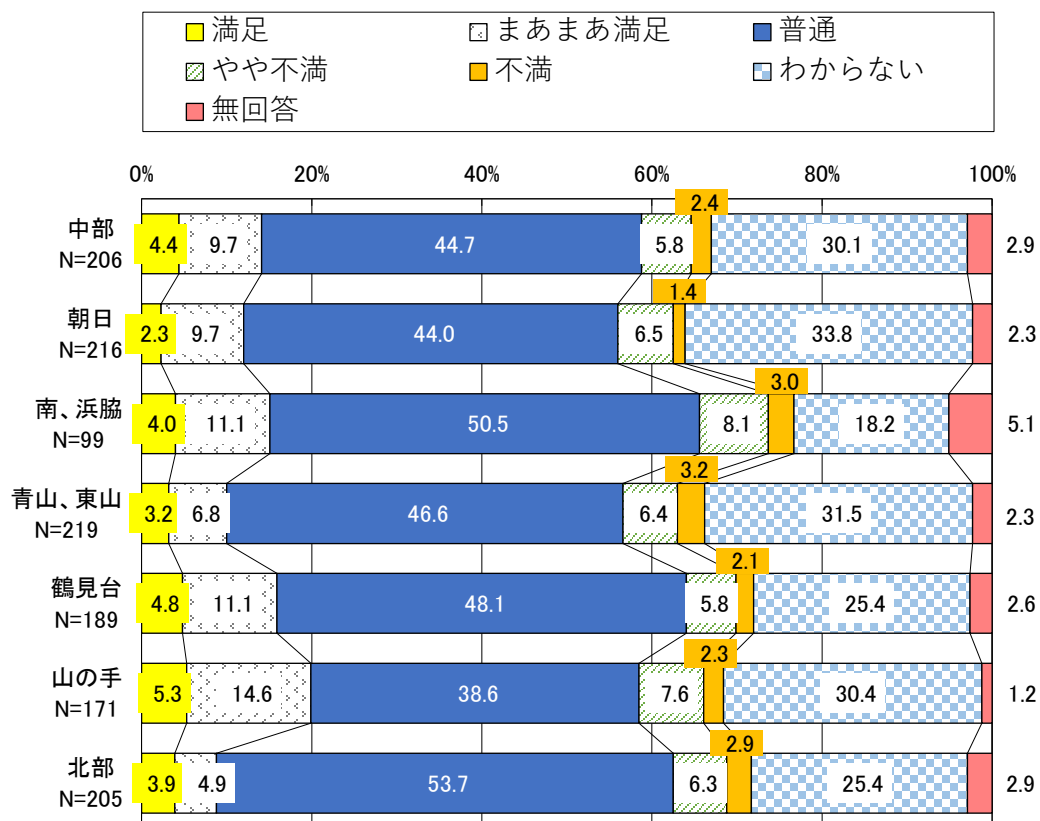
⑥交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）



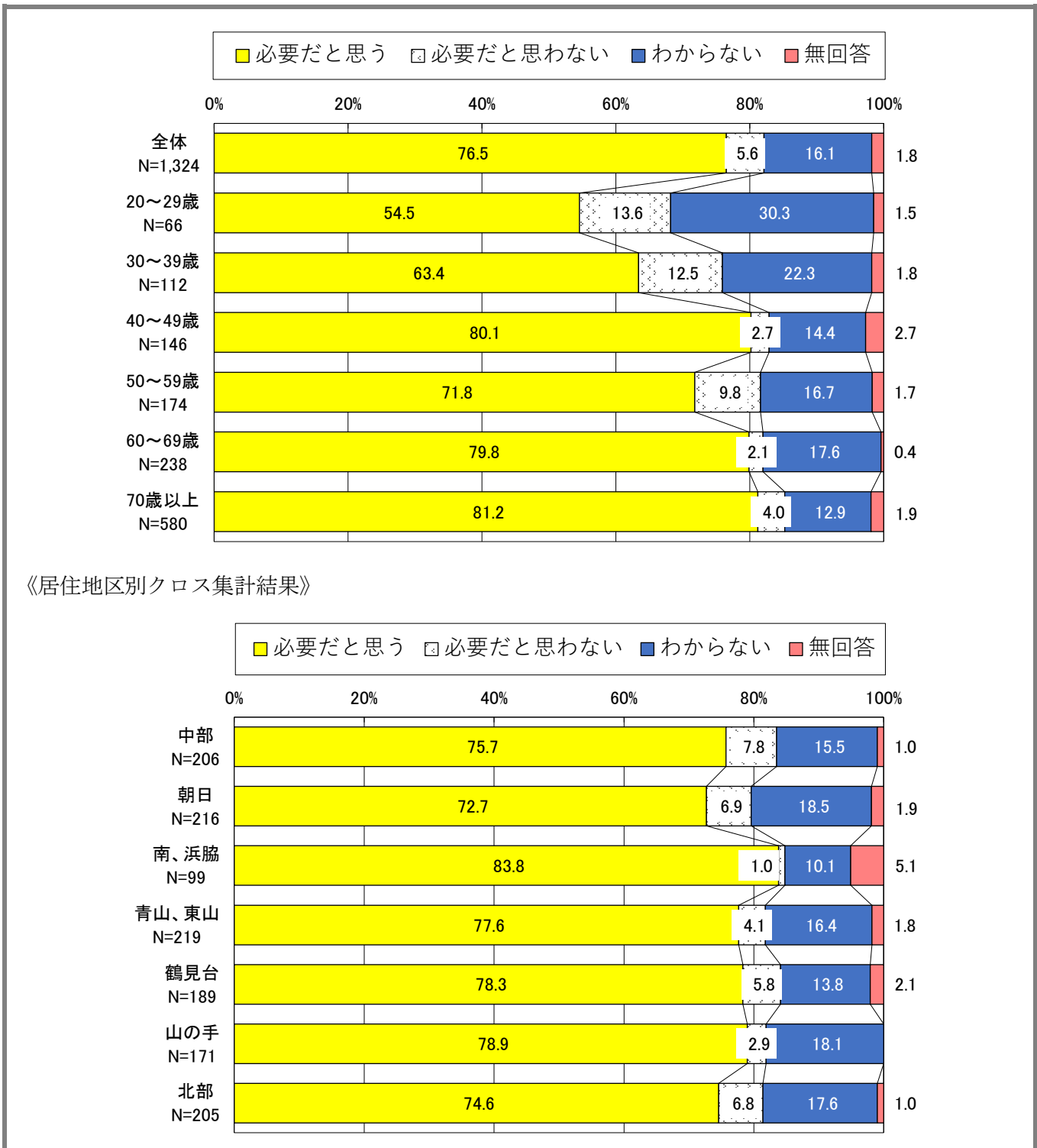
⑦地域の防災体制



⑧地域の防犯体制



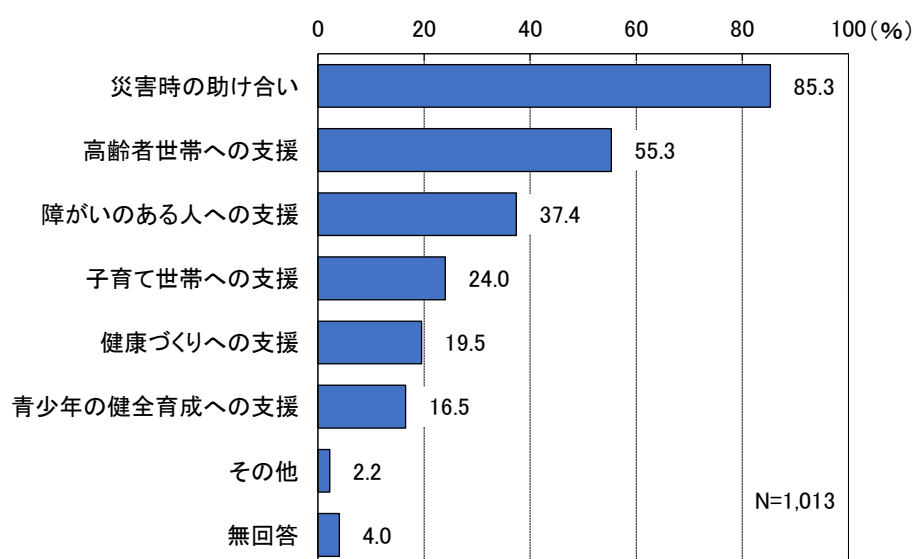
問13 あなたは、地域生活の中で起こる問題に対して、住民同士の自主的な協力関係が必要だと思いますか。【〇は1つだけ】



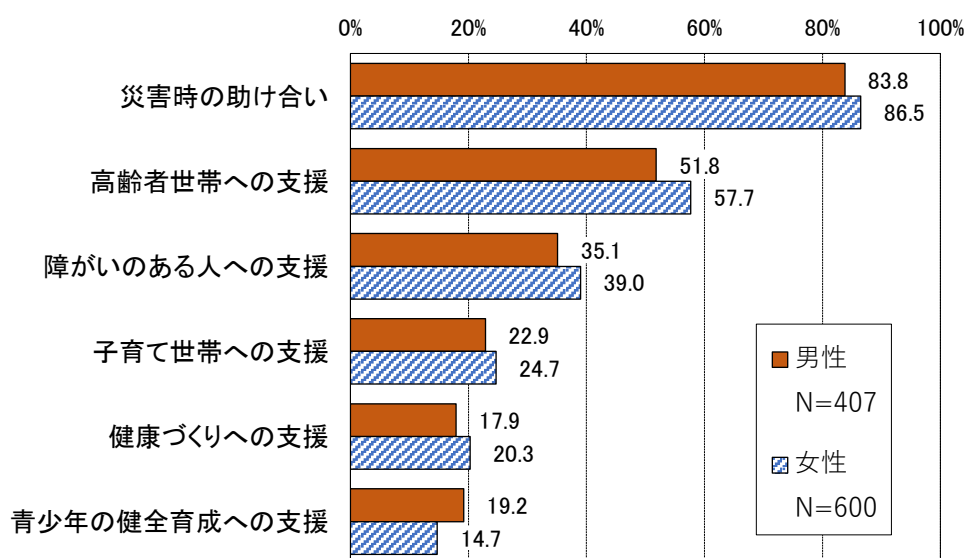
- 地域生活の中で起こる問題に対して住民相互の自主的な協力が「必要だと思う」という回答が全体の76.5%を占め、「必要だと思わない」という回答は5.6%にとどまっています。
- 年齢階層別に見ると、「必要だと思わない」という回答割合が最も高かったのは「20～29歳」13.6%で、以下、「30～39歳」12.5%、「50～59歳」9.8%と続いています。

問13-1 問13で、「1. 必要だと思う」とご回答された方のみお答えください。

地域の人たちが協力して取り組む必要があるものは、どれだと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

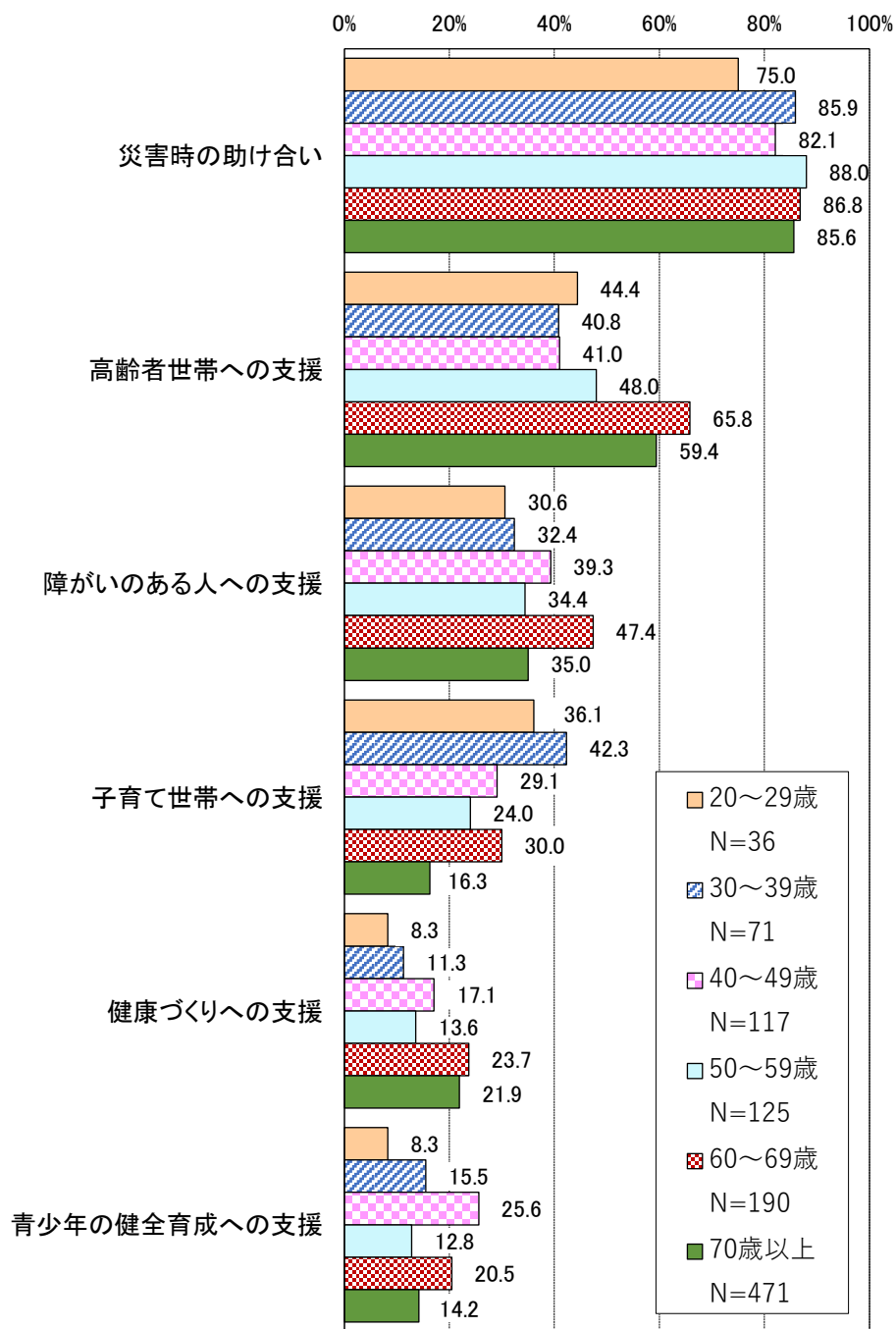


《男女別クロス集計結果》



- 地域の人たちが協力して取り組む必要があるものとしては、「災害時の助け合い」が85.3%と最も多く、「高齢者世帯への支援」が55.3%でそれに続いています。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られませんでした。

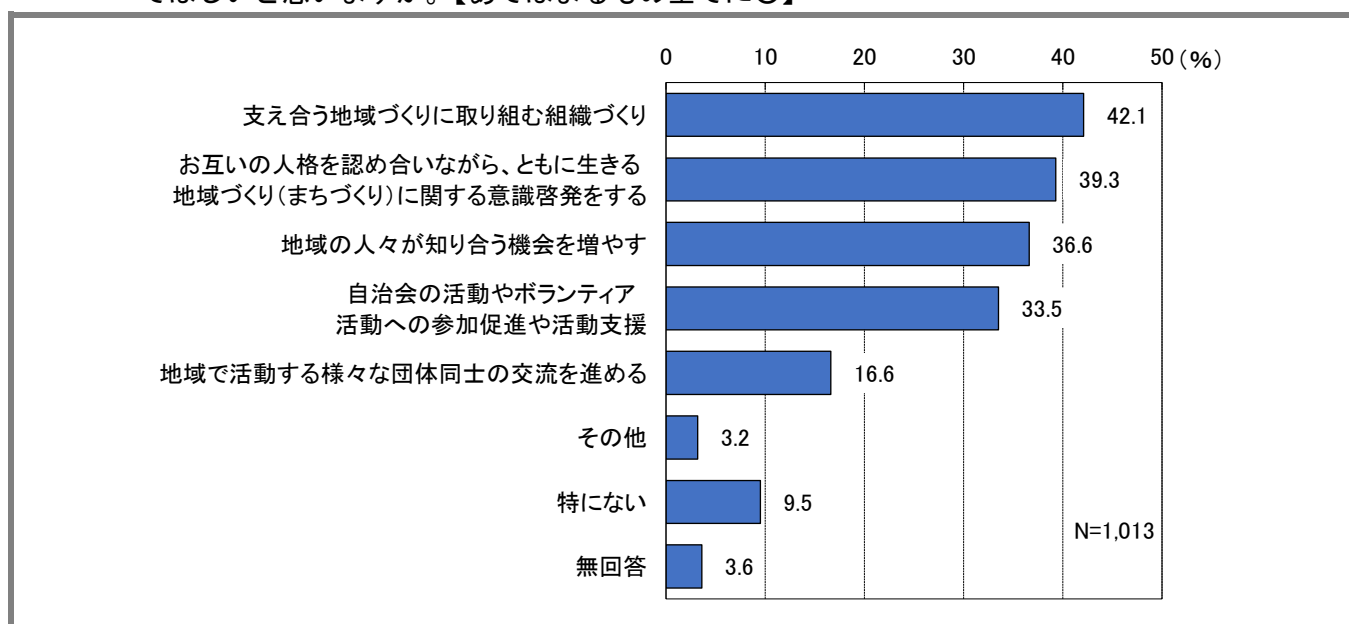
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に回答割合の順位を見ても、おおむね全体集計の結果と同傾向となっていますが、「30～39歳」については「子育て世帯への支援」が2位、「20～29歳」では同じく3位となっています。

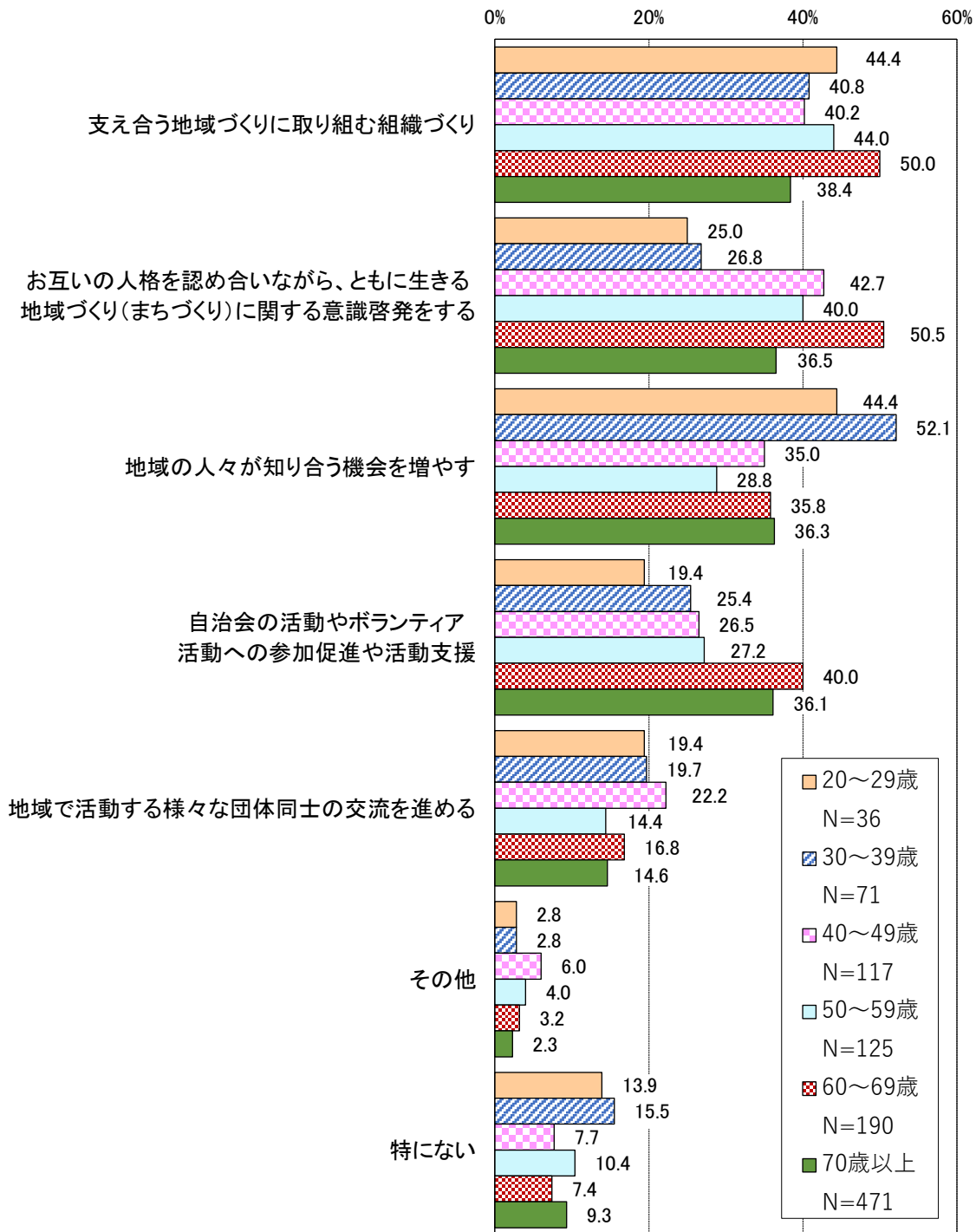
問13-2 問13で、「1. 必要だと思う」とご回答された方のみお答えください。

住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、別府市にどのような支援に取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



- 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために別府市に取り組んでほしいと思う支援としては、「支え合う地域づくりに取り組む組織づくり」が42.1%と最も高い回答割合となっており、以下、「お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり（まちづくり）に関する意識啓発をする」39.3%、「地域の人々が知り合う機会を増やす」36.6%、「自治会の活動やボランティア活動への参加促進や活動支援」33.5%と続いています。

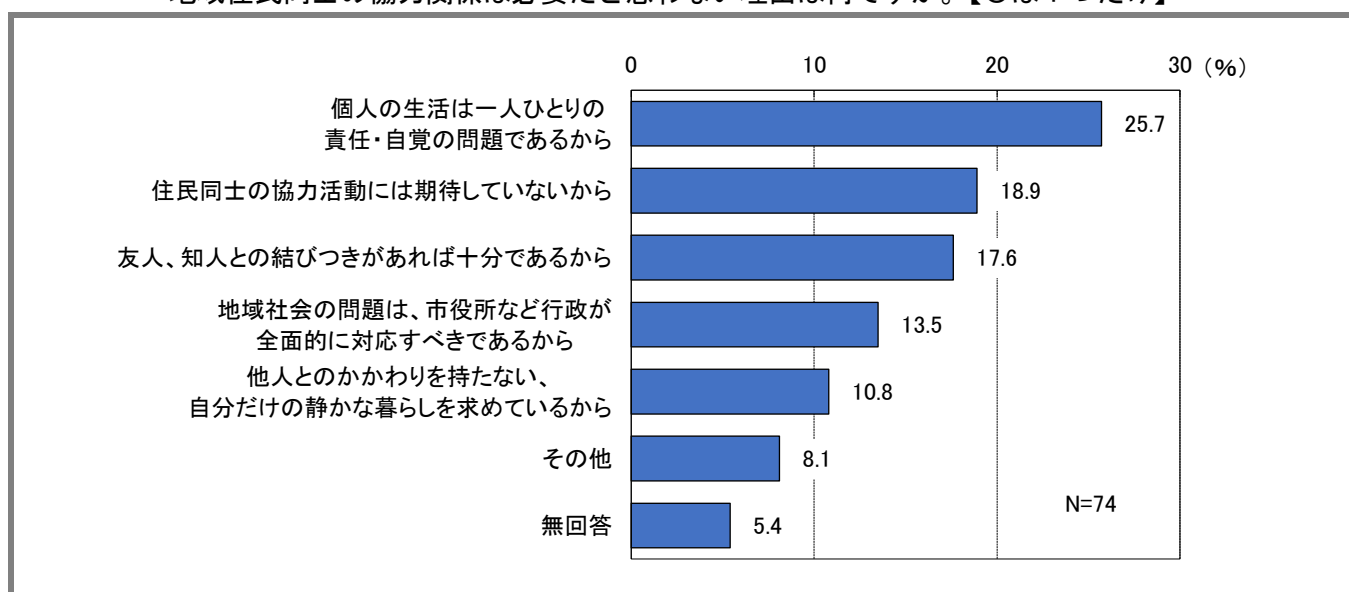
《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に回答割合の順位を見ても、おおむね全体集計の結果と同傾向となっていますが、「30～39歳」については「地域の人々が知り合う機会を増やす」が52.1%と最も高い割合となっており、「20～29歳」でも44.4%と、「支え合う地域づくりに取り組む組織づくり」と並んで同率1位となっています。
- また、「60～69歳」では、「自治会の活動やボランティア活動への参加促進や活動支援」が40.0%と、「地域の人々が知り合う機会を増やす」(35.8%)よりも高い割合となっています。



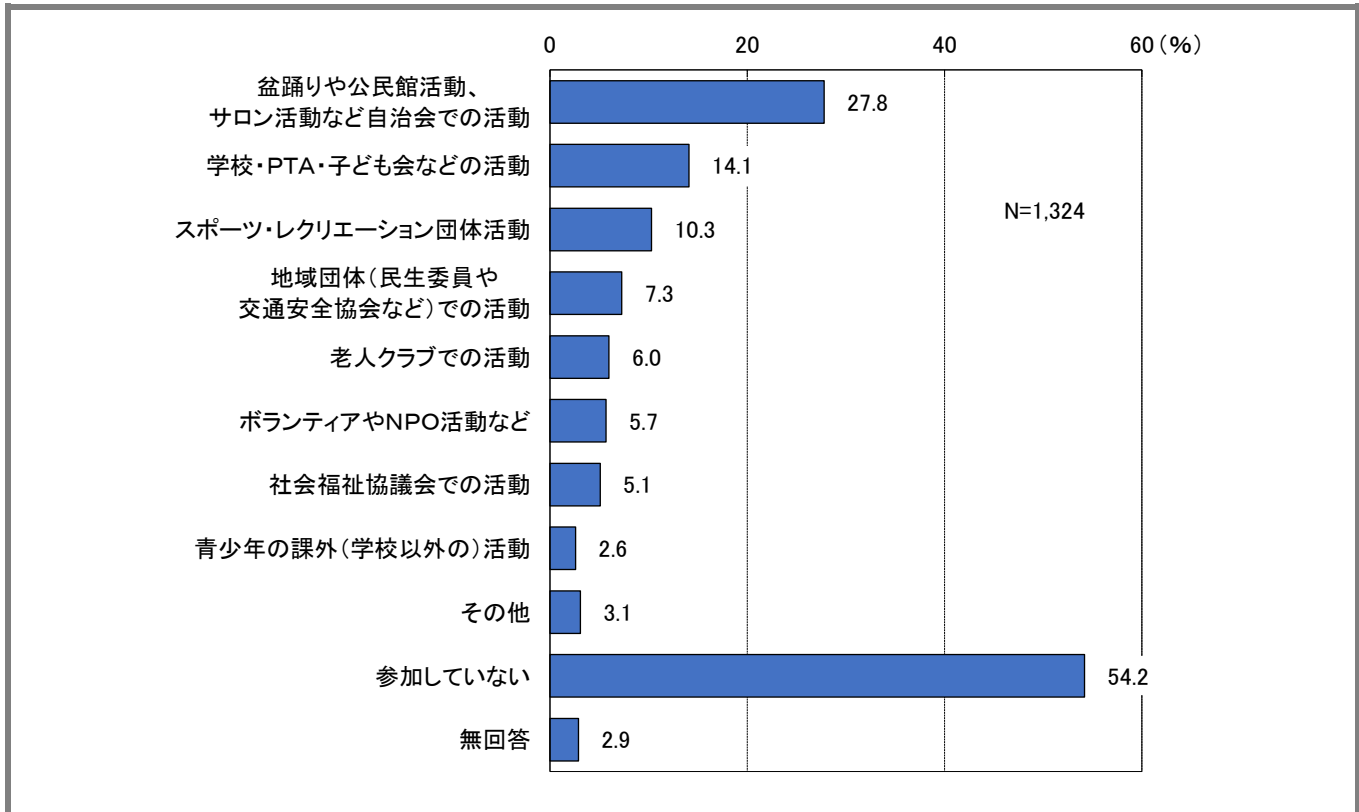
問13-3 問13で、「2. 必要だと思わない」とご回答された方のみお答えください。  
 地域住民同士の協力関係は必要だと思わない理由は何ですか。【〇は1つだけ】



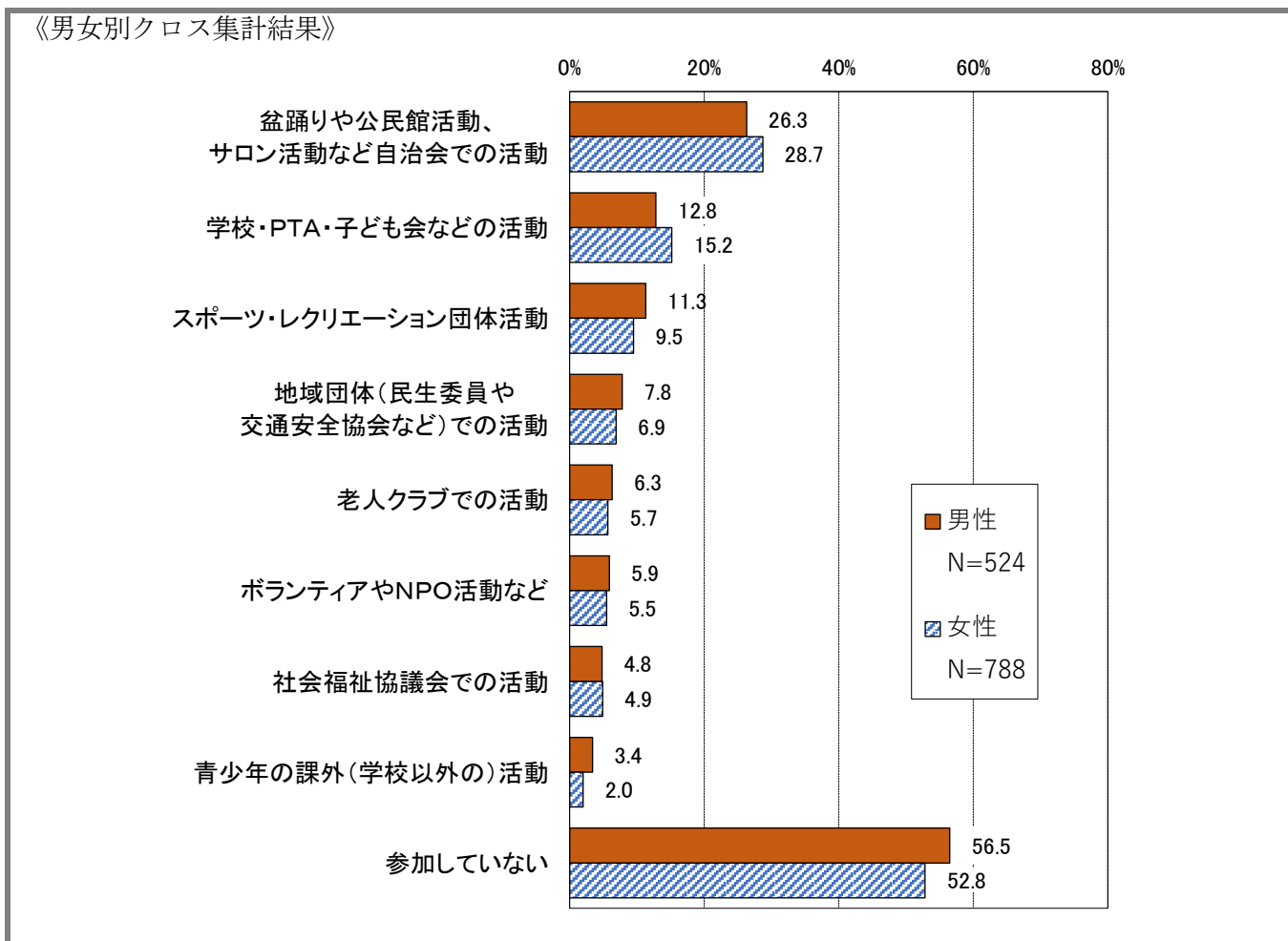
- 住民同士の自主的な協力関係が「必要だと思わない」理由としては、「個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」という回答が全体の25.7%と最も多く、以下、「住民同士の協力活動には期待していないから」が18.9%、「友人、知人との結びつきがあれば十分であるから」が17.6%、「地域社会の問題は、市役所など行政が全面的に対応すべきであるから」が13.5%と続いています。

### Ⅲ. 地域活動への参加について

問14 地域の活動で過去3年間に参加したことがあるものを選んでください。【あてはまるもの全てに○】

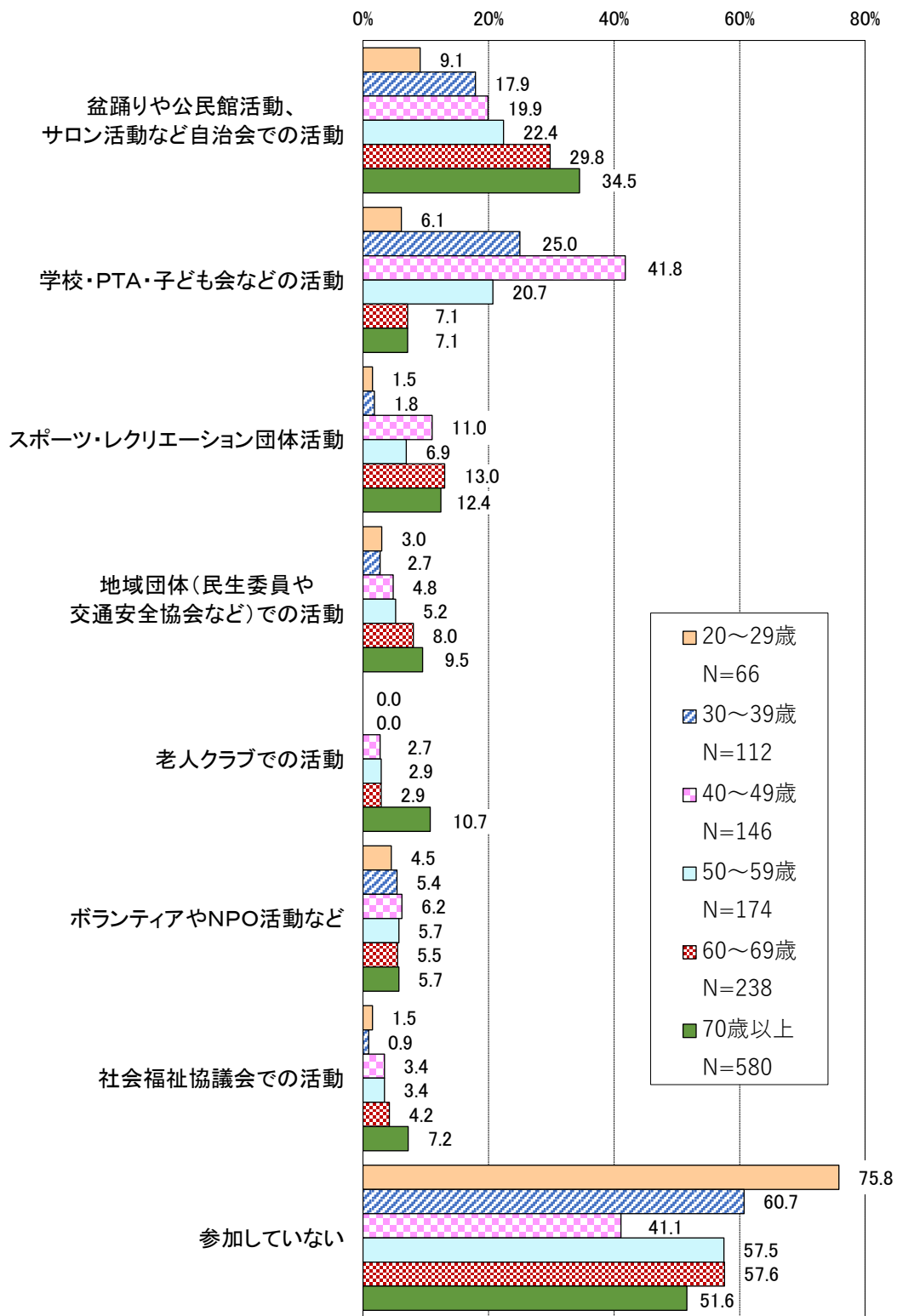


- 過去3年間の地域の活動への参加状況については、「参加していない」と回答した人が全体の54.2%を占めていますが、無回答を除く他の42.9%の人は何らかの地域活動に参加しているという結果となっています。
- 参加していると回答した割合が最も高かったのは、「盆踊りや公民館活動、サロン活動など自治会での活動」27.8%で、以下、「学校・PTA・子ども会などの活動」14.1%、「スポーツ・レクリエーション団体活動」10.3%と続いています。



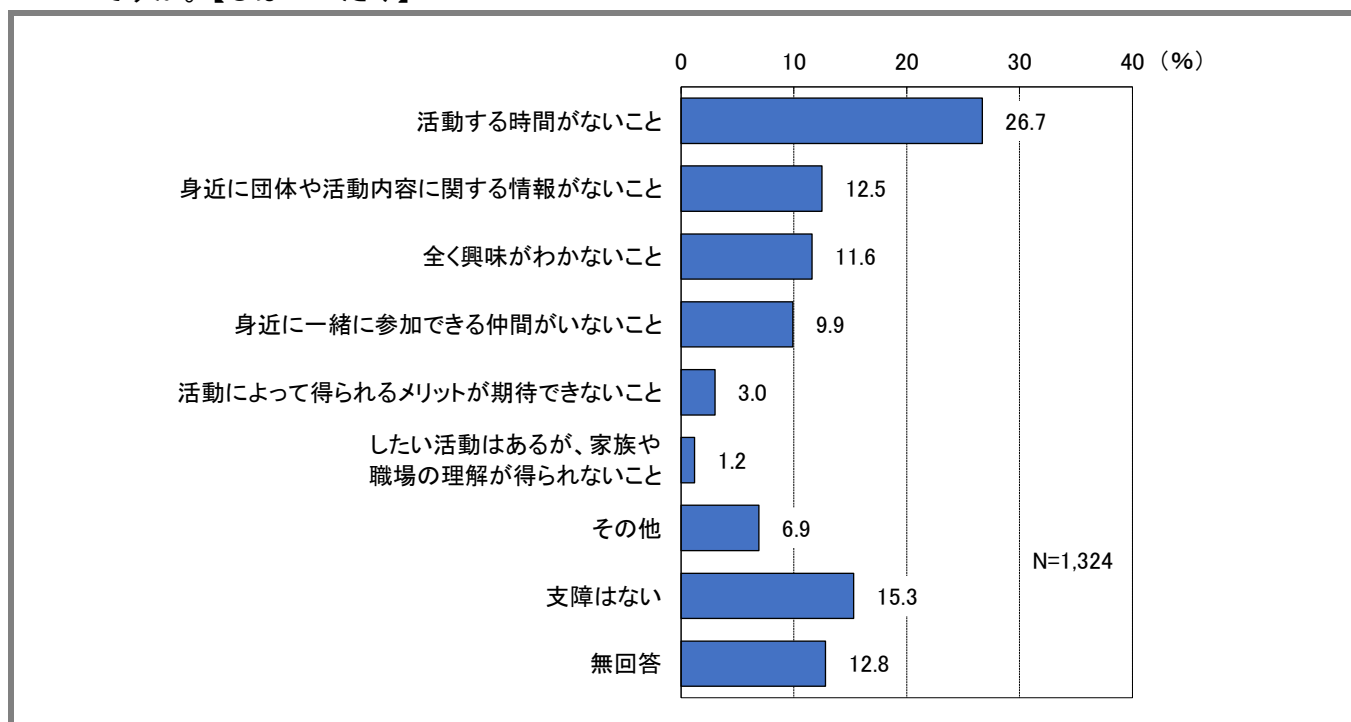
● 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られませんでした。

《年齢階層別クロス集計結果（上位8項目抜粋）》



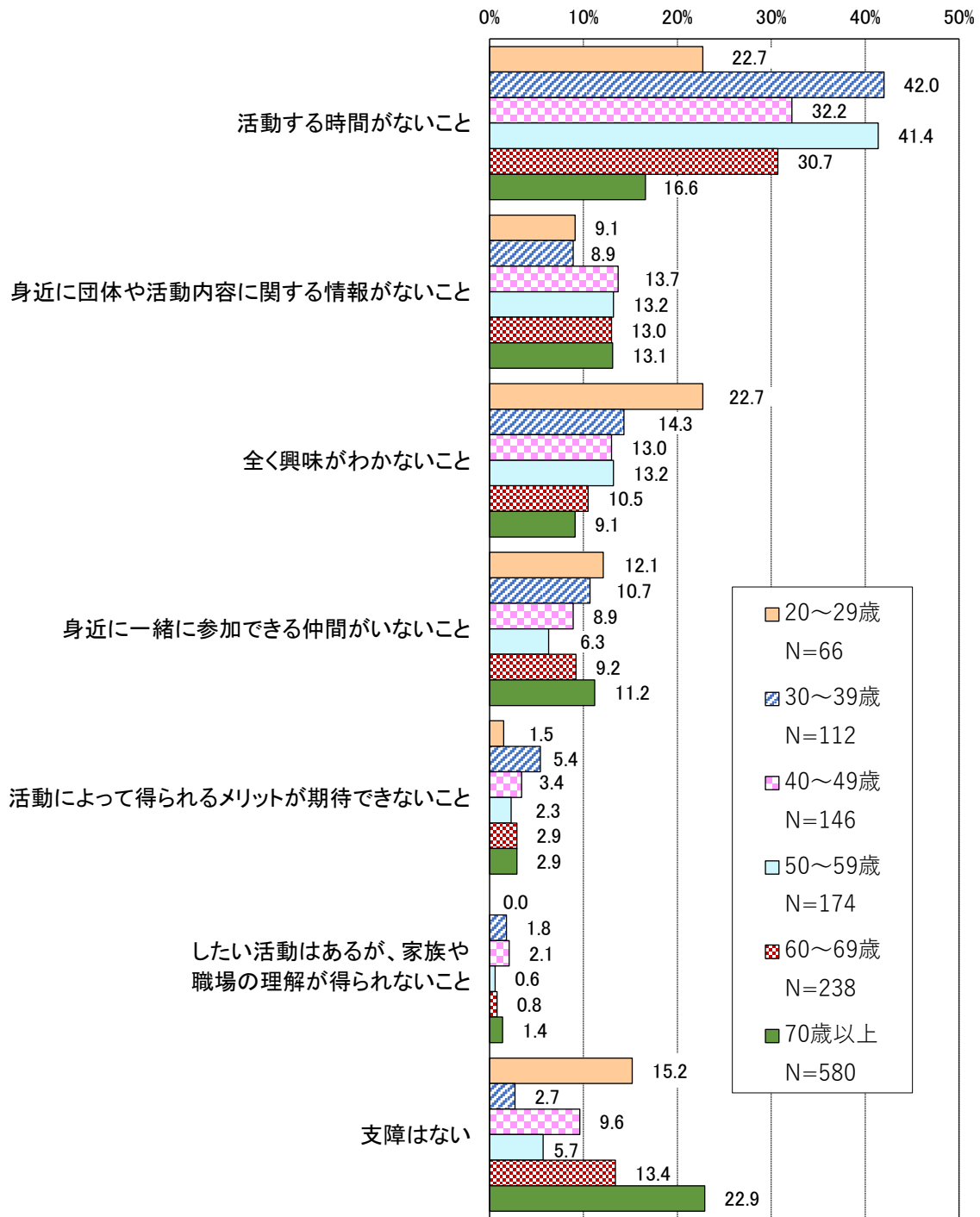
- 参加していると回答した割合を年齢階層別に見ると、「40～49歳」と「30～39歳」では「学校・PTA・子ども会などの活動」が最も高い割合となっており、「盆踊りや公民館活動、サロン活動など自治会での活動」については年齢階層が低くなるにつれて回答割合も低くなっています。

問15 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因となっていることはどんなことですか。【〇は1つだけ】



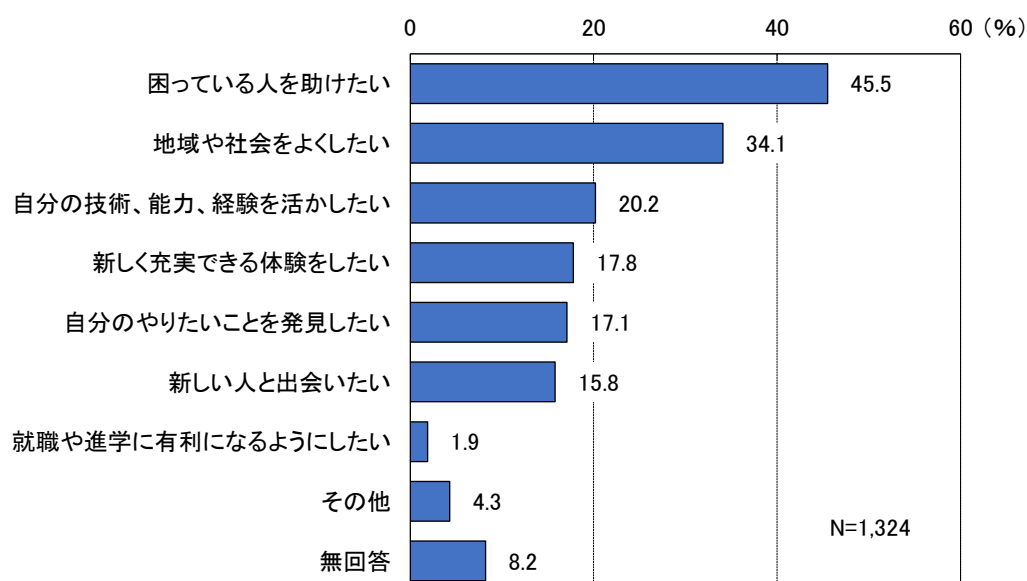
- 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因としては、「活動する時間がないこと」が26.7%と最も多くなっています。一方で、「支障はない」との回答が15.3%となっています。

《年齢階層別クロス集計結果》

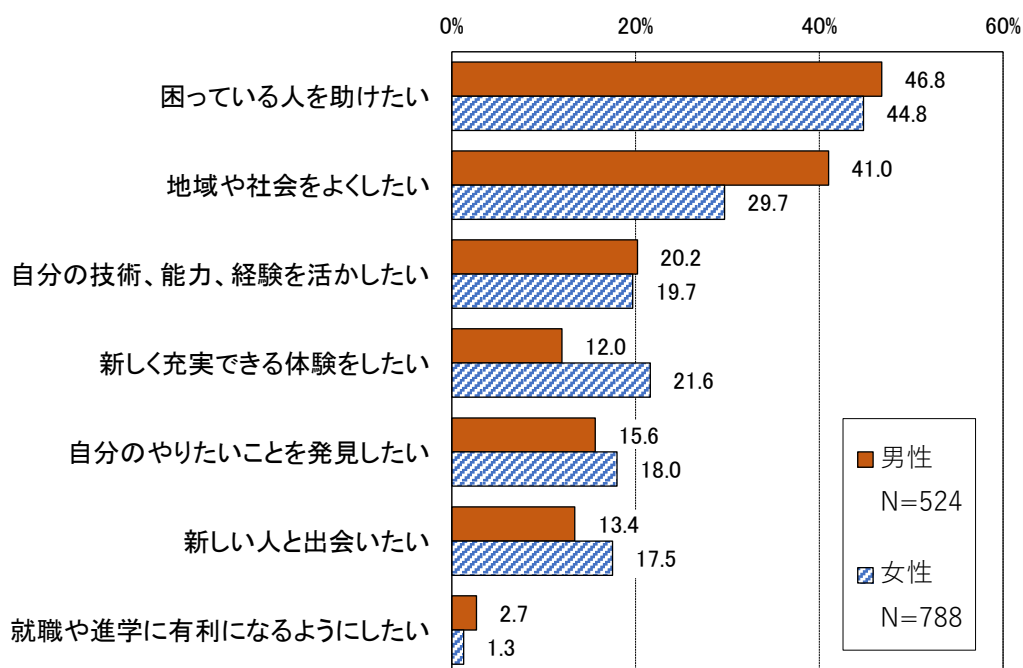


● 年齢階層別に見ても、概ね全体集計の結果と同傾向となっていますが、「20～29歳」については「全く興味がわからないこと」が22.7%と、「活動する時間がないこと」と並んで同率1位となっています。

## 問16 ボランティア活動をするとしたら、何が動機になりますか。【あてはまるもの全てに○】

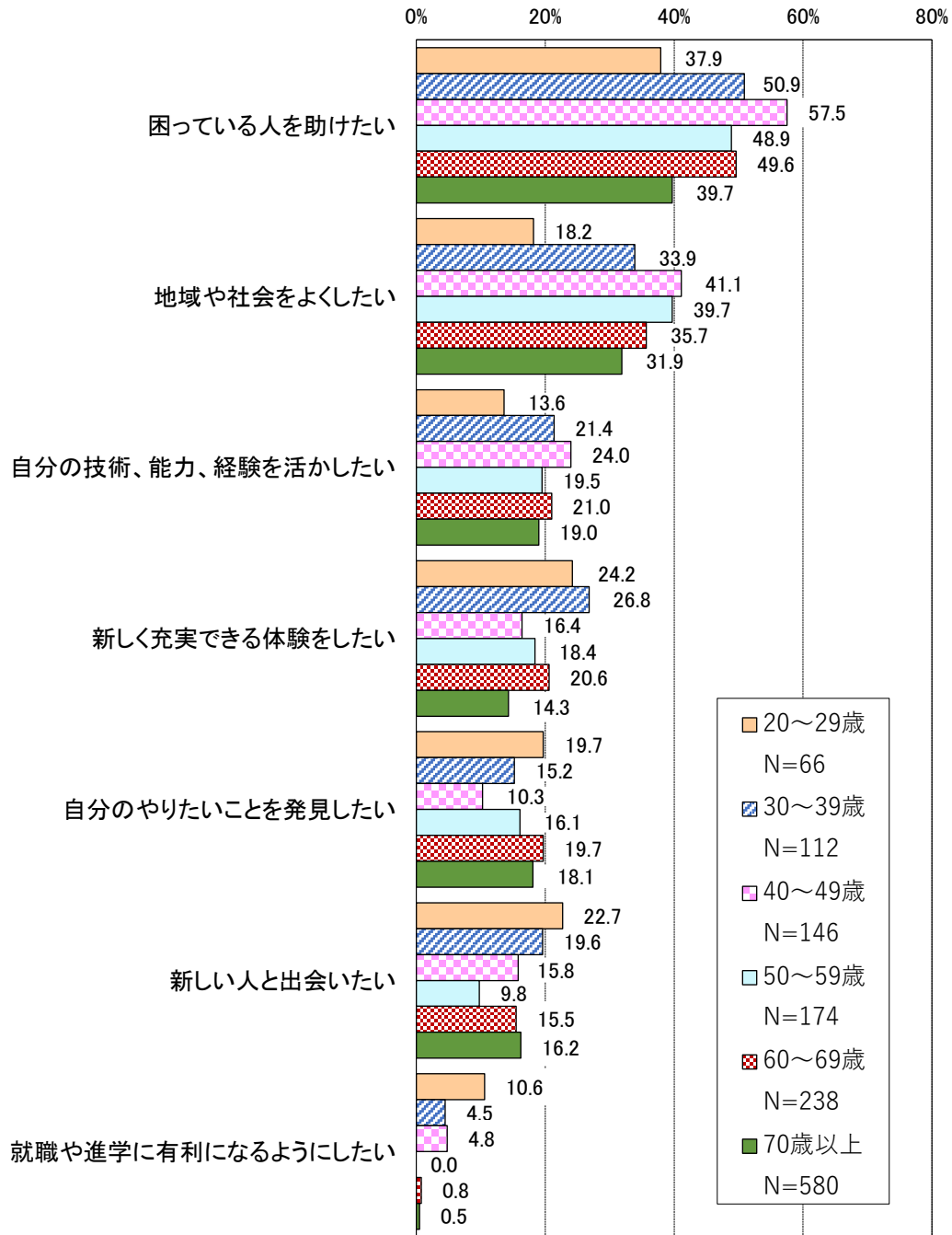


《男女別クロス集計結果》



- ボランティア活動をするとした場合の動機については、「困っている人を助けたい」「地域や社会をよくしたい」といった社会貢献の回答が多く、続いて「自分の技術、能力、経験を活かしたい」「新しく充実できる体験をしたい」「自分のやりたいことを発見したい」「新しい人と出会いたい」といった自己啓発に結び付ける回答が多くなっています。
- 男女別に見ると、「地域や社会をよくしたい」については女性に比べ男性の回答割合の方が高く、「新しく充実できる体験をしたい」については女性の回答割合の方が高くなっています。

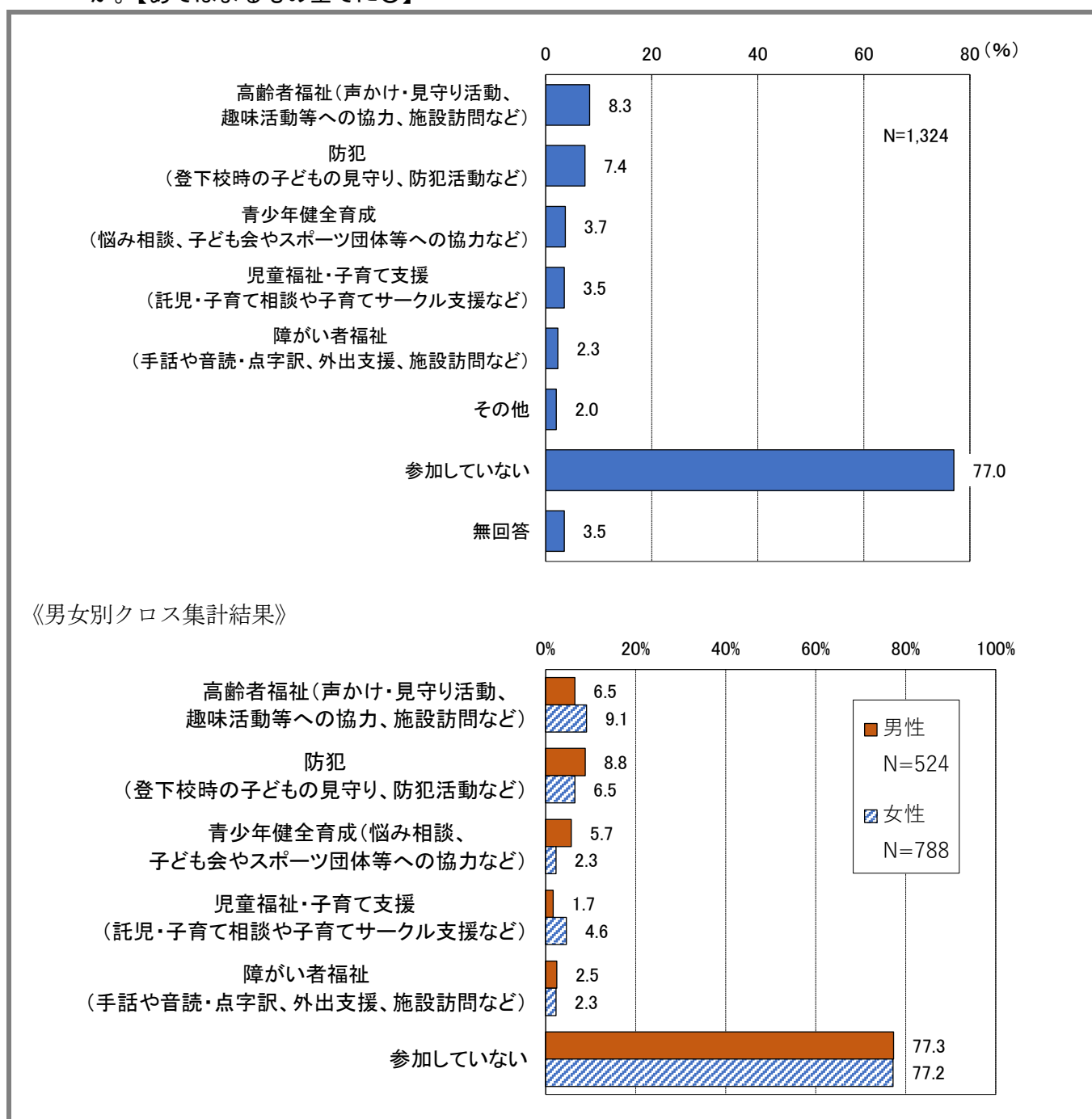
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ても概ね全体集計の結果と同傾向となっていますが、「20~29歳」については「新しく充実できる体験をしたい」24.2%や「新しい人と出会いたい」22.7%が、「困っている人を助けたい」37.9%に次いで高い割合となっています。

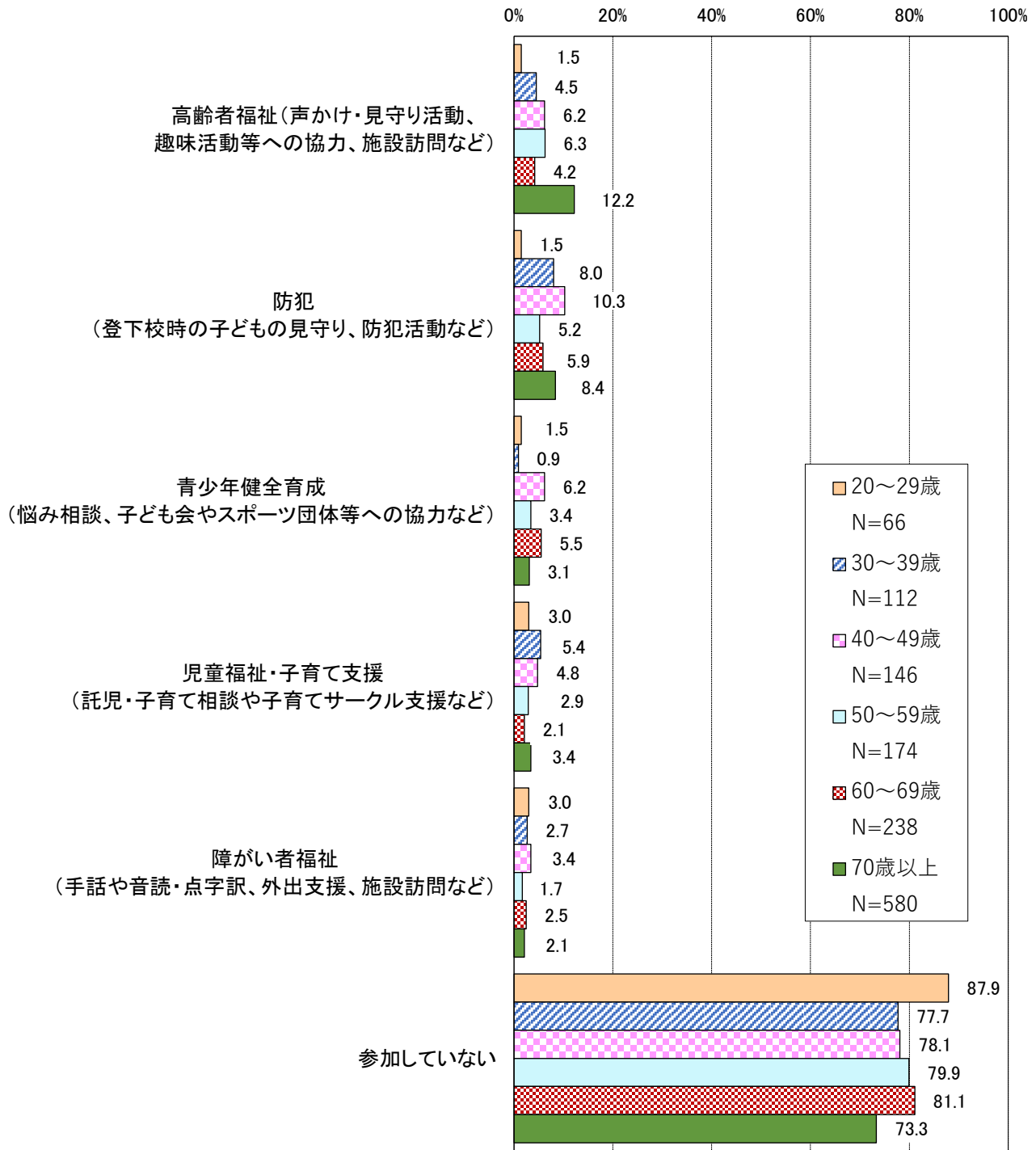


問17 次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に、過去3年間に参加したことがありますか。【あてはまるもの全てに○】



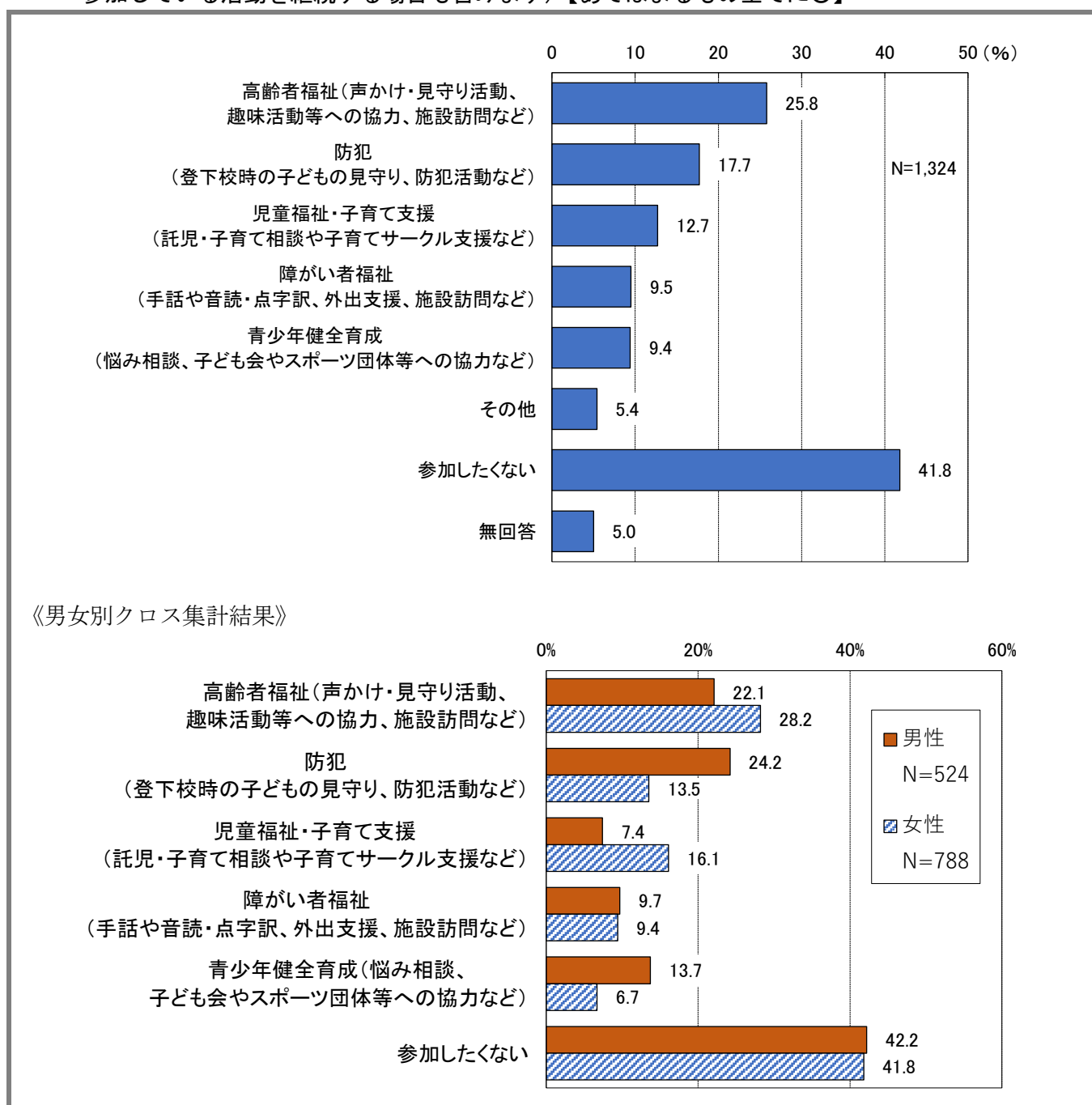
- 過去3年間の福祉に関わるボランティアやNPO活動等への参加状況については、「参加していない」と回答した人が77.0%と圧倒的に多く、何らかの活動に参加している人は全体の19.5%となっています。
- 参加しているものとしては「高齢者福祉」が8.3%、「防犯」が7.4%で、比較的多くなっています。
- 男女別に見ると、男性は「防犯」8.8%、女性は「高齢者福祉」9.1%が多くなっています。

《年齢階層別クロス集計結果》



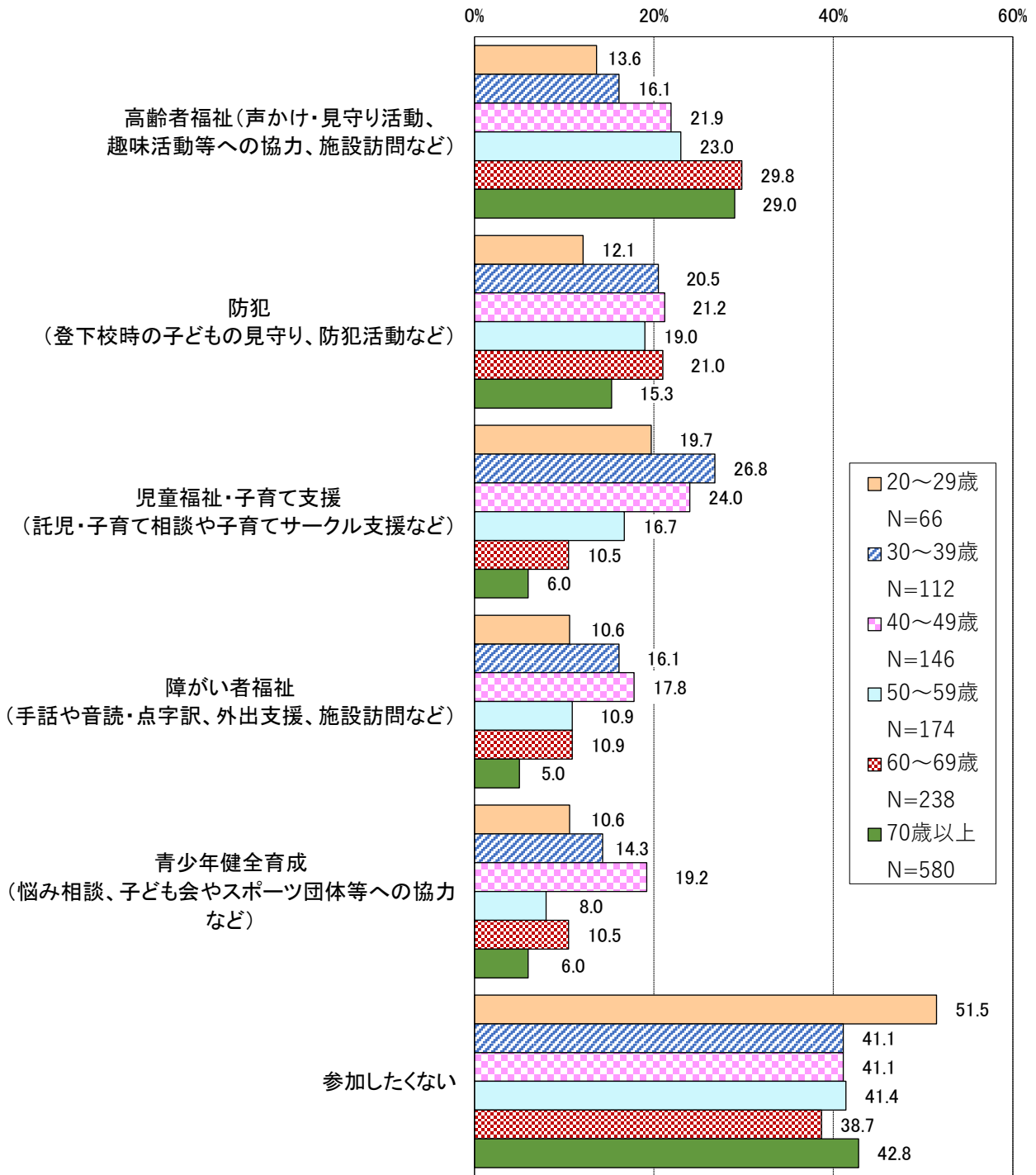
● 年齢階層別に見ると、「70歳以上」では「高齢者福祉」、「30～39歳」「40～49歳」では「防犯」が多くなっています。

問18 今後、次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したいと思いますか。(現在参加している活動を継続する場合も含まれます)【あてはまるもの全てに○】



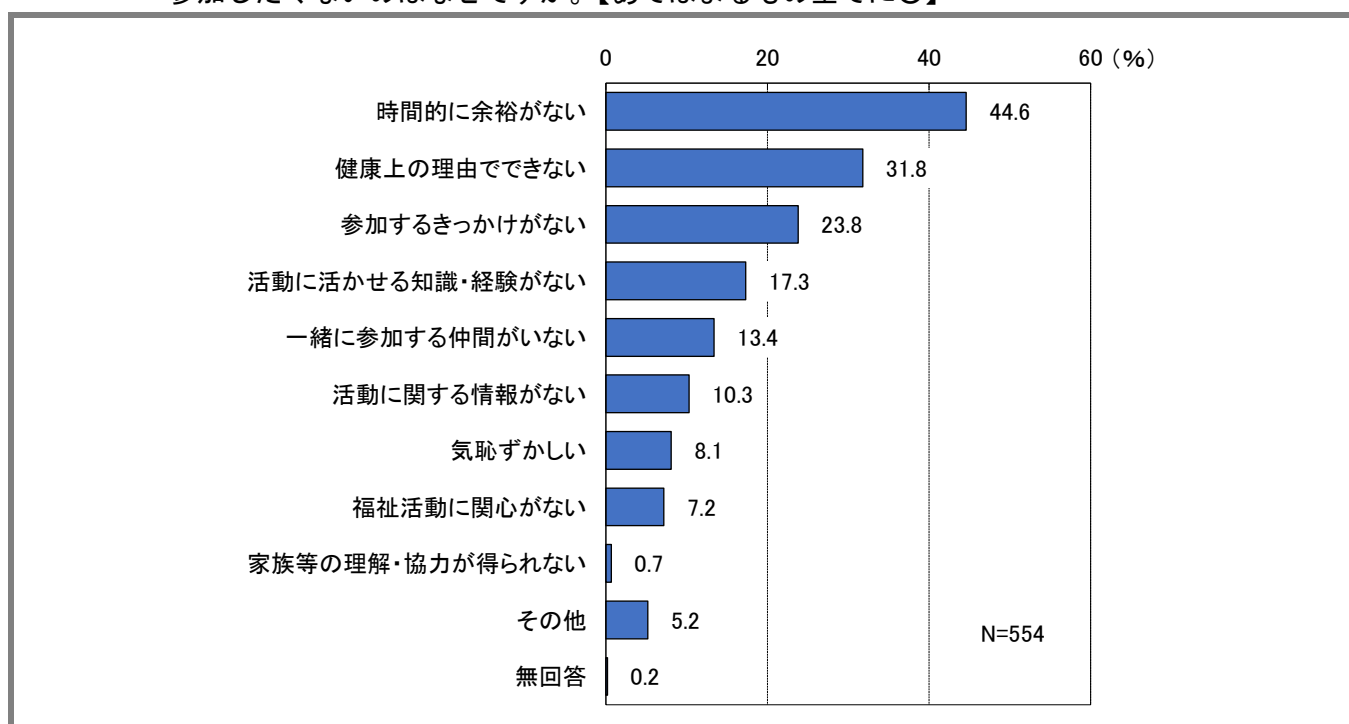
- 福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したいとの回答は 53.2%あり、内訳では「高齢者福祉」「防犯」「児童福祉・子育て支援」「障がい者福祉」「青少年健全育成」の順で多くなっています。一方で、「参加したくない」との回答は 41.8%となっています。
- 男女別に見ると、「高齢者福祉」と「児童福祉・子育て支援」については男性よりも女性、「防犯」と「青少年健全育成」については女性よりも男性の方が回答割合が高くなっています。

《年齢階層別クロス集計結果》



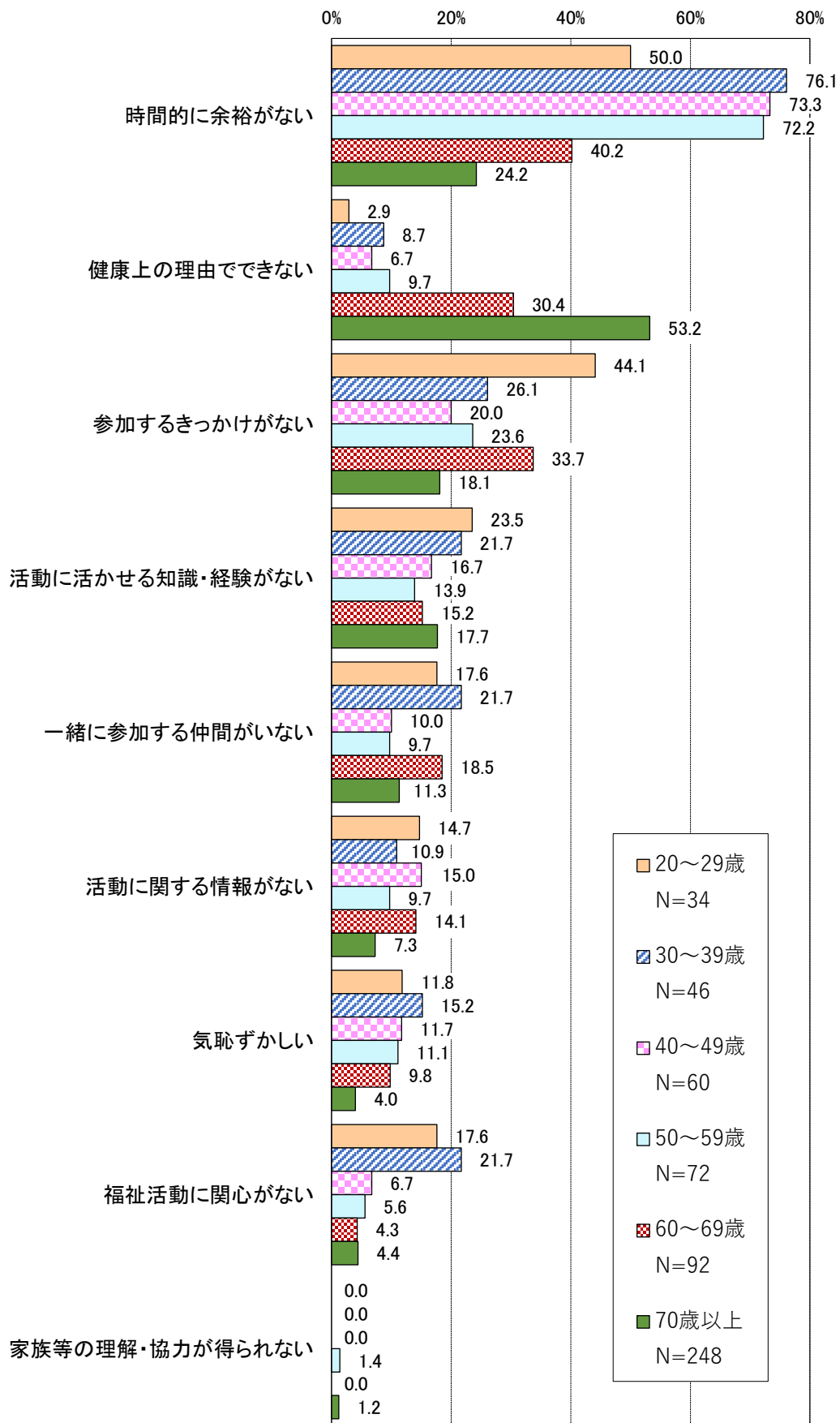
● 年齢階層別に見ると、「高齢者福祉」については60歳以上の参加意向が高く、50歳未満は「児童福祉・子育て支援」への参加意向が高くなっています。

問18-1 問18で、「7. 参加したくない」とご回答された方のみお答えください。  
参加したくないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】



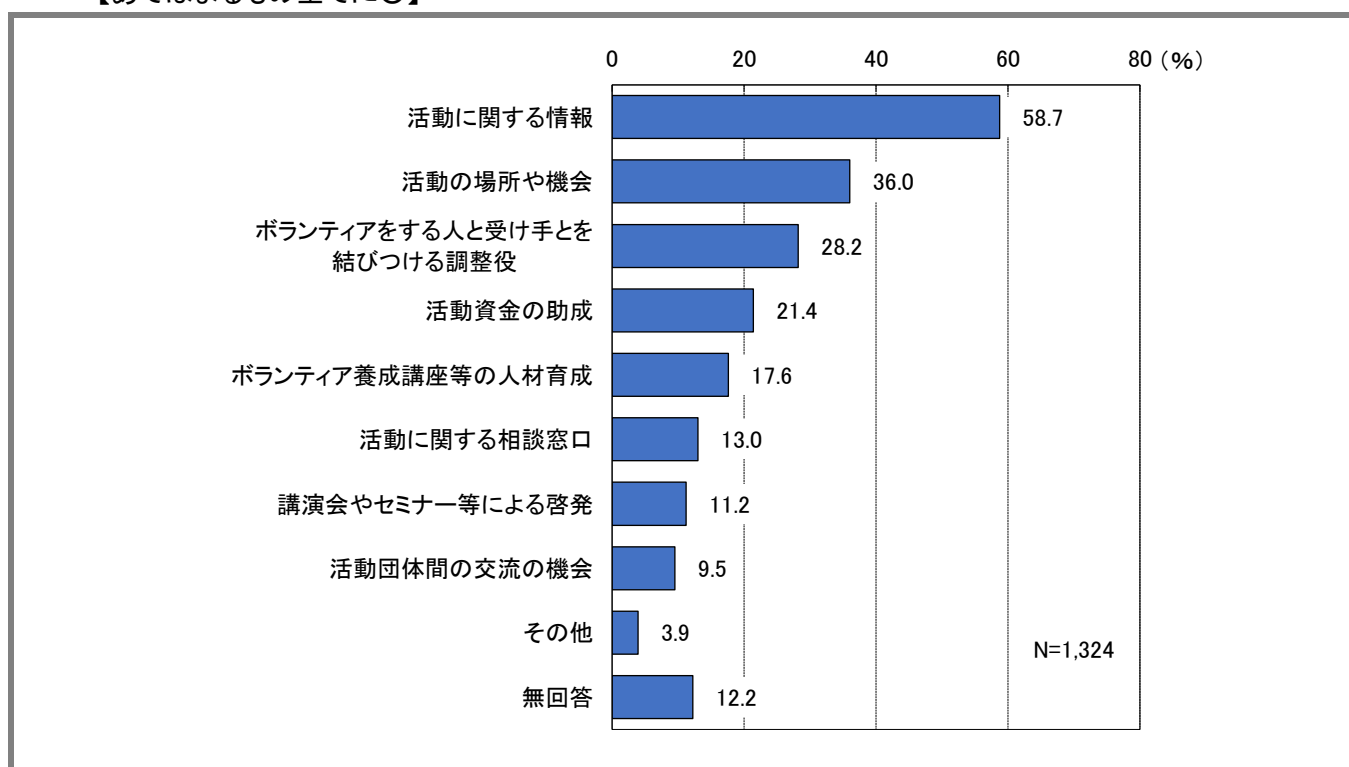
- ボランティアやNPO活動等に参加したくない理由としては、「時間的に余裕がない」「健康上の理由でできない」といった現状参加することが難しいといった回答が多く見受けられます。一方で「参加するきっかけがない」「一緒に参加する仲間がいない」「活動に関する情報がない」など、きっかけがあれば活動への参加が見込まれる回答もあります。

《年齢階層別クロス集計結果》



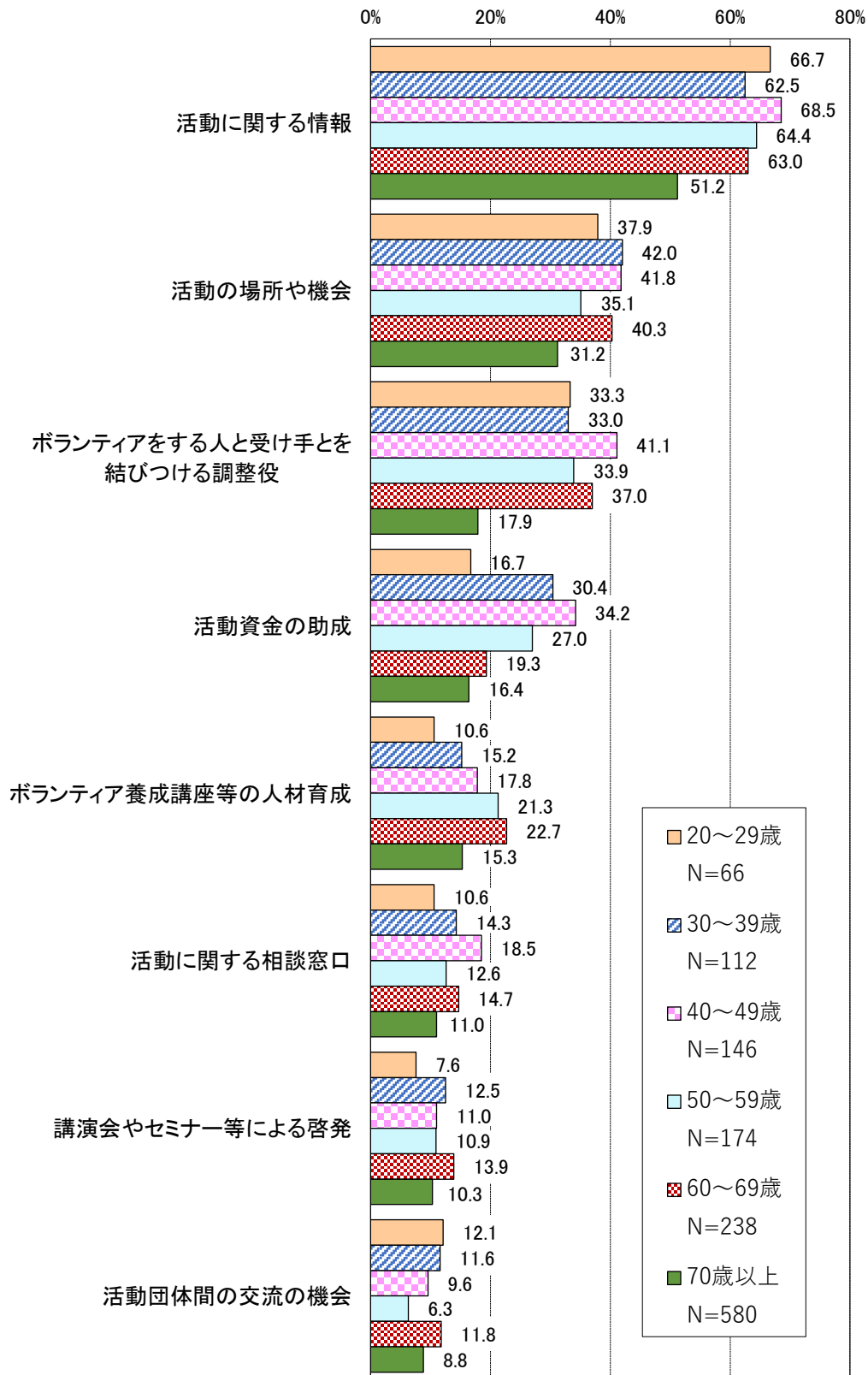
● 「70歳以上」を除く全ての階層で「時間的に余裕がない」が最も多くなっています。

問19 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。  
【あてはまるもの全てに○】



- 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために必要だと思うこととしては、「活動に関する情報」が 58.7%と最も多く、以下、「活動の場所や機会」36.0%、「ボランティアをする人と受け手とを結びつける調整役」28.2%、「活動資金の助成」21.4%と続いています。

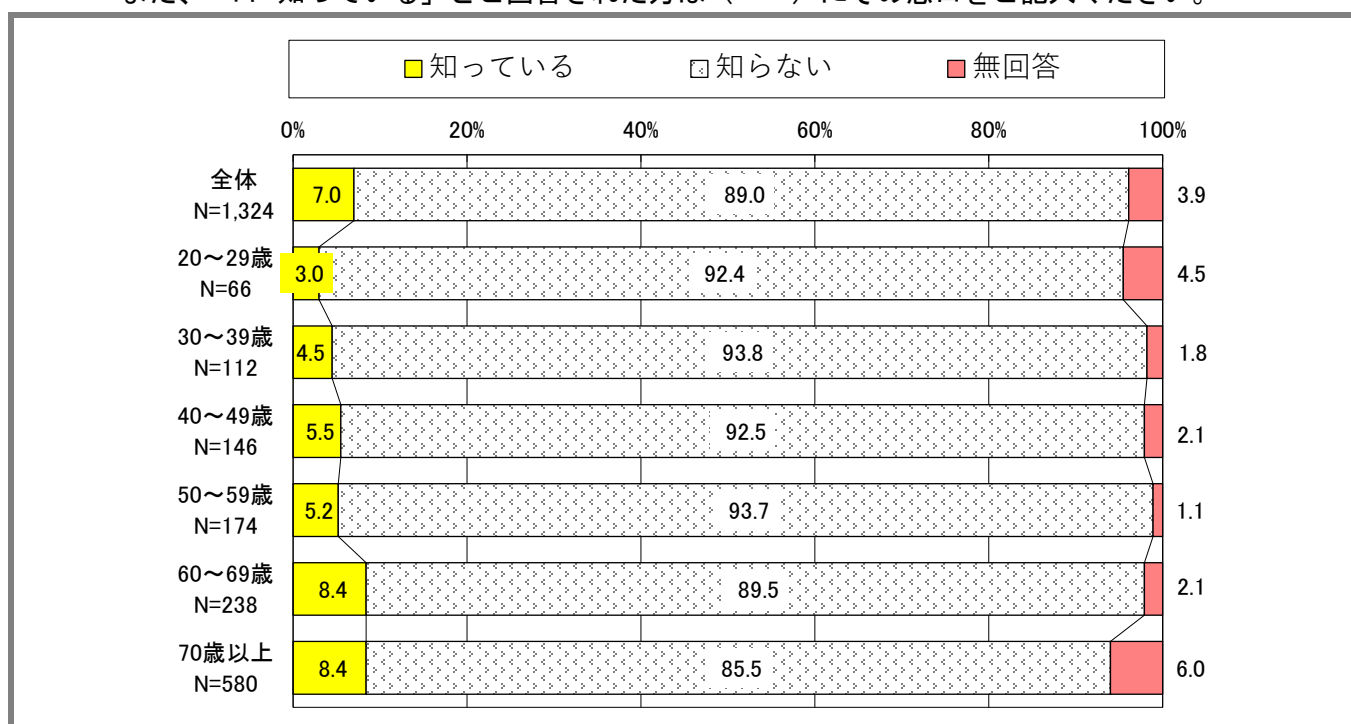
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ても概ね全体集計の結果と同傾向となっています。



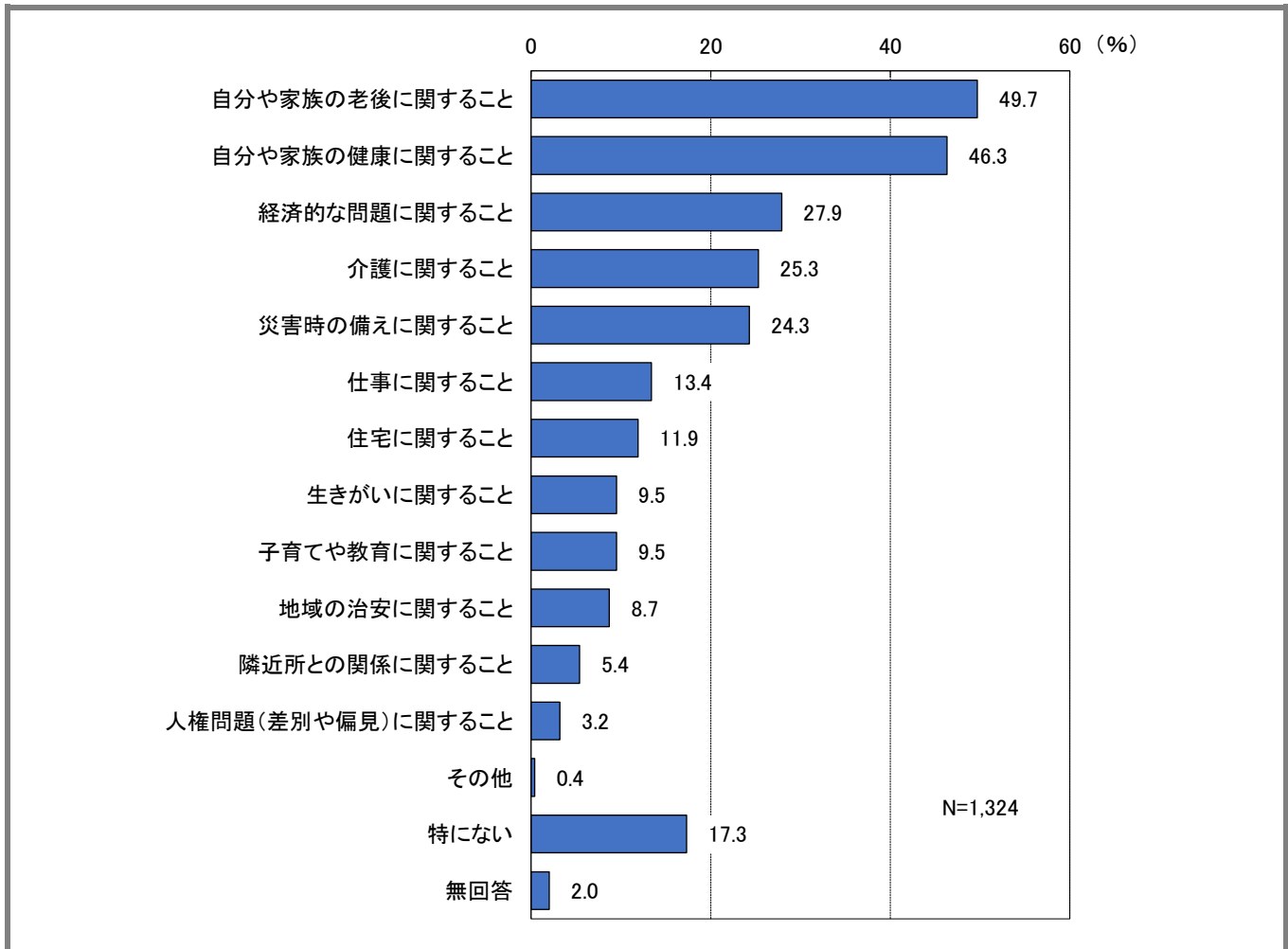
問20 ボランティア活動に参加するための窓口を知っていますか。【〇は1つだけ】  
また、「1. 知っている」とご回答された方は（ ）にその窓口をご記入ください。



- ボランティア活動に参加するための窓口を「知っている」と回答した人の割合は全体の 7.0%、「知らない」と回答した人の割合は 89.0%となっています。
- 「知っている」と回答した 93 人のうち、具体的な窓口を記入した人は 79 人で、そのうち「社会福祉協議会」と回答した人が 52 人、「市役所、福祉担当課」と回答した人が 8 人、その他の窓口を記入した人が 19 人となっています。

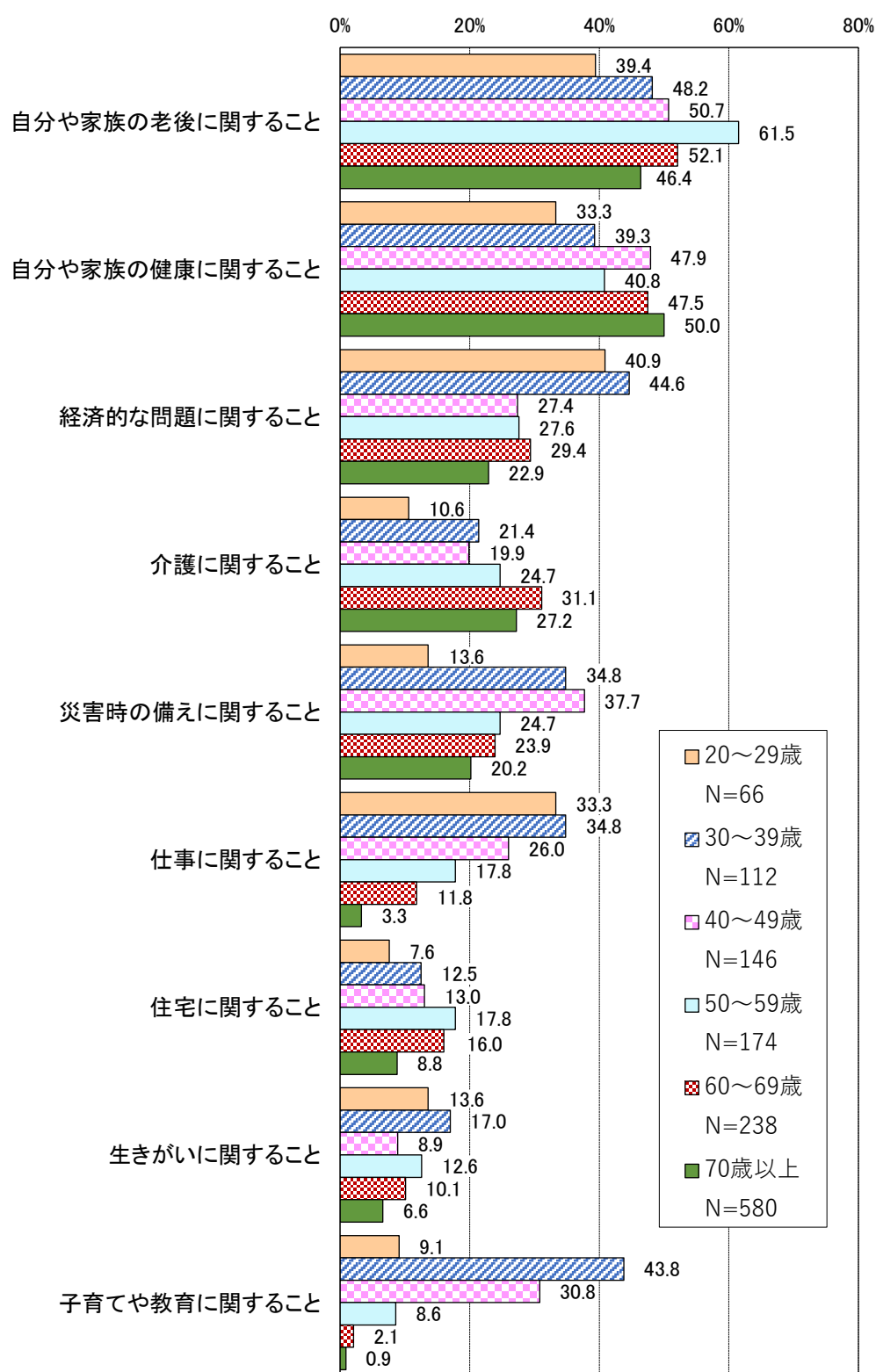
## IV. 福祉サービスについて

問21 あなたは現在、日々の生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。【あてはまるもの全てに○】



- 日々の生活で感じている悩みや不安としては、「自分や家族の老後に関すること」49.7%や「自分や家族の健康に関すること」46.3%という回答が多くなっています。

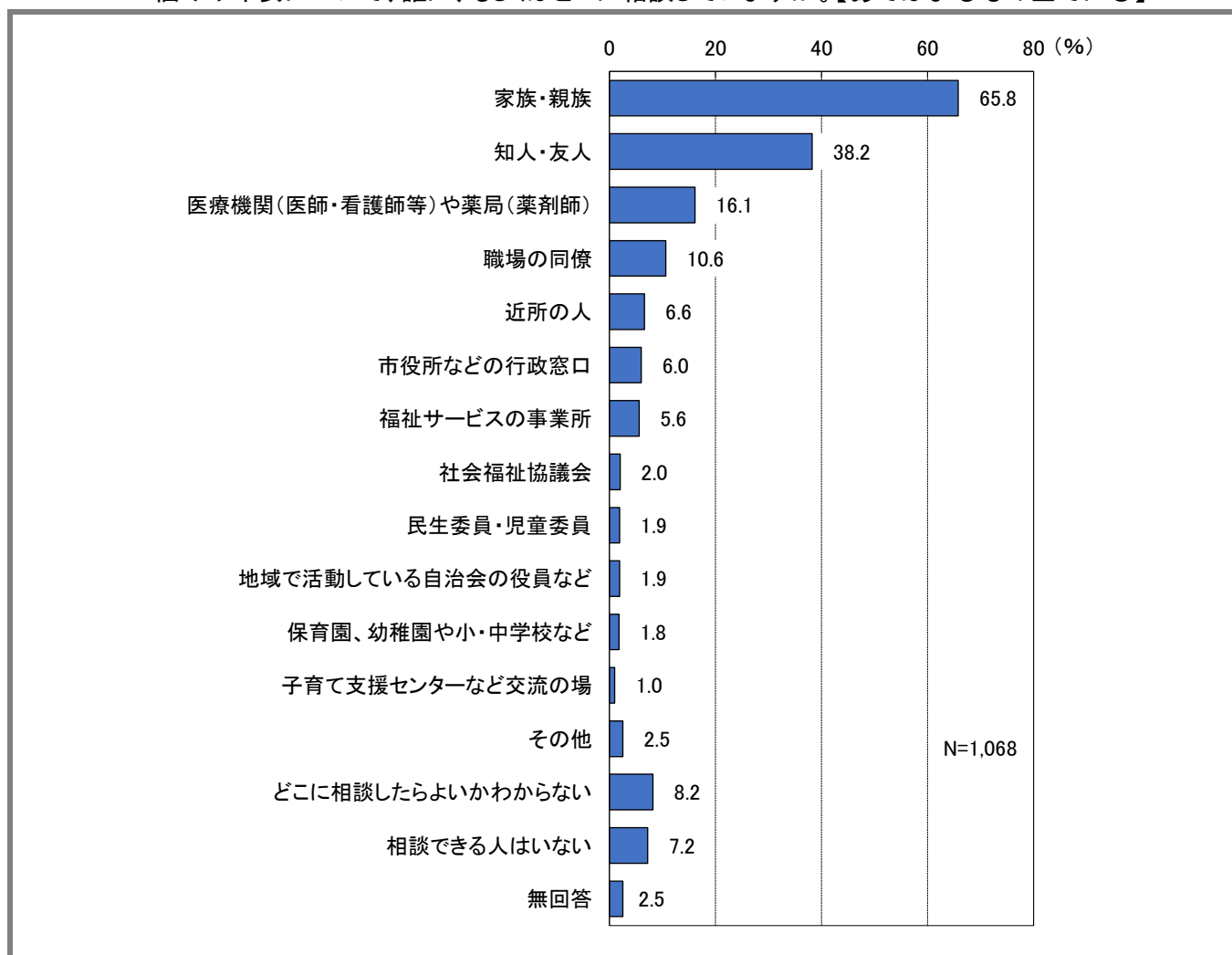
《年齢階層別クロス集計結果（上位9項目抜粋）》



- 「自分や家族の老後に関する事」「自分や家族の健康に関する事」は、いずれの年齢階層においても上位となっています。それ以外の回答を見ると「20~29歳」は「経済的な問題」「仕事」、「30~39歳」は「経済的な問題」「子育てや教育」、「40~49歳」は「災害時の備え」「子育てや教育」、「50~59歳」は「経済的な問題」「介護」「災害時の備え」、「60~69歳」「70歳以上」は「介護」が上位となっています。

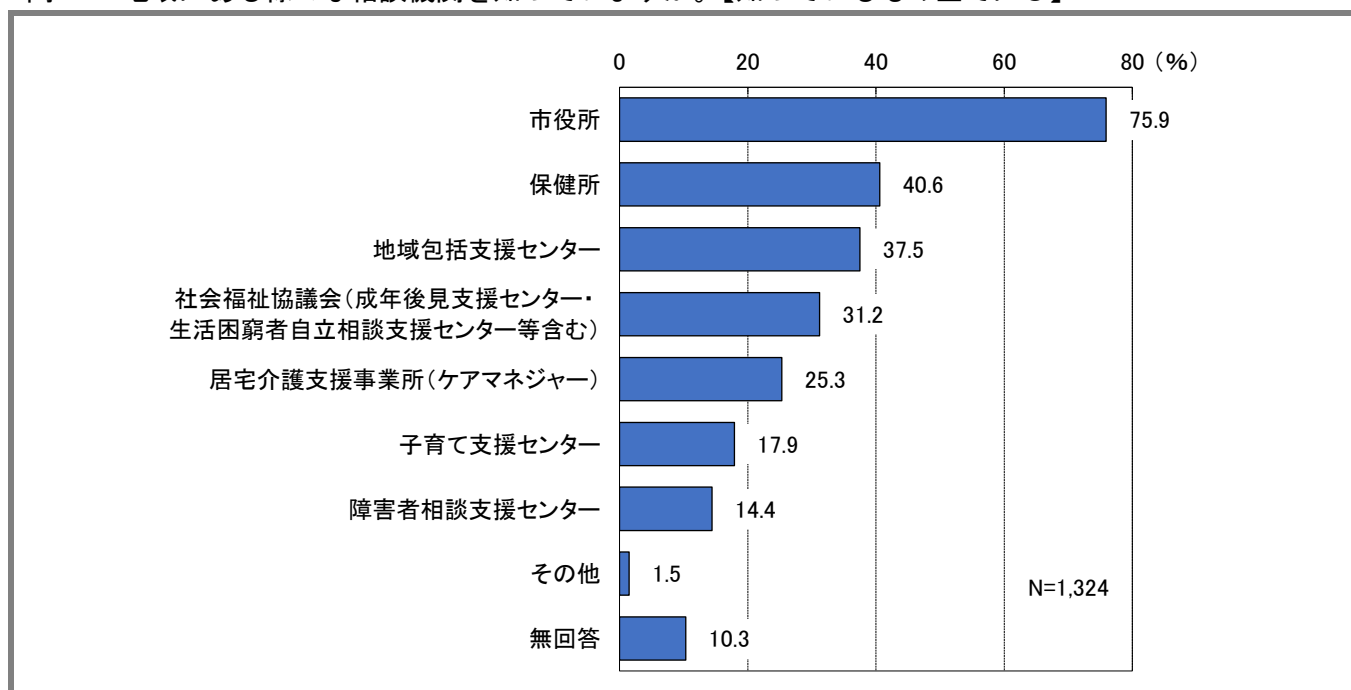
問21-1 問21で、1～13のいずれかにご回答された方のみお答えください。

悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談していますか。【あてはまるもの全てに○】



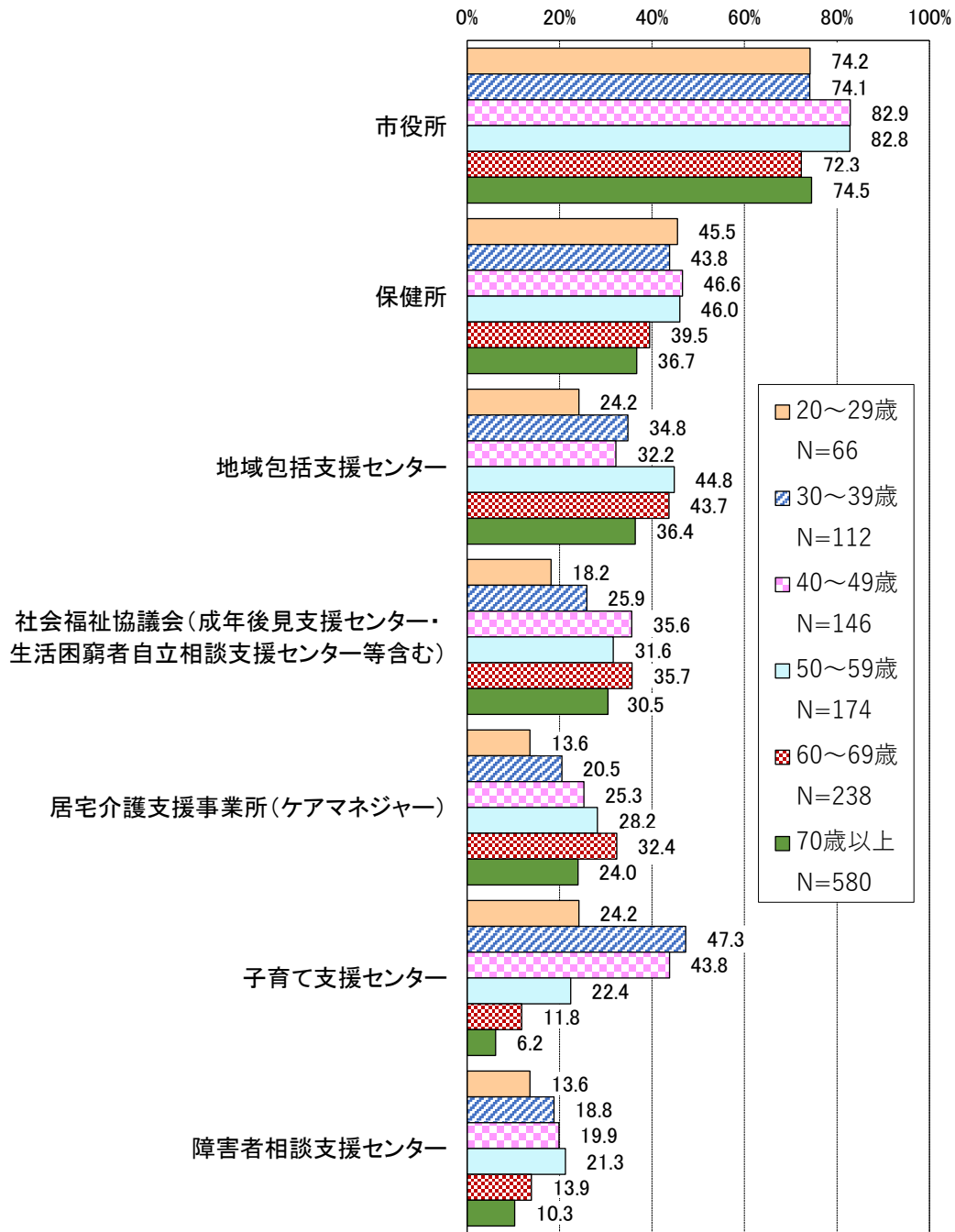
- 悩みや不安の相談先としては、「家族・親族」が 65.8%と圧倒的に多く、「知人・友人」が 38.2%、「医療機関（医師・看護師等）や薬局（薬剤師）」が 16.1%、「職場の同僚」が 10.6%でそれに続いています。

## 問22 地域にある様々な相談機関を知っていますか。【知っているもの全てに○】



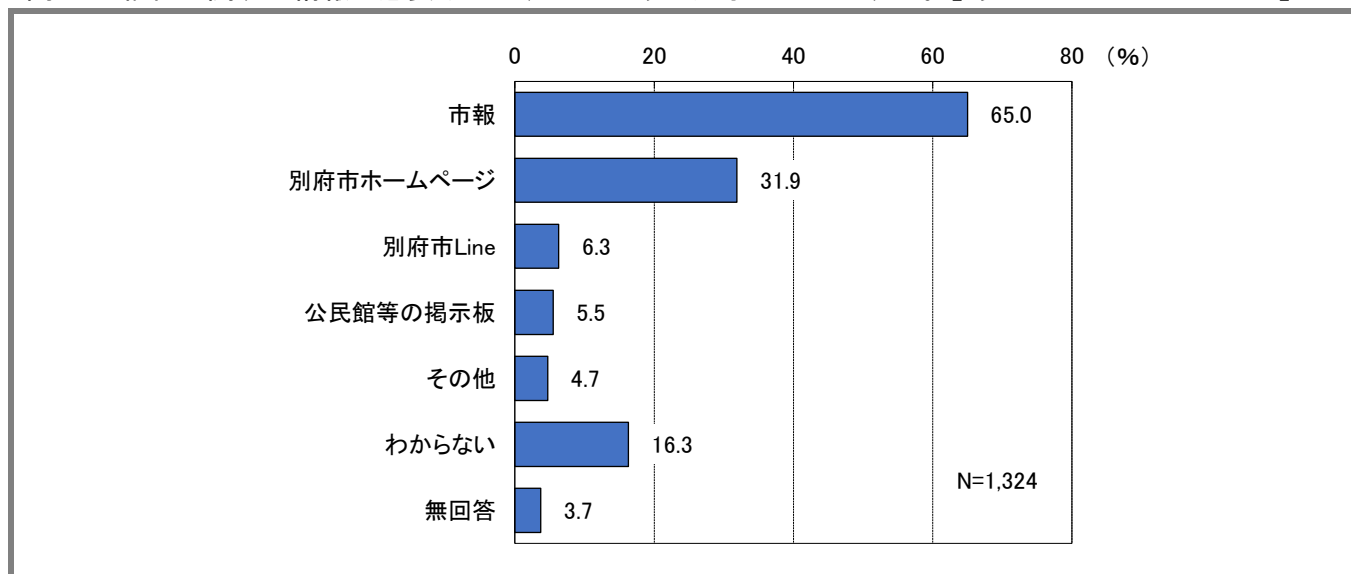
- 地域にある様々な相談機関の認知度については、「市役所」が75.9%と最も高くなっています。

《年齢階層別クロス集計結果》



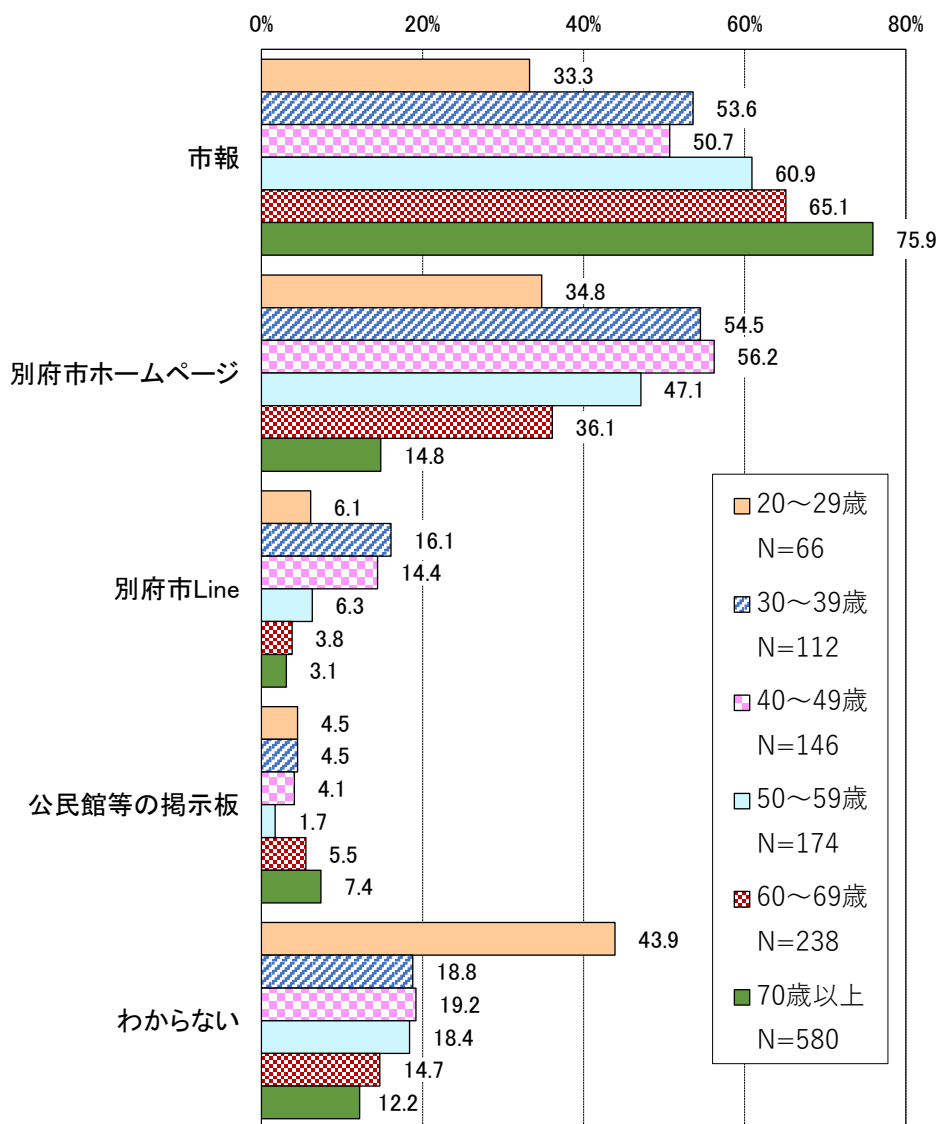
● 年齢階層別に見ても、全体集計の回答傾向と大きな差異はありませんが、「子育て支援センター」の認知度は、他の年齢階層に比べ「30~39歳」「40~49歳」の回答割合が高くなっています。

## 問23 福祉に関する情報が必要なとき、どのように入手していますか。【あてはまるもの全てに○】



- 福祉に関する情報の入手方法については、「市報」と回答した人の割合が 65.0%と最も高く、「別府市ホームページ」が 31.9%でそれに続いています。

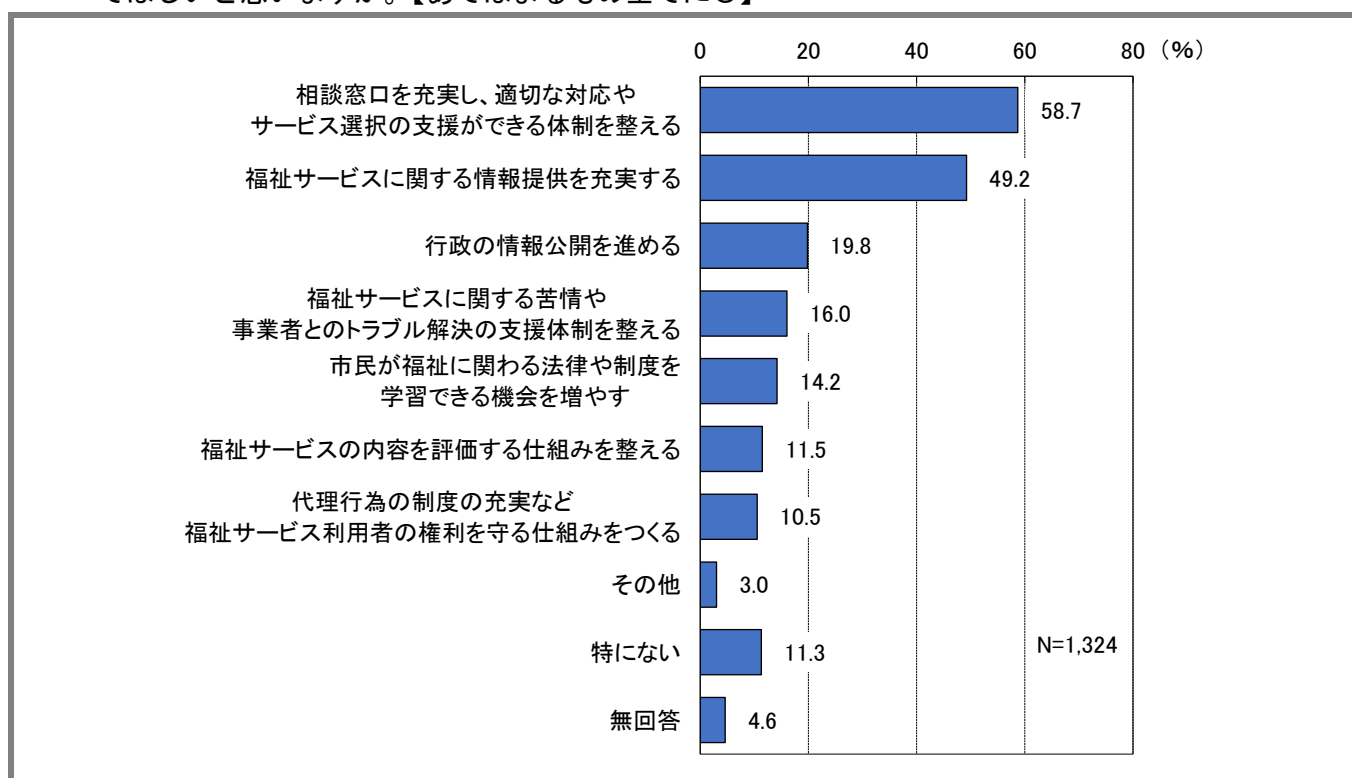
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ると、50歳未満は「市報」「ホームページ」の割合が高く、50歳以上は「市報」の割合が高くなっています。

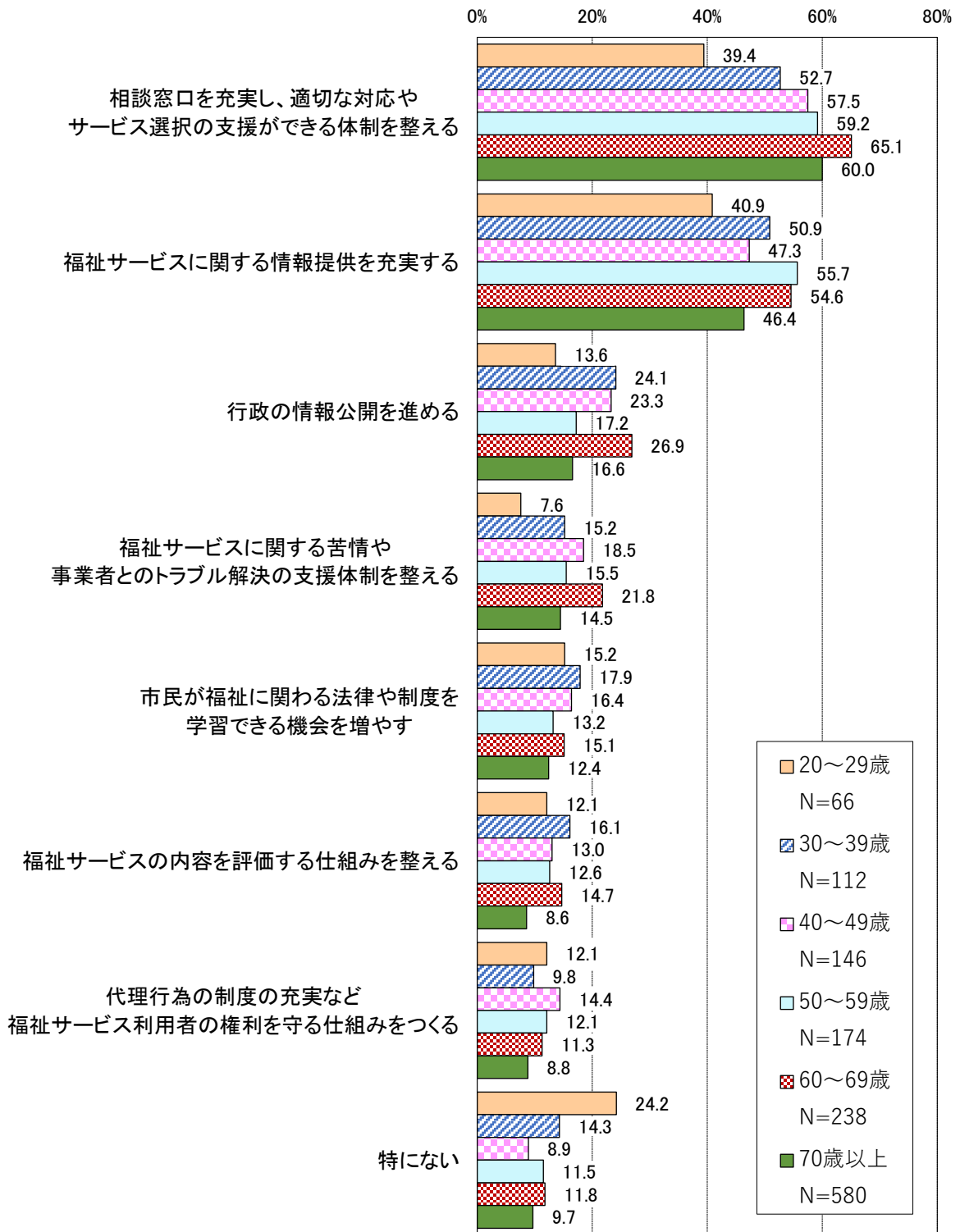


問24 あなたが最適な福祉サービスを安心して利用するためには、別府市にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



- 自分に最適のサービスを安心して利用するために、今後別府市に取り組んでほしいと思うこととしては、「相談窓口を充実し、適切な対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」を選択した人が58.7%と最も多く、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が49.2%で、それに続いています。

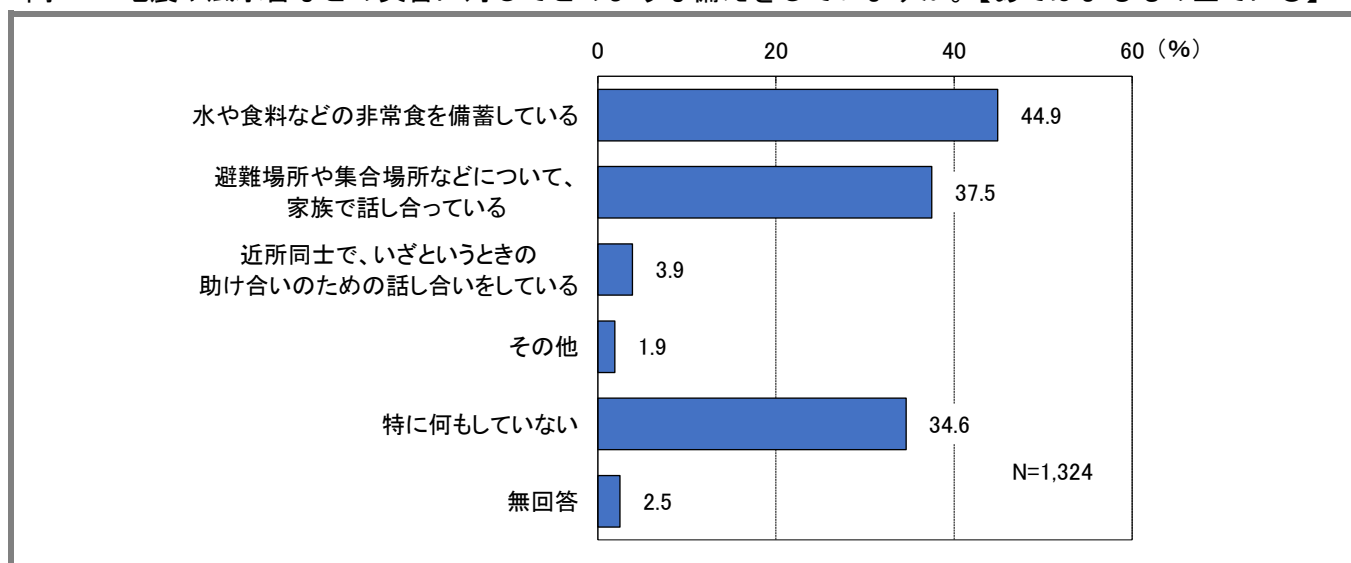
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ても、全体集計の回答傾向と大きな差異は見られませんでした。

## V. 災害時の対応について

問25 地震や風水害などの災害に対してどのような備えをしていますか。【あてはまるもの全てに○】



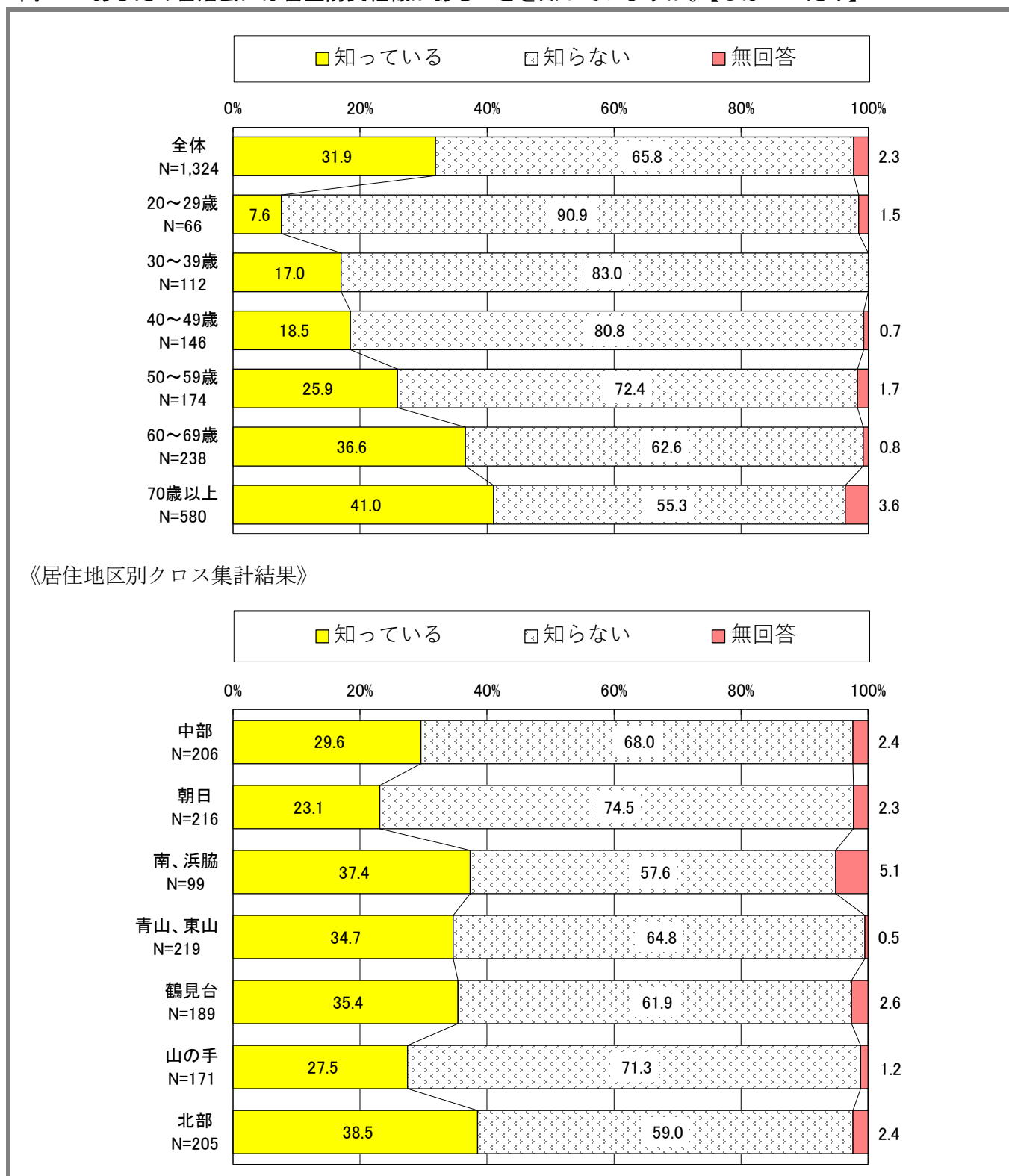
- 地震や風水害などの災害に対する備えについては、「水や食料などの非常食を備蓄している」と回答した人が 44.9%、「避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている」と回答した人が 37.5% となっており、「特に何もしていない」と回答した人は 34.6% となっています。
- 「近所同士で、いざというときの助け合いのための話し合いをしている」と回答した人は 3.9% と低い割合となっています。

問26 あなたの地域における災害時の避難場所を知っていますか。【〇は1つだけ】



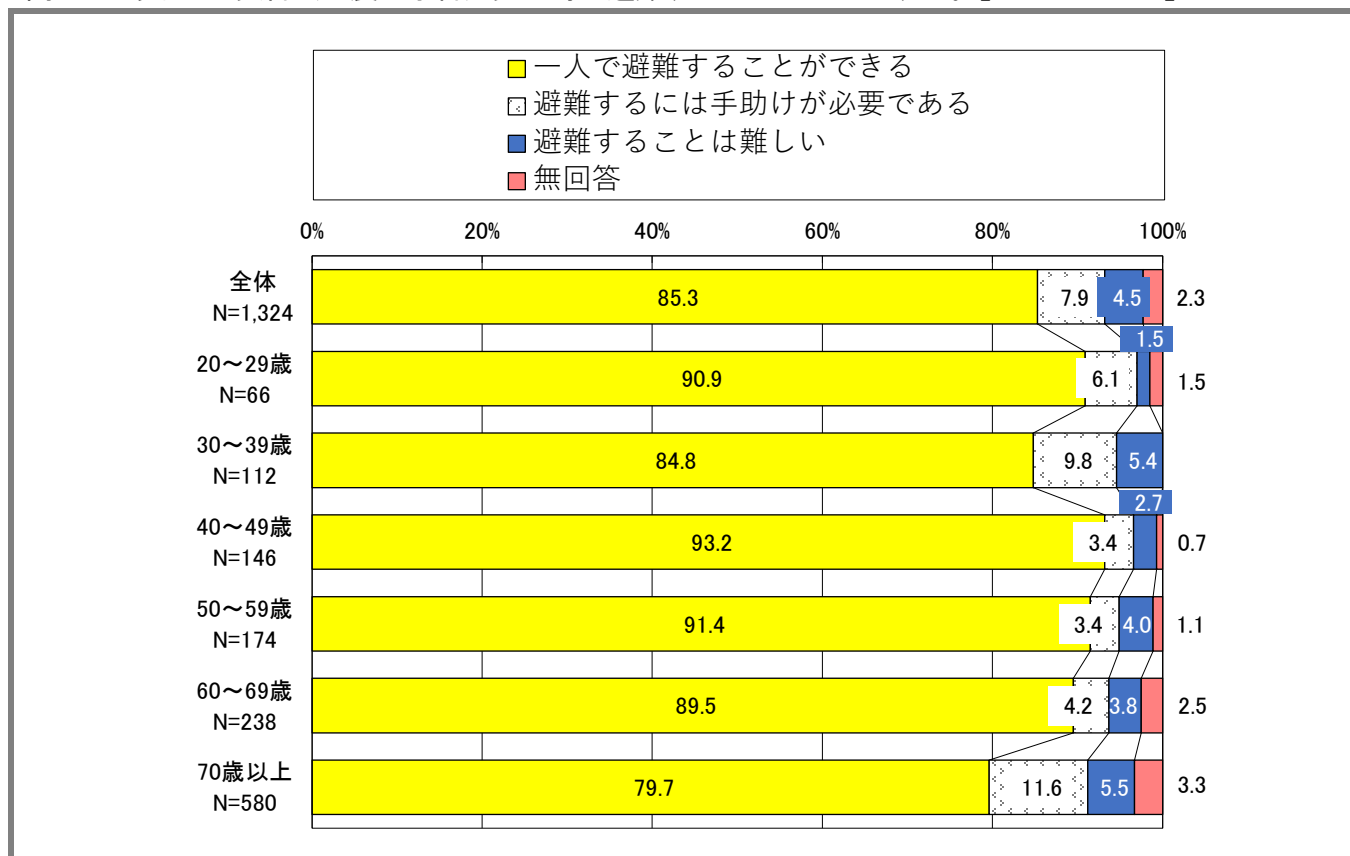
- 災害時の避難場所を「知っている」と回答した人の割合は全体の83.2%、「知らない」と回答した人は15.3%となっています。
- 年齢階層別に見ると、「知らない」と回答した人の割合が最も高かったのは「20～29歳」30.3%で、年齢階層が高くなるにつれて低くなっています。
- 居住地区別に見ても、大きな差異は見られませんでした。

## 問27 あなたの自治会には自主防災組織があることを知っていますか。【〇は1つだけ】



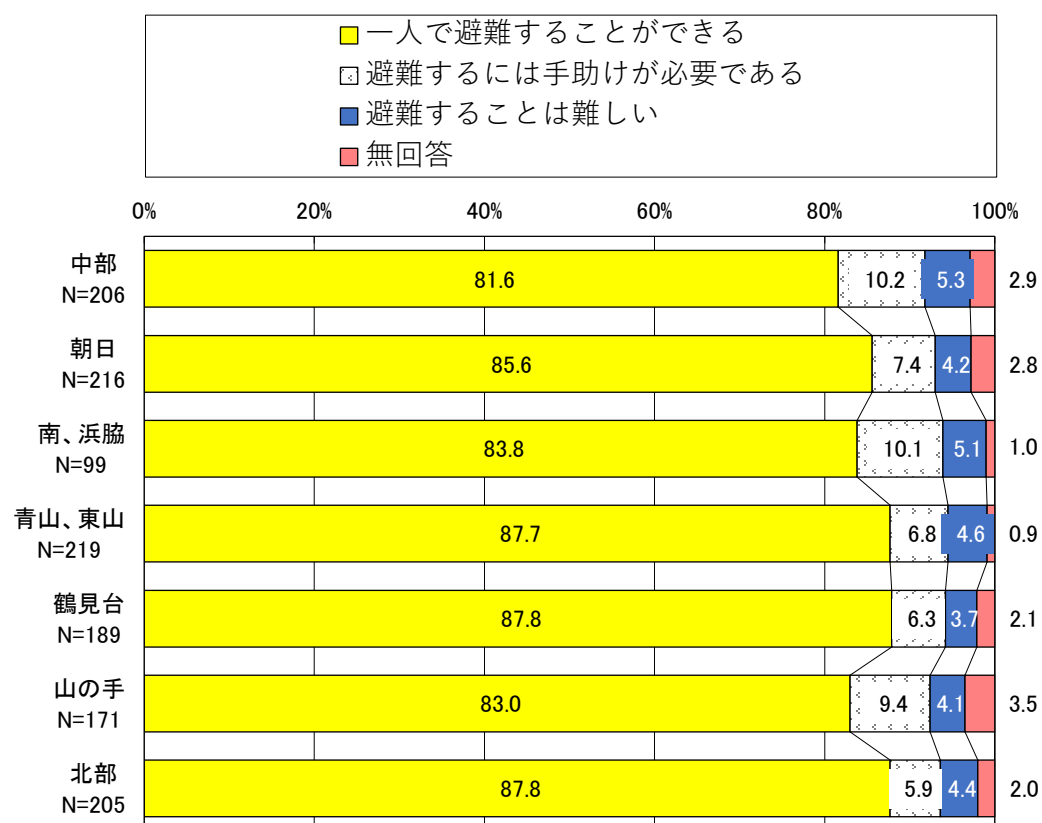
- 自治会に自主防災組織があることを「知っている」と回答した人の割合は全体の 31.9%で、年齢階層が高くなるにつれてその割合も高くなっています。
- 居住地区別に見て、「知っている」と回答した人の割合が最も低かったのは「朝日」23.1%となっています。

問28 あなたは災害（地震や水害）発生時に避難することができますか。【〇は1つだけ】



- 災害（地震や水害）発生時に「避難することは難しい」と回答した人の割合は全体の 4.5%、「避難するには手助けが必要である」と回答した人の割合は 7.9%となっています。
- 「避難することは難しい」または「避難するには手助けが必要である」と回答した人の割合を年齢階層別に見ると、「70歳以上」の回答割合が 17.1%と最も高く、次いで「30～39歳」が 15.2%となっています。

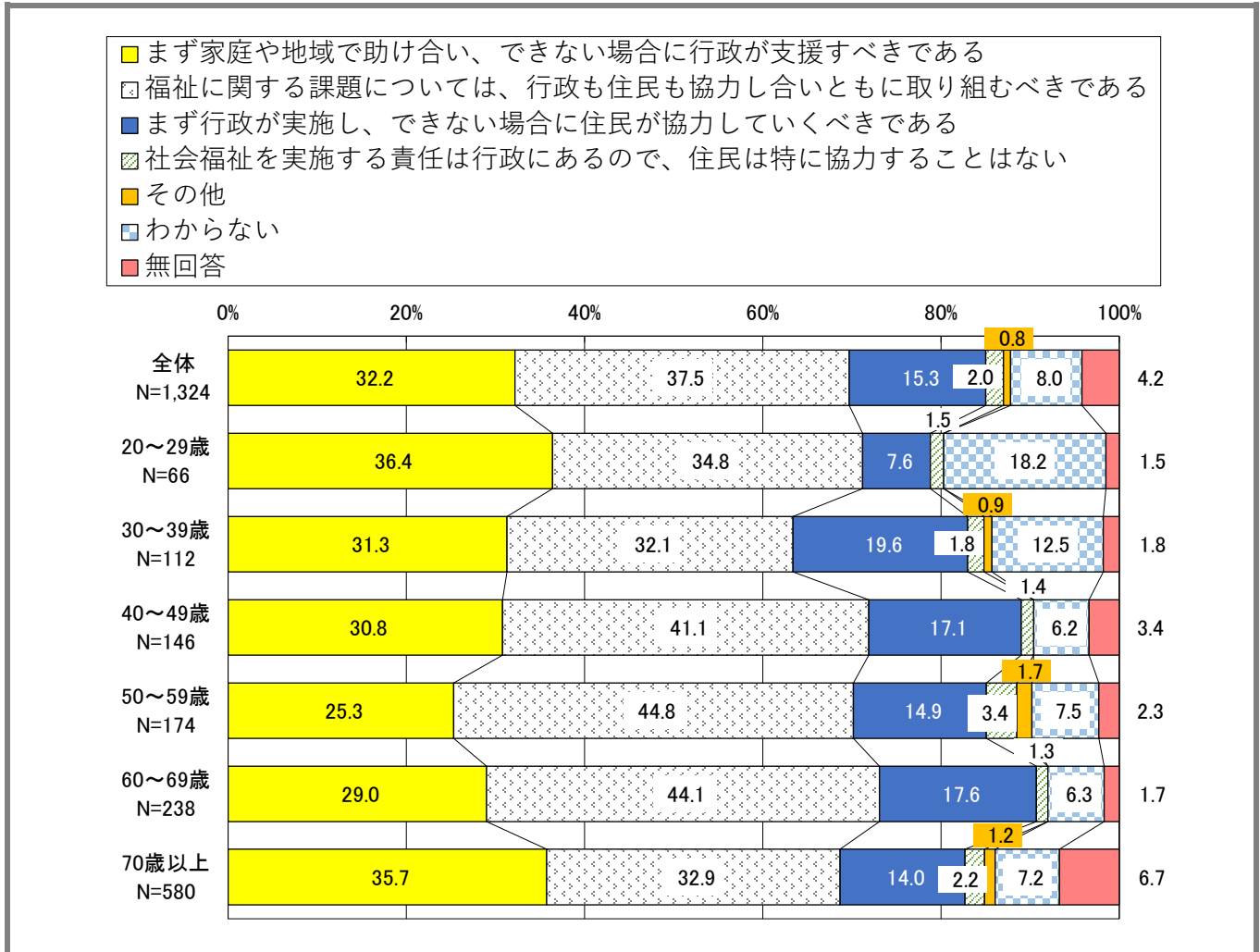
## 《居住地区別クロス集計結果》



- 居住地区別に見ても、回答傾向に大きな差異は見られませんでした。

## VI. 福祉施策全般について

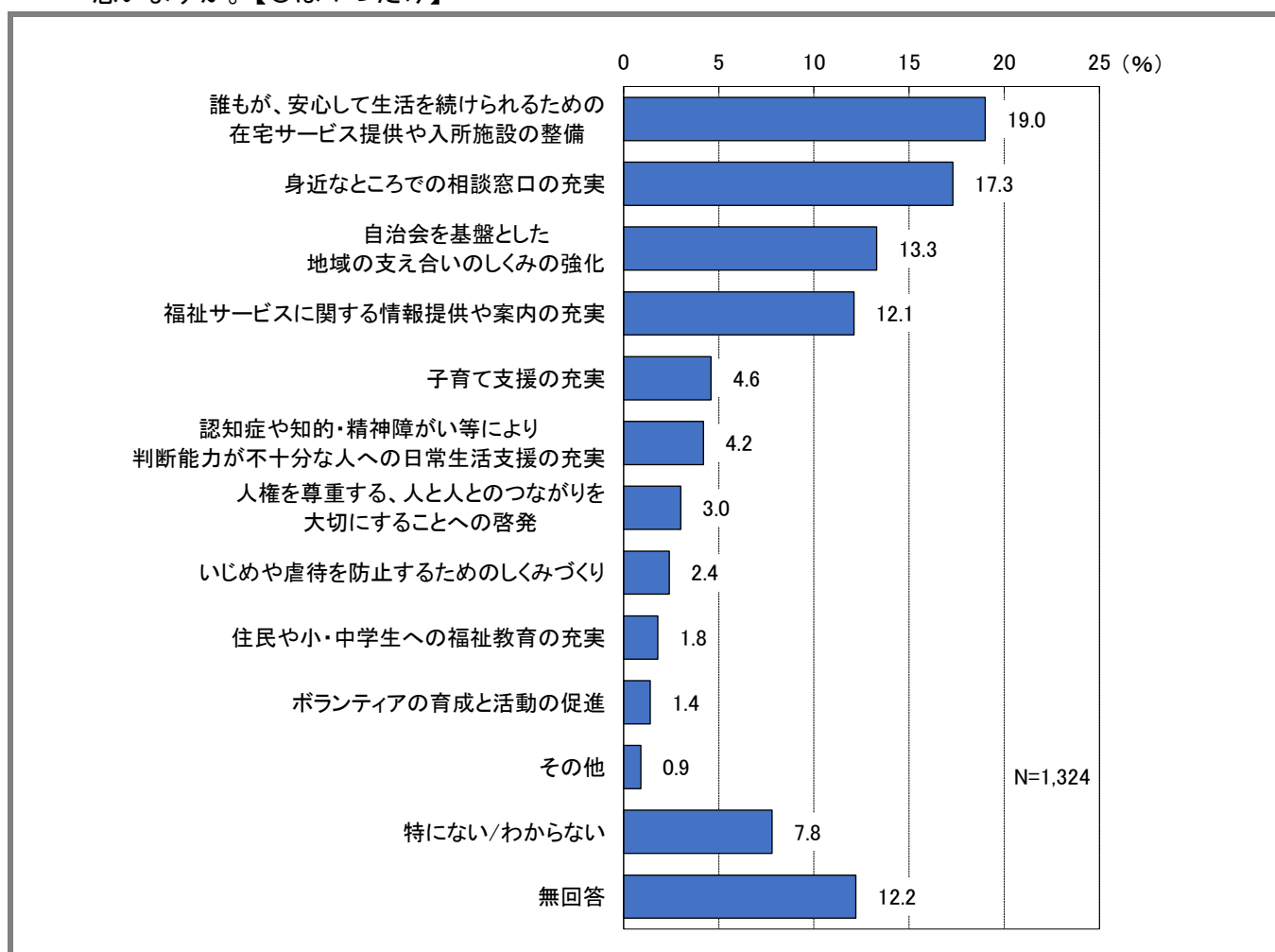
問29 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものは何ですか。【〇は1つだけ】



- 行政と地域住民との関係については、「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いともに取り組むべきである」を選択した人が全体の37.5%と最も多く、「社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」という考えは2.0%にとどまっています。
- また、いずれの年齢階層においても「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力していくべきである」という考え方よりも、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」という考え方の方が多くなっています。

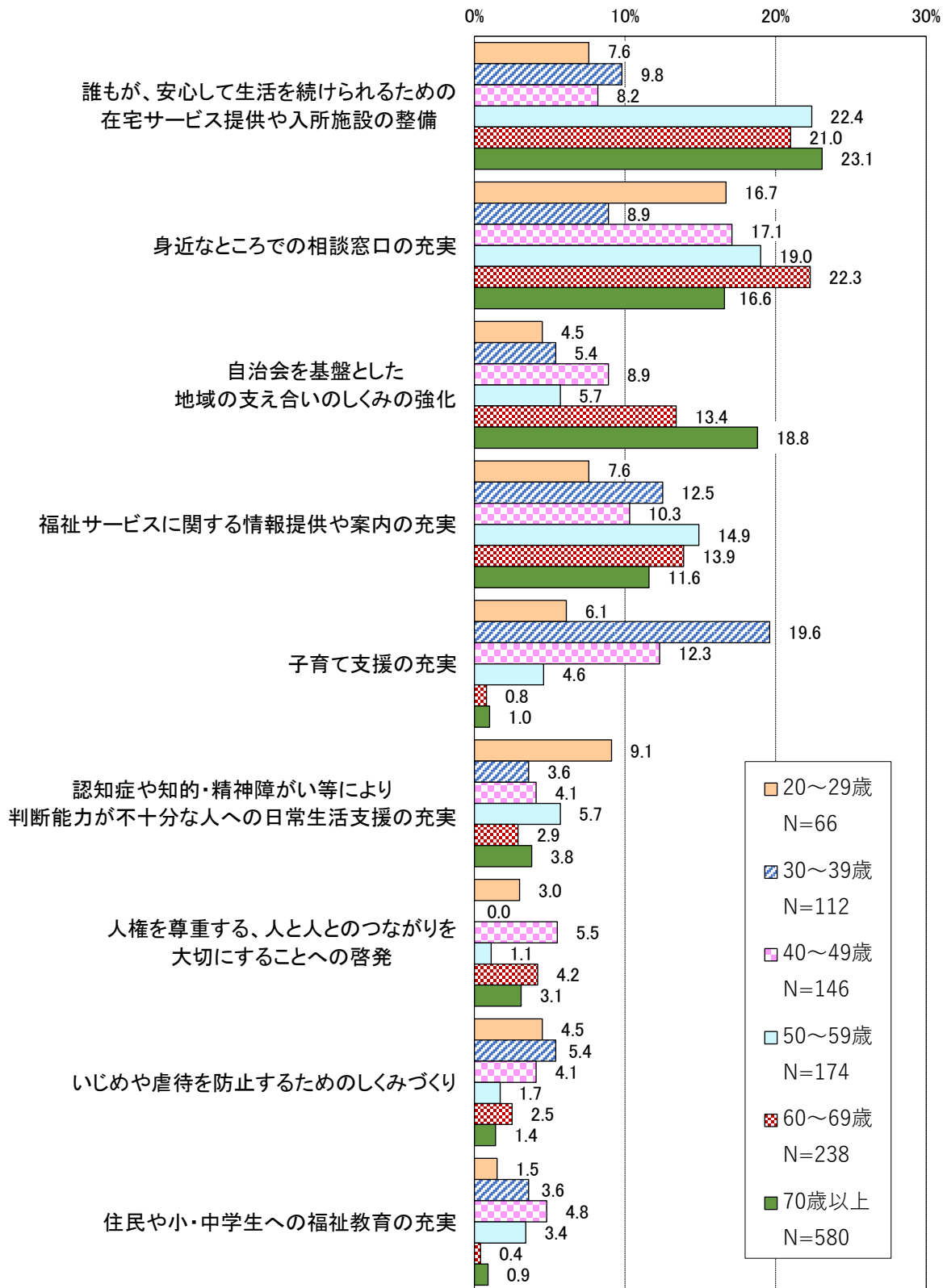


問30 今後、別府市の地域福祉の充実を図るためには、どのような施策に優先的に取り組んでほしいと思いますか。【〇は1つだけ】



- 別府市の地域福祉の充実を図るために優先的に取り組んでほしい施策としては、「誰もが、安心して生活を続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備」と回答した人が 19.0%と最も多く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」が 17.3%となっています。

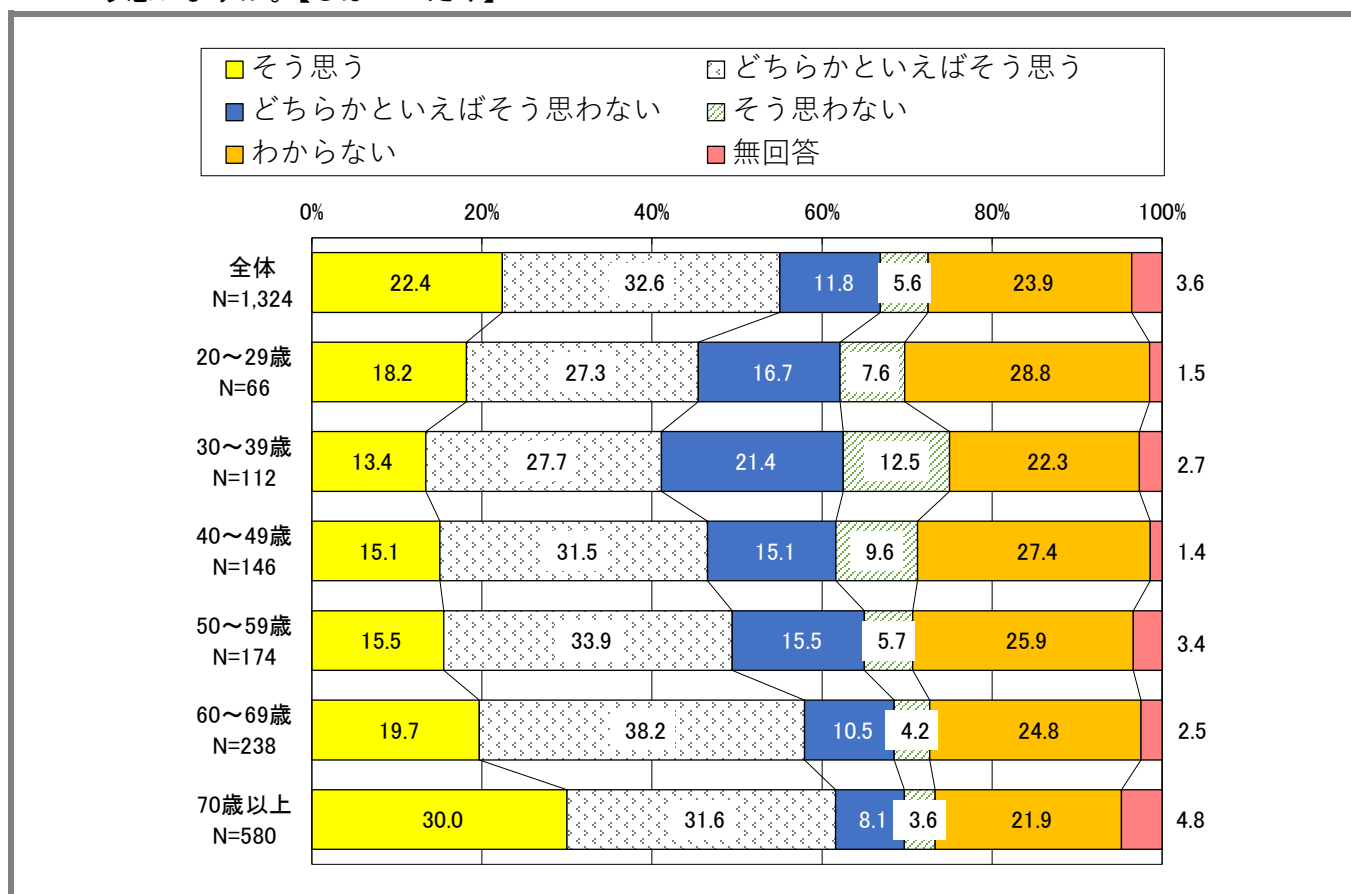
《年齢階層別クロス集計結果（上位9項目抜粋）》



● 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「身近なところでの相談窓口の充実」、「30～39歳」では「子育て支援の充実」、「40～49歳」と「60～69歳」では「身近なところでの相談窓口の充実」、「50～59歳」と「70歳以上」では「誰もが、安心して生活を続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備」が、それぞれ最も高い割合となっています。

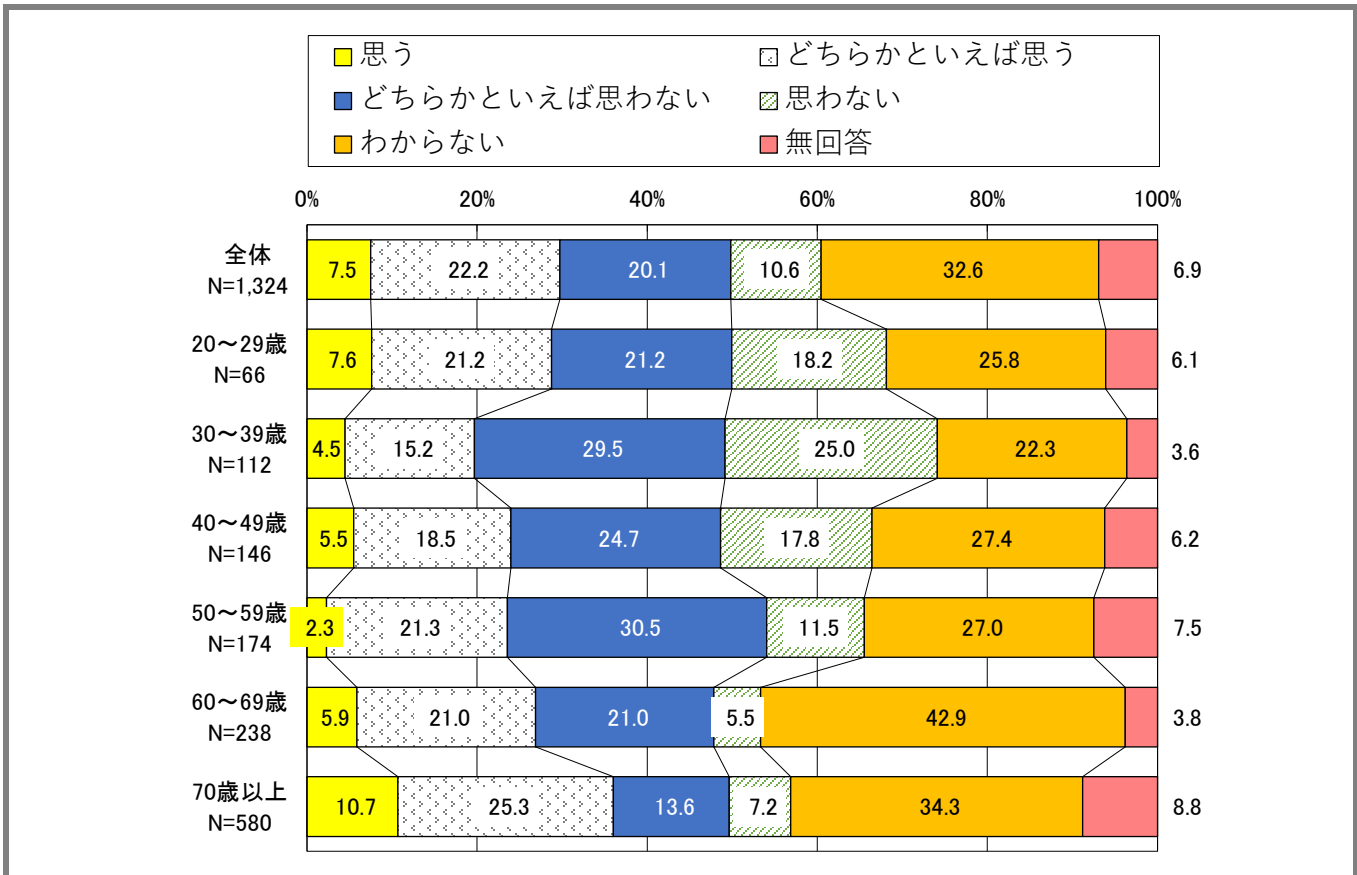
## Ⅶ. 再犯防止対策について

問31 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である。」という意見について、どう思いますか。【〇は1つだけ】



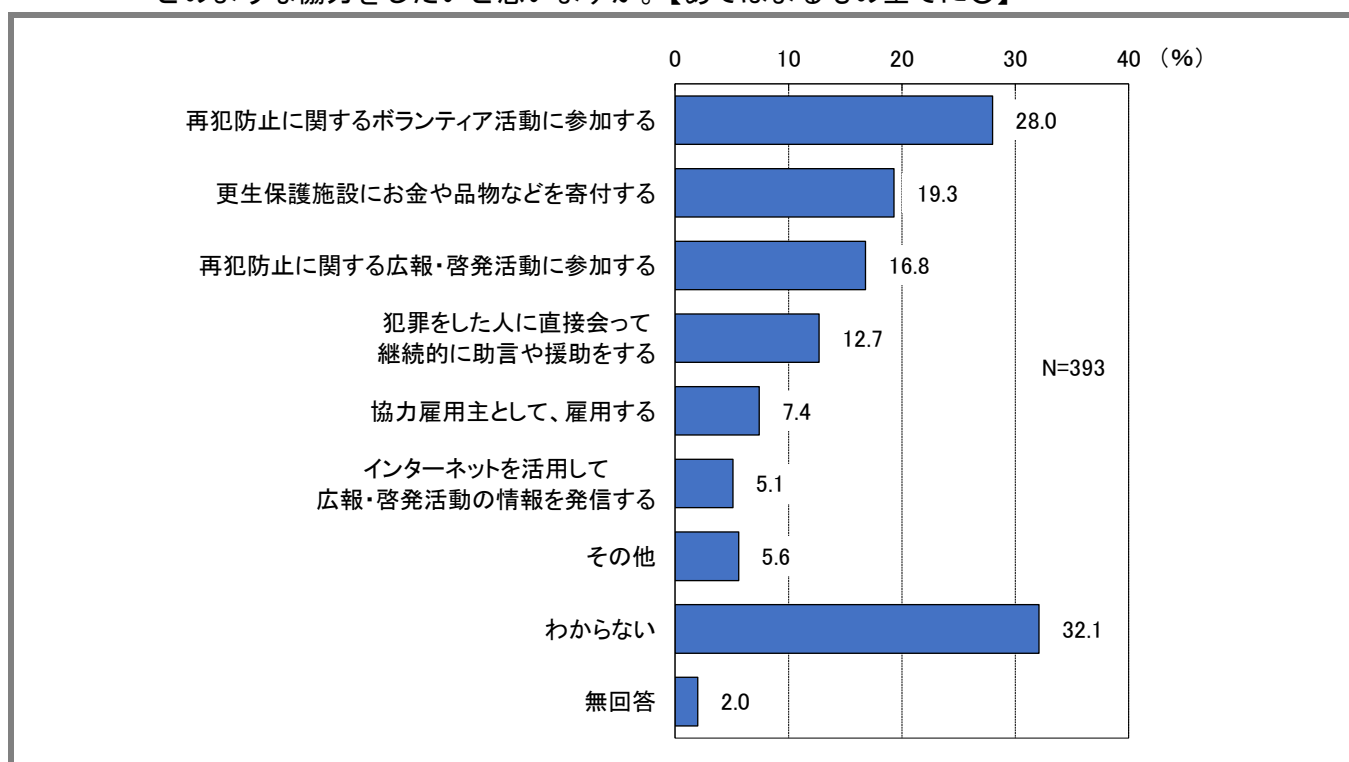
- 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である。」という意見について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は全体の55.0%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合17.4%を37.6ポイント上回っています。
- 年齢階層別に見ると、30歳以上では年齢階層が高くなるにつれて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が高くなっています。

問32 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。【〇は1つだけ】



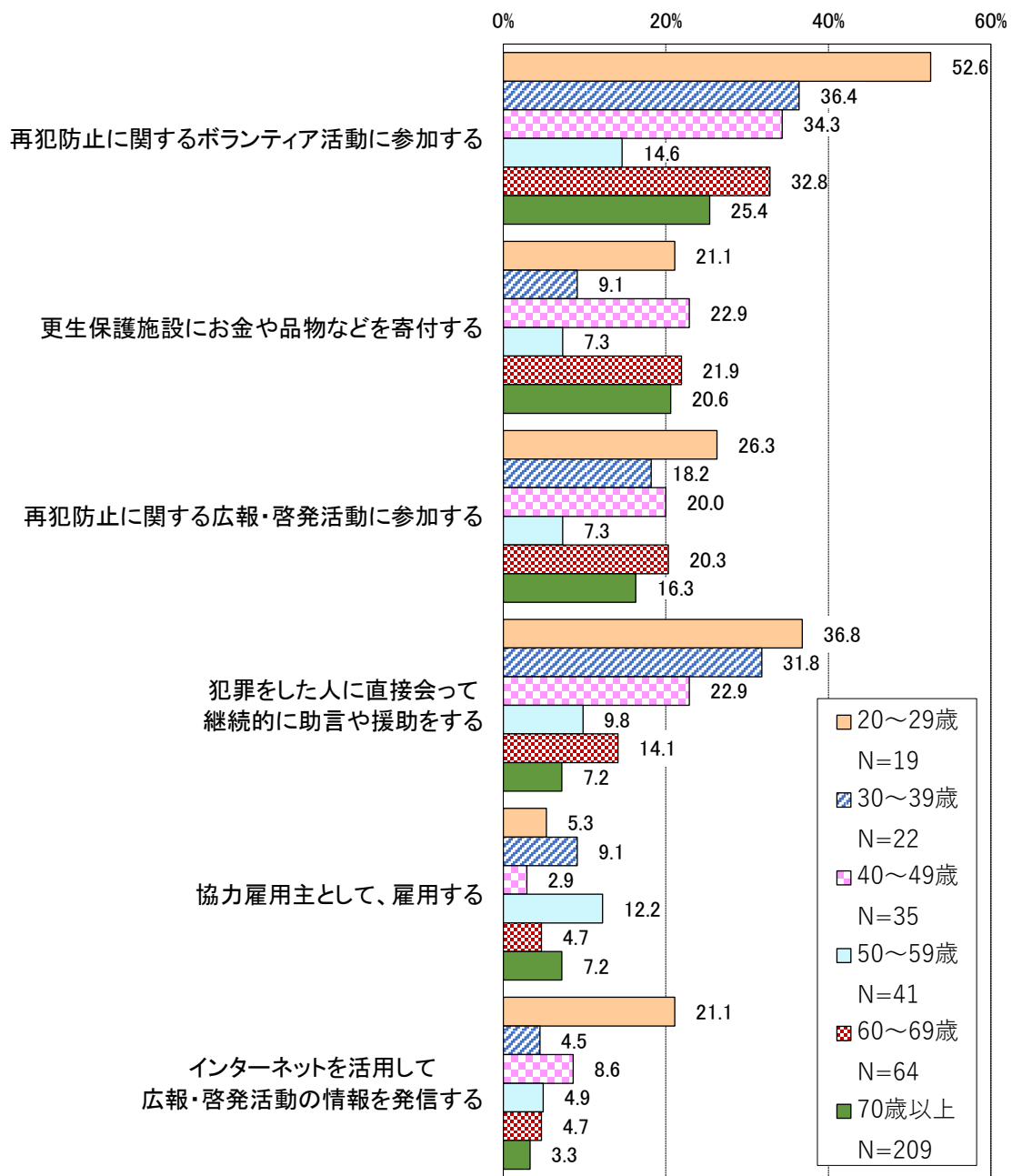
- 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人の割合と、「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した人の割合はどちらも3割と同じ割合となっています。
- 年齢階層別に見て、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人の割合と「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した人の割合を比較し、前者の割合が後者を上回っているのは60歳以上で、60歳未満はいずれの階層においても後者の割合が高くなっています。

問32-1 【問 32で、「1. 思う」「2. どちらかといえば思う」とご回答された方のみお答えください】  
どのような協力をしたいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



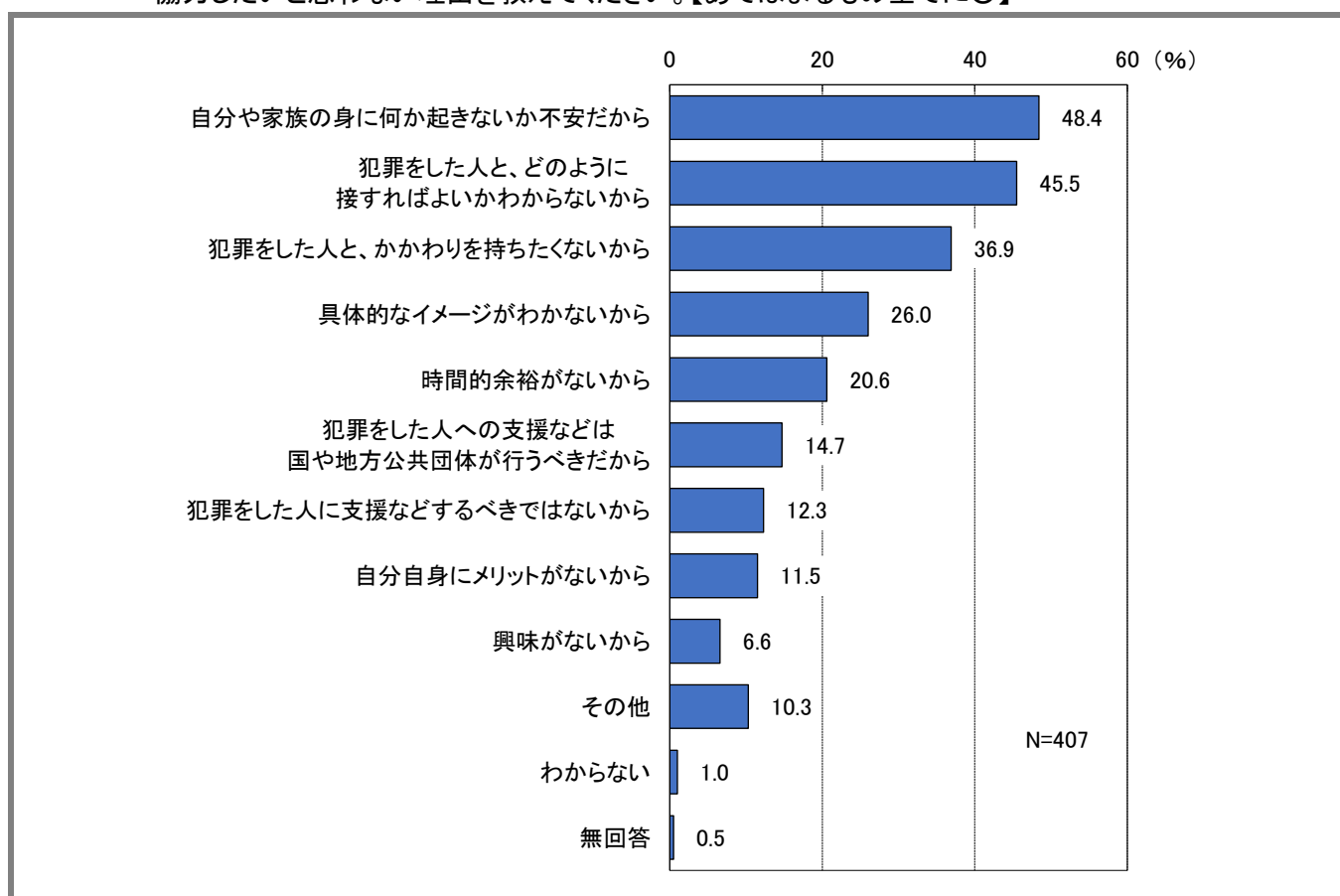
- 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人にどのような協力をしたいと思うかたずねたところ、「わからない」と回答した人が全体の32.1%と最も多くなっています。
- 具体的な協力内容については、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」と回答した人の割合が28.0%と最も多くなっています。

《年齢階層別クロス集計結果》



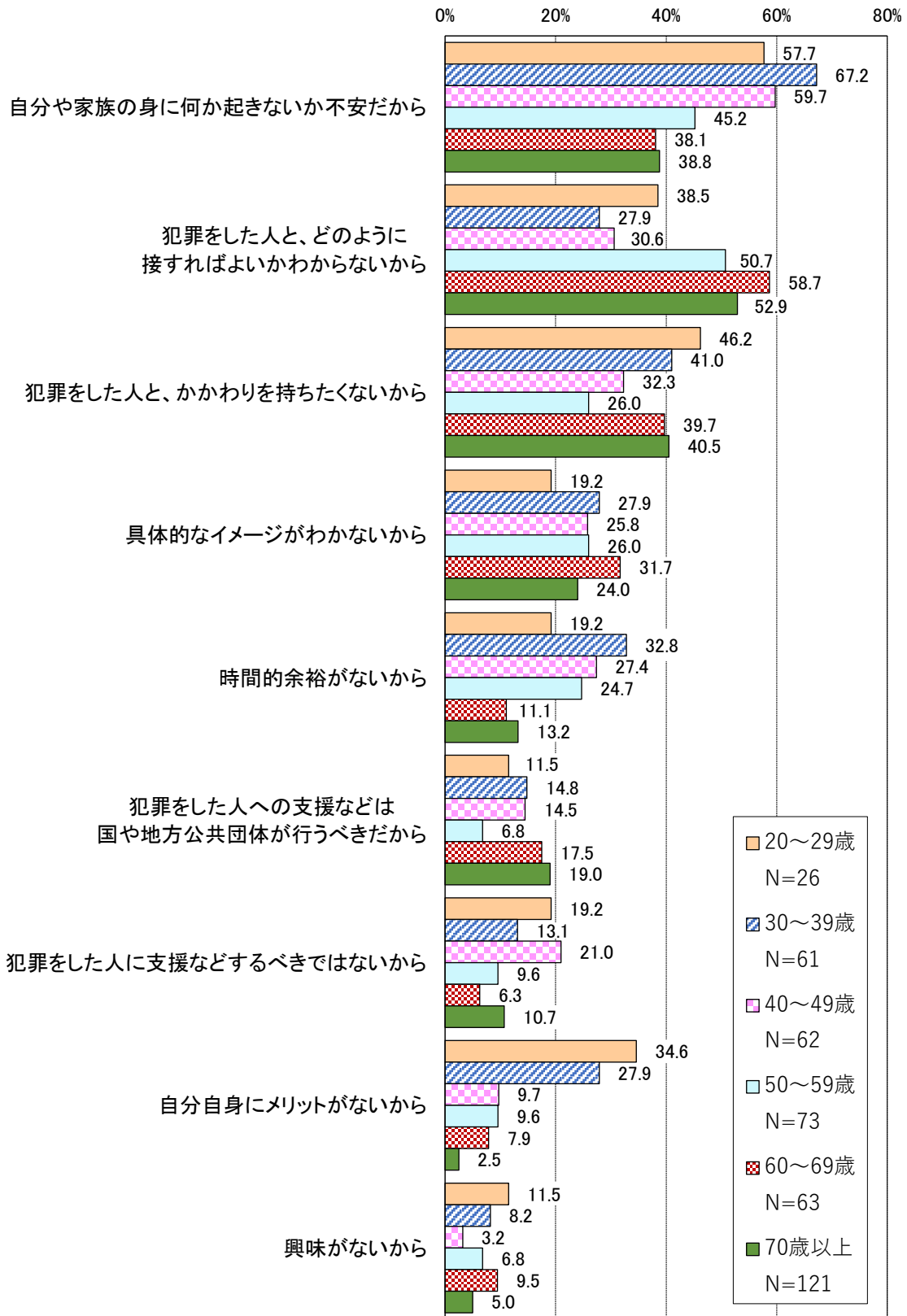
● 年齢階層別に見ると、「20～29歳」「30～39歳」では「犯罪をした人に直接会って継続的に助言や援助をする」と回答した人の割合は比較的高く、いずれも「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」に次いで高い割合となっています。

問32-2【問 32で、「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」とご回答された方のみお答えください】  
協力したいと思わない理由を教えてください。【あてはまるもの全てに○】



- 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した理由については、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」との回答をはじめ、犯罪をした人と関わることへの不安についての回答が多くなっています。

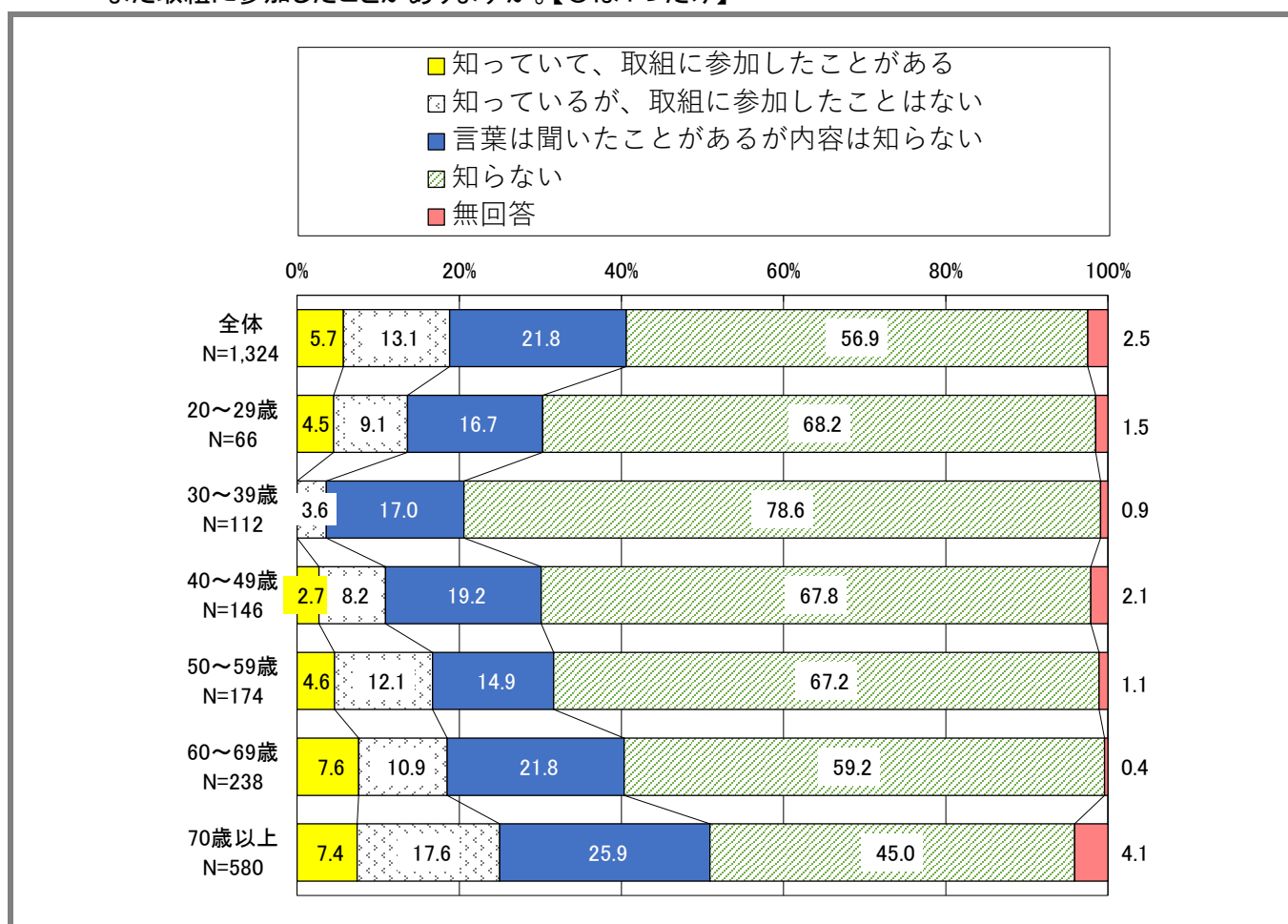
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ると、50歳未満では「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」、50歳以上では「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が、それぞれ最も高い割合となっています。



問33 再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」を知っていますか。  
また取組に参加したことがありますか。【〇は1つだけ】



- 「社会を明るくする運動」を「知っている、取組に参加したことがある」と回答した人の割合は全体の5.7%にとどまっており、内容は「知らない」と回答した人が78.7%と大半を占めています。
- 年齢階層別に見て、最も認知度が低かったのは「30～39歳」で、そこからは年齢階層が高くなるにつれて認知度も少しずつ高くなっています。

## 第3章 調査結果のまとめ

### I. 回答者の基本属性等について

今回の調査対象者は、居住地区別・男女別・年齢階層別の構成比が実際の住民基本台帳における構成比と同一になるよう無作為抽出を行っていますが、それぞれの回収率の違いにより、回答者の構成比は、男性より女性、60歳未満より60歳以上が実際の構成比よりも高くなっています。

これら回答者の基本属性の違いが集計結果に及ぼす影響は、設問の内容によっても変わってきますが、本報告書では、年齢階層別のクロス集計結果を中心に、男女別、居住地区別のクロス集計結果も紹介しながら、基本属性による意識や考え方等の異同を検証しています。

### II. 地域生活について

この項目では、近所づきあいの程度や考え方、困ったときに地域や隣近所にしてほしいことやしてあげたいこと、地域の暮らしやすさなどについて調査を行いました。

調査結果によると、「地域生活の中でおこる問題に対して、住民同士の自主的な協力関係が必要だと思うか」という問いに対し、76.5%と大半の人が「必要だと思う」と回答しています。また、近所づきあいの程度については、近所づきあいのあるとの回答が73.1%となっています。一方で若年層になるにつれて、近所づきあいをほとんどしていない、近所づきあいを必要だと思わないという回答の比率が高くなっています。

地域での困りごとに対してどんな手助けをしてほしいかという問いに対しては、「緊急時の手助け」が60.3%、「安否確認の声かけ」が53.7%、「話し相手や相談相手」が26.0%と続いています。また、逆に地域での困りごとに対してどのような手助けができるかという問いに対しては、「安否確認の声かけ」が67.1%と最も多く、次いで「緊急時の手助け」60.6%、「話し相手や相談相手」35.1%と続いています。地域における助け合いのニーズについては、きっかけや調整役などにより結び付けることができれば、地域で困りごとを解決できる可能性はあることがわかります。

また、高齢者や障がい者等が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、病院や買い物の利便性が課題となります。調査結果を見ると、居住地区によって、買い物や交通の便利さに関する満足度に違いが見られます。困りごとの手伝いでも、買い物や通院などの外出の手伝いを要望する割合は高くなっています。一方で、困りごとに対して手伝えることの回答においても買い物や通院などの外出に対する手伝いという回答は多くなっています。このようなことから、本市としてこのようなニーズに対する支援を引き続き検討していくことが必要であるとともに、地域の支え合いの中での解決に向けた取り組みも重要となると考えられます。

### Ⅲ. 地域活動への参加について

この項目では、地域の活動やボランティア・NPO活動への参加状況や、参加する際に支障になることなどについて調査を行いました。

調査結果によると、過去3年間に何らかの地域の活動に参加したことがある人は全体の42.9%となっています。そのうち自治会での活動は27.8%となっていますが、年齢別に見ると若年層に移行するにつれて割合が低くなっています。このような傾向を見ると、地域の活動の中心である自治会活動の推進のためには、若年層の自治会活動への参加の促進が課題であることが伺えます。

また、地域の活動でボランティアやNPO活動等に参加したことがある人は5.7%となっていますが、福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したことがありますかという質問に対しては19.5%の人が参加したことがあると回答しています。地域活動に参加する際の支障になることについて、「団体や活動内容の情報がない」「一緒に参加できる仲間がない」を挙げている人が22.4%いることや、福祉に関わるボランティア活動に参加したくないとの回答をした人の理由として「参加するきっかけがない」「一緒に参加する仲間がない」「活動に関する情報がない」を挙げている人が少なくないことを考慮すると、きっかけづくりや情報発信の強化などにより、地域活動への参加促進が期待できると考えられます。

情報発信については、ボランティア活動に参加するための窓口について知らないと回答した割合が89.0%となっていることから、周知方法が課題であることも浮き彫りになっています。

社会的孤立や排除をなくすためには、誰もが役割をもつ地域社会を構築することが求められており、地域活動への参加は、重要な要素であると考えられます。地域活動への参加促進のために、地域活動の中心となる担い手などの育成を進めることが必要です。

### Ⅳ. 福祉サービスについて

この項目では、日々の生活の悩みや不安の状況、相談先、福祉サービスの要望などの調査を行いました。

調査結果を見ると、悩みや不安の相談先は「家族・親族」、「知人・友人」といった身近な人が多く、続いて職場の同僚や近所の人など専門機関以外への相談も多くなっています。このような身近な相談を、必要に応じて専門機関へつなげるためには、相談窓口の周知なども重要な取り組みです。相談窓口を知っていますかという質問の結果を見ると、市役所や保健所といった総合的な窓口以外に、それぞれの専門機関の窓口についても認知されていることが伺えます。

本市への取組の要望についても、相談窓口の充実や福祉サービスに関する情報提供などの回答が上位を占めています。また、このような福祉に関する情報の入手については、ほとん

どの世代で市報やホームページから入手しているという回答が多いため、市報やホームページでのわかりやすい情報発信を進めていくことが重要です。

支援が必要な世帯に対して、早期に支援を行い、問題が重症化する前に解決策を模索していくことが、地域での孤独化や排除を防ぐことにつながります。民生委員・児童委員やボランティア、NPO団体等、地域において福祉活動に関わっている人への相談だけでなく、近隣住民による安否確認や身近なサロン活動での交流といった地域住民の相互の情報交換からも、それぞれ適切な相談窓口につながるような地域のネットワークづくりが必要になっています。

## V. 災害時の対応について

この項目では、災害時への備えの状況や避難場所の把握、自主防災組織の認知度などについて調査を行いました。

調査結果によると、災害に対する備えとして「水や食料などの非常食を備蓄している」と回答した人の割合は全体の44.9%となっています。これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災や本市も被災した平成28年の熊本地震、近年の県内の大雨・台風による浸水・土砂災害などを受けて防災意識が高まっている結果と考えられます。

一方で、地域の困りごとに対してどんな手助けをしてほしいかという問いに対して60.3%の人が「緊急時の手助け」と回答しているものの、災害に対する備えについて「近所同士で、いざというときの助け合いのための話し合いをしている」と回答した人の割合は3.9%と低く、「特に何もしていない」と回答した人も34.6%、自主防災組織が自分の自治会にあることを「知っている」と回答した人の割合も31.9%となっています。

市民一人ひとりが普段から食料・飲料をはじめ避難に必要なものを準備しておくことや、災害の種類に応じて適切な避難場所に避難できるようにハザードマップを確認しておくこと、もしもの時の近所への声掛けを相談しておくなど対策を準備しておくことが、災害への対策として求められています。

## VI. 福祉施策全般について

この項目では、福祉の充実に向けて、行政と地域住民の関係や地域福祉の充実を図るための施策について調査を行いました。

調査結果によると、「行政と地域住民の関係について家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべき」「行政も住民も協力し合い取り組むべき」といった回答が多くなっています。

本市では、高齢者、障がい者、子ども・子育て、生活困窮といった分野別にそれぞれ専門の窓口が相談支援に取り組んでいますが、各機関がそれぞれの範囲を対応するという仕

組みだけでは、中には取り残されてしまう人や世帯があるため、その隙間を埋める仕組みの構築が求められています。地域包括支援センター、障がい者相談支援事業所、子育て支援センター、生活困窮者自立相談支援センターなどの多機関連携により、様々な相談を受け止めるとともに、地域住民が抱える複合化・複雑化した課題（制度の狭間など）の解決を行うために、多機関の協働による包括的な相談支援体制の整備に向けて検討を行う必要があります。

## Ⅶ. 再犯防止対策について

この項目では、犯罪をした人の再犯防止のための社会づくりの必要性や社会復帰の活動への参加について調査を行いました。

今回の調査において、「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である。」という意見について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は全体の55.0%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合17.4%を大きく上回っています。これは、犯罪をした人を社会的孤立や排除の状態とすることは、再犯につながる可能性が高く、再犯防止のためには地域社会に受け入れることが必要であるとの考え方に一定の理解が得られているということだと考えられます。一方で、立ち直りに協力したいと「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した人は30.7%となっており、その理由として犯罪をした人との関わり合いに対する不安感や協力内容の具体的なイメージができないという回答が多くなっています。再犯防止のためには、このようなイメージを払拭し、身近にできる支援について広く広報していくことが求められています。

再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」については、調査の結果18.8%の人が知っている、21.8%の人が言葉は聞いたことがあるとなっています。

再犯防止の取組については、保護司会、更生保護女性会、地区社会福祉協議会をはじめ、更生保護に携わる多くの団体と連携しつつ、強調月間を中心に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする「社会を明るくする運動」に取り組む必要があります。

## 第4章 調査票

# 別府市の地域福祉に関する意識調査

### 【ご協力をお願い】

市民の皆様には、日頃から市政に関してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

近年、少子高齢化の進行、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加、孤立死、虐待など、多様な問題が増加しており、別府市もその例外ではありません。そのような中、誰もが住みなれた地域で、安心して暮らせるまちをつくるためには、地域住民が相互に支え合うしくみを共に考え、進めていく必要があります。

このアンケートは、市内にお住まいの20歳以上の方から3,000人を無作為に選び、調査票をお送りしています。地域における暮らしや地域福祉についてのご意見、地域福祉活動への参加意向などをお尋ねし、今後の別府市の地域福祉を推進するための貴重な資料とすることを目的としています。調査票に住所や氏名を書く必要はありません。ご記入いただいた調査票はすべて統計処理し、本調査以外の目的に使用することはありません。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、皆様のご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

令和3年11月

別府市長 長野 恭紘

### 【ご記入をお願い】

1. ご回答は、必ず宛名のご本人がご記入ください。何らかの事情でご本人のご回答が難しい場合は、ご家族またはご本人の日常のことをよくわかっている方がお手伝いください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に「○」をつけてください。「その他」にあてはまる場合には、( )内に具体的な内容をご記入ください。
3. 設問によってご回答いただく方が限られる場合がございます。ことわり書きや矢印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は次の設問にお進みください。
4. ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて11月29日（月）までにご投函ください。
5. ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

別府市市民福祉部 高齢者福祉課

電話：0977-21-1003 FAX：0977-22-2366

## 調査にご協力いただいているあなたご自身のことについて

統計処理上必要となりますので、もれのないよう、ご協力をお願いいたします。

問 1 あなたの性別をお答えください。【○は1つだけ】

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 2 あなたの年齢をお答えください。【○は1つだけ】（令和3年11月1日時点）

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 3. 40～49歳 | 5. 60～69歳 |
| 2. 30～39歳 | 4. 50～59歳 | 6. 70歳以上  |

問 3 あなたの職業をお答えください。【○は1つだけ】

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1. 会社員または公務員       | 4. 学生          |
| 2. 自営業（農林漁業を含む）    | 5. 無職（家事専業を含む） |
| 3. パート・アルバイト・フリーター | 6. その他（ ）      |

問 4 あなたの世帯構成をお答えください。【○は1つだけ】

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. ひとり世帯        | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 夫婦のみの世帯      | 5. その他（ ）         |
| 3. 二世帯世帯（親と子など） |                   |

問 5 あなたがお住まいの地区をお答えください。地区がわからない方は、封筒の宛名ラベルに記載しておりますので、それを見てお答えください。【○は1つだけ】

- |         |          |       |
|---------|----------|-------|
| 1. 中部   | 4. 青山、東山 | 7. 北部 |
| 2. 朝日   | 5. 鶴見台   |       |
| 3. 南、浜脇 | 6. 山の手   |       |

問 6 現在の場所での居住年数を教えてください。【○は1つだけ】

- |         |              |               |          |
|---------|--------------|---------------|----------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年以上10年未満 | 3. 10年以上15年未満 | 4. 15年以上 |
|---------|--------------|---------------|----------|

問 7 現在の場所に住み続けたいと思いますか。【○は1つだけ】

- |              |                |          |
|--------------|----------------|----------|
| 1. 住み続けたいと思う | 2. 住み続けたいと思わない | 3. わからない |
|--------------|----------------|----------|

## 地域生活について

問 8 あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。【○は1つだけ】

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 1. とても親しく付き合っている | 3. 付き合いはしているがそれほど親しくはない |
| 2. 親しく付き合っている    | 4. ほとんどもしくは全く付き合いがない    |

問 9 あなたの近所付き合いに対する考え方は、次のどれに近いですか。【○は1つだけ】

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| 1. 親しく相談したり助け合ったりするのは当然である |  |
| 2. 地域で暮らすためには必要であると思う      |  |
| 3. わずらわしいことが多いので、あまりしたくない  |  |
| 4. なくても困らないので、したくない        |  |
| 5. その他 ( )                 |  |

問 10 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域や隣近所からどのような手助けをしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ   | 7. 短時間の子どもの預かり   |
| 2. 話し相手や相談相手  | 8. 短時間の高齢者などの預かり |
| 3. 買い物の手伝い    | 9. 緊急時の手助け       |
| 4. 家事の手伝い     | 10. その他 ( )      |
| 5. 食事の差し入れ    | 11. 特にない         |
| 6. 通院など外出の手伝い |                  |

問 11 隣近所に、高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるもの全てに○】

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ   | 7. 短時間の子どもの預かり   |
| 2. 話し相手や相談相手  | 8. 短時間の高齢者などの預かり |
| 3. 買い物の手伝い    | 9. 緊急時の手助け       |
| 4. 家事の手伝い     | 10. その他 ( )      |
| 5. 食事の差し入れ    | 11. 特にない         |
| 6. 通院など外出の手伝い |                  |







問 15 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因となっていることはどんなことですか。【○は1つだけ】

1. 身近に団体や活動内容に関する情報がないこと
2. 身近に一緒に参加できる仲間がないこと
3. したい活動はあるが、家族や職場の理解が得られないこと
4. 活動する時間がないこと
5. 活動によって得られるメリットが期待できないこと
6. 全く興味がわからないこと
7. その他 ( )
8. 支障はない

問 16 ボランティア活動をするとしたら、何が動機になりますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 困っている人を助けたい
2. 地域や社会をよくしたい
3. 自分の技術、能力、経験を活かしたい
4. 新しい人と出会いたい
5. 新しく充実できる体験をしたい
6. 就職や進学に有利になるようにしたい
7. 自分のやりたいことを発見したい
8. その他 ( )

問 17 次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に、過去3年間に参加したことがありますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 児童福祉・子育て支援（託児・子育て相談や子育てサークル支援など）
2. 青少年健全育成（悩み相談、子ども会やスポーツ団体等への協力など）
3. 防犯（登下校時の子どもの見守り、防犯活動など）
4. 高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など）
5. 障がい者福祉（手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問など）
6. その他 ( )
7. 参加していない

問 18 今後、次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したいと思いますか。(現在参加している活動を継続する場合も含みます)【あてはまるもの全てに○】

1. 児童福祉・子育て支援(託児・子育て相談や子育てサークル支援など)
2. 青少年健全育成(悩み相談、子ども会やスポーツ団体等への協力など)
3. 防犯(登下校時の子どもの見守り、防犯活動など)
4. 高齢者福祉(声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など)
5. 障がい者福祉(手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問など)
6. その他( )
7. 参加したくない

→【問 18で、「7. 参加したくない」とご回答された方のみお答えください】

問 18-1 参加したくないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】

1. 福祉活動に関心がない	6. 参加するきっかけがない
2. 時間的に余裕がない	7. 家族等の理解・協力が得られない
3. 気恥ずかしい	8. 活動に活かせる知識・経験がない
4. 活動に関する情報がない	9. 健康上の理由でできない
5. 一緒に参加する仲間がいない	10. その他( )

問 19 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 活動に関する情報	6. 活動の場所や機会
2. ボランティア養成講座等の人材育成	7. 活動団体間の交流の機会
3. 活動資金の助成	8. 講演会やセミナー等による啓発
4. 活動に関する相談窓口	9. その他( )
5. ボランティアをする人と受け手とを結びつける調整役	

問 20 ボランティア活動に参加するための窓口を知っていますか。【○は1つだけ】  
また、「1. 知っている」とご回答された方は( )にその窓口をご記入ください。

1. 知っている( )	2. 知らない
-------------	---------



問 23 福祉に関する情報が必要なとき、どのように入手していますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 市報	3. 別府市Line	5. その他 ( )
2. 別府市ホームページ	4. 公民館等の掲示板	6. わからない

問 24 あなたが最適な福祉サービスを安心して利用するためには、別府市にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 相談窓口を充実し、適切な対応やサービス選択の支援ができる体制を整える
2. 福祉サービスに関する情報提供を充実する
3. 福祉サービスに関する苦情や事業者とのトラブル解決の支援体制を整える
4. 福祉サービスの内容を評価する仕組みを整える
5. 行政の情報公開を進める
6. 市民が福祉に関わる法律や制度を学習できる機会を増やす
7. 代理行為の制度の充実など福祉サービス利用者の権利を守る仕組みをつくる
8. その他 ( )
9. 特にない

## 災害時の対応について

問 25 地震や風水害などの災害に対してどのような備えをしていますか。  
【あてはまるもの全てに○】

1. 水や食料などの非常食を備蓄している
2. 避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている
3. 近所同士で、いざというときの助け合いのための話し合いをしている
4. その他 ( )
5. 特に何もしていない

問 26 あなたの地域における災害時の避難場所を知っていますか。【○は1つだけ】

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 27 あなたの自治会には自主防災組織があることを知っていますか。【○は1つだけ】

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 28 あなたは災害（地震や水害）発生時に避難することができますか。【○は1つだけ】

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 一人で避難することができる   | 3. 避難することは難しい |
| 2. 避難するには手助けが必要である | (理由: )        |

## 福祉施策全般について

問 29 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものは何ですか。【○は1つだけ】

- |  |
|--|
| 1. まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである       |
| 2. 福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いとにも取り組むべきである |
| 3. まず行政が実施し、できない場合に住民が協力していくべきである        |
| 4. 社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない    |
| 5. その他 ( )                               |
| 6. わからない                                 |

問 30 今後、別府市の地域福祉の充実を図るためには、どのような施策に優先的に取り組んでほしいと思いますか。【○は1つだけ】

- |  |
|--|
| 1. 自治会を基盤とした地域の支え合いのしくみの強化               |
| 2. ボランティアの育成と活動の促進                       |
| 3. 身近なところでの相談窓口の充実                       |
| 4. 福祉サービスに関する情報提供や案内の充実                  |
| 5. 誰もが、安心して生活を続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備   |
| 6. 認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な人への日常生活支援の充実 |
| 7. 住民や小・中学生への福祉教育の充実                     |
| 8. 人権を尊重する、人と人とのつながりを大切にすることへの啓発         |
| 9. いじめや虐待を防止するためのしくみづくり                  |
| 10. 子育て支援の充実                             |
| 11. その他 ( )                              |
| 12. 特にない／わからない                           |





【問 32で、「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」とご回答された方のみお答えください】

問 32-2 協力したいと思わない理由を教えてください。【あてはまるもの全てに○】

- |   |
|---|
| 1. 自分や家族の身に何か起きないか不安だから                       |
| 2. 犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから                      |
| 3. 犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから                |
| 4. 自分自身にメリットがないから                             |
| 5. 具体的なイメージがわからないから                           |
| 6. 時間的余裕がないから                                 |
| 7. 興味がないから                                    |
| 8. 犯罪をした人への支援などは国や地方公共団体が行うべきだから              |
| 9. 犯罪をした人に支援などするべきではないから                      |
| 10. その他（ <span style="float: right;">）</span> |
| 11. わからない                                     |

問 33 再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」を知っていますか。また取組に参加したことがありますか。【○は1つだけ】

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. 知っていて、取組に参加したことがある  | 3. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない |
| 2. 知っているが、取組に参加したことはない | 4. 知らない                |

問 34 最後に、別府市の地域福祉を進めるために必要な活動・アイデアや、その他ご意見・ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

～ ご協力いただき、誠にありがとうございました～

ご回答後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、11月29日（月）までにご投函していただきますようお願いいたします。

## 別府市の地域福祉に関する意識調査結果報告書

令和4年3月

---

◆発行 大分県別府市  
〒874-8511 大分県別府市上野口町1番15号  
事務局：高齢者福祉課 福祉政策係  
TEL 0977-21-1111(代)  
FAX 0977-22-2366

---